

THE PHILATELIST MAGAZINE

フィラテリスト

スタンペディア日本版機関誌

Magazine

2021

SPRING ISSUE
STAMPEDIA INC.



無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

30

フィラテリスト Magazine の読み方・使い方

当誌の位置づけ

フィラテリスト Magazine は無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社が発行する「スタンペディア日本版」の会員向け機関誌です。年会費を納めた会員には、冊子（フルカラー 約 160 頁）が、発行の都度郵送されるほか、「マイスタンペディア」（右図）より冊子到着前にダウンロードして閲覧していただくサービスを提供しています。 <http://my.stampedia.net>

冊子の提供サイズ

機関紙（通常号）は A5 判と A4 判を用意しており、年間を通じて予めご指定頂きます。特に指定ない場合は A5 判を購読するものとして取り扱います。年途中での A4 判へのサイズ変更は、差額のお支払が必要ですが承ります。

PDF の活用方法（見る）

ダウンロードした PDF は、パソコンやスマホに保存できます。一旦保存するとそれ以降はいつでも好きな時に PDF 版をご覧ください。

万一、ダウンロードした PDF が見つからなくなっても、会費を継続して支払っている期間は、入会以来全ての PDF を再度「マイスタンペディア」からダウンロードできます。

PDF 版は Adobe Reader 等の PDF 閲覧アプリでご覧頂くことを推奨いたします。ブラウザ（インターネットエクスプローラー等）での閲覧は不安定であり、勧めません。

PDF には目次がついています。目次表示機能付き PDF 閲覧アプリでは読みたい記事を簡単に探すことが可能です。

また機関紙の「目次」（原則として 4-5 ページ）で記事タイトルをクリックすると、読みたいページにジャンプします。

PDF の活用方法（印刷する）

ダウンロードした PDF は、個人の利用に限り、いつでも好きな時に繰り返し印刷することが許可されています。各号に用意された目次を参考にして興味ある記事を見つけ、印刷を行ってください。なお当誌では表紙を 1 ページ目としてページの割り付けを行っておりますので、印刷に指定するページ番号も目次のページ番号と一致しています。（ページ番号は各ページのフッタに表示しています）

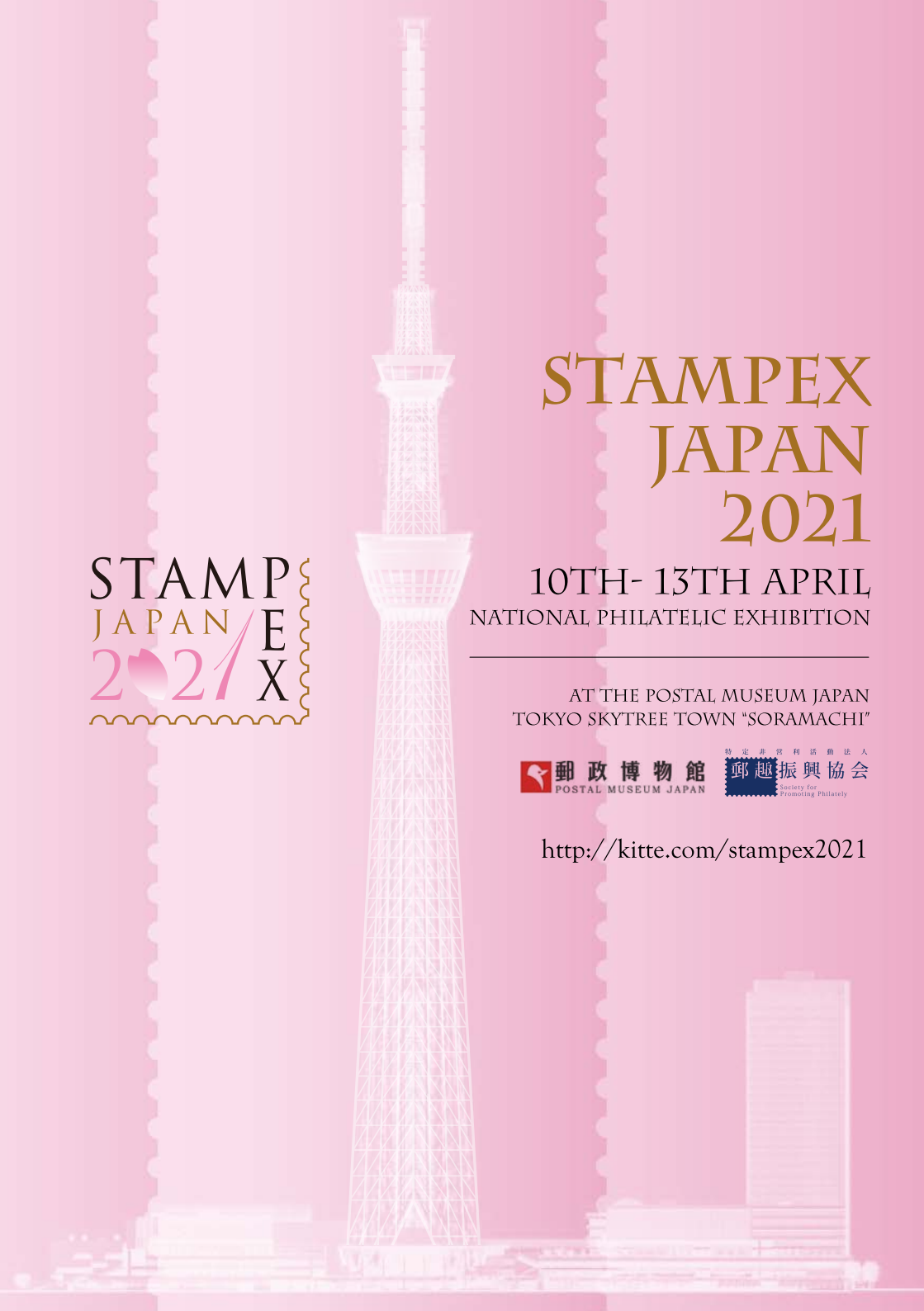
なお本誌 PDF は快適なダウンロードの為、ファイルサイズをコンパクトにしています。この為、弊社で製本してお届けする冊子と比較すると印刷結果のクオリティは落ちます。

当誌の編集方針

現代のフィラテリーは古今東西の幅広い収集対象に対して深く研究が行われると共に、収集方法も多岐に分かれています。このような幅広い興味・関心を満たす郵趣雑誌は、多くのページ数を持ち、掲載が特定の分野に偏らない存在であることが理想的です。

この理想を実現するために、フィラテリスト Magazine はページ数に制限の少ない PDF で閲覧されることを前提に編集しています。まだ新しい、このようなスタイルの郵趣雑誌を提供することにより、郵趣の世界に元気を与えたいと考えています。





STAMP
JAPAN
2021
EX

STAMPEX JAPAN 2021

10TH- 13TH APRIL
NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION

AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN
TOKYO SKYTREE TOWN "SORAMACHI"



郵政博物館
POSTAL MUSEUM JAPAN

特定非営利活動法人

郵趣振興協会
Society for
Promoting Philately

<http://kitte.com/stampex2021>

スタンペディア日本版機関紙



フィラテリスト Magazine

第30号

目次



当誌の読み方・使い方		2
目次		4
郵趣界重大ニュース		6
郵趣カレンダー		10
スタンペックスジャパン2021		12
国際切手展の開催動向		16
郷土の郵便の歴史展		17
第4回 南方占領地のフィラテリー展		18
スタンプショウ=ヒロシマ2021		19
サブスク購読できる郵趣雑誌の発行者等を応援するページ		20
私の発見・私の報告		
都内速達 丸速センサス update		22
イマキキ 今更聞けないフィラテリー		
(14) 鑑定書の有効性		24
(15) 広告付き葉書は、どうしてエコー葉書と呼ばれているの？		26
(16) 和桜半銭（カナなし）松田印刷と政府印刷の区別		28
Classic Philately 連載 クラシック切手		
(13) 英領ギアナ 1852 Waterloo Issue	吉田 敬	30
寄稿記事・郵趣論文		
南方占領地のフィラテリー（16）北ボルネオの消印タイプと郵便料金	守川 環	32
明治 4.12.6 の大阪→堺 25 里以内・重量便	高野 昇郎	42
江戸時代の国際郵便（2）慶応3年・プロシア王国	吉田 敬	46
書評 Dr. Paul Singer & the History of Shanahan Auctions, Five Years to the Top of the World and a Deep Fall	正田 幸弘	48
戦前の欧文櫛型 JAPAN 印（7） TOKIO 局・TSURUGA 局	杉山 幸比古	52
戦後の欧文櫛型印（7） C 欄 JAPAN・後発グループ（上）	神宝 浩	62
欧文機械印の中継印使用	吉田 敬	68
風景入通信日付印納品書について（続）	石田 徹	76
もう一つの「急速郵便」	安藤 源成	81
沖縄・復帰直後の郵便事情を考察する	佐藤 克彦	84

和欧文機械印トピックス	水谷 行秀 96
通常郵便物封筒の寸法	行徳 国宏 104
年賀切手「いぬはりこ」の精密スクリーン測定	永吉 秀夫 119
的一滴 日米コンビネーションカバー	安藤 源成 125
緑色紙片貼付の速達郵便	行徳 国宏 126
琉球の航空郵便（4） ハト航空 8円	木戸 裕介 132
切手コレクションの紹介 簡易書留郵便の歴史 1961-1999	町屋 安男 136
郵趣活動の記録	
郵趣振興協会 活動報告	郵趣振興協会 138
オークションレポート	
ジャパンスタンプオークションニアレポート	鯛 道治 142
スタンペディアオークション セールレポート・落札結果等	153
 会員からのおにより 	161
あとがき	163

広告一覧

フィラサーチ [P.61]
 スタンペディアオークション株式会社 [P.164]
 特非) 郵趣振興協会 [P.131, 141]
 Stampex Japan 2021 実行委員会
 [P.3, 19, 40, 45, 95, 107, 113, 130]

付録

付録 1	簡易書留郵便の歴史 1961-1999
------	---------------------

お詫びと訂正

機関紙 29 号 (2020-12-30) P.18、「IZUMI」381 号執筆者中

誤) 戦前・日本の鉱山荒川鉱山 (赤須 秋生)

正) 戦前・日本の鉱山荒川鉱山 (赤須 秋王)

機関紙 29 号 (2020-12-30) P.106、「和欧文機械印 最新使用 5 4 局一覧」中

誤) 日野 181

正) 日野 191

郵趣界重大ニュース

2020年12月～2021年3月

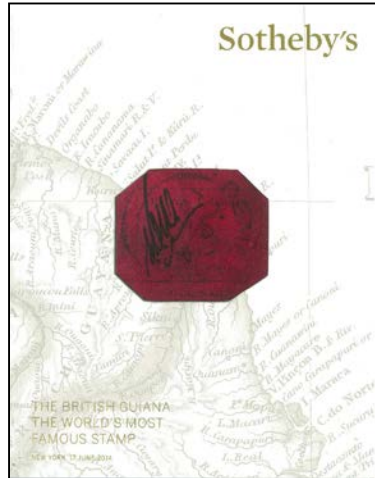
1 英領ギアナ 暫定1セント切手 6月にリセールへ、米サザビーズ

2014年に故 du Pont 氏の英領ギアナコレクションの競売がサザビーズ (NY, 6/17、右図参照) と D. Feldman (Geneve, 6/27) で行われました。この内、前者で取り扱われた「英領ギアナ 暫定1セント切手」が6/8にリセールされることになりました。

同切手を落札した、現所有者のステュアート・ワイツマン氏 (Stuart Weitzman, 1941年生 ファッションブランド創設者) は、この切手を7年間保有し、その間にニューヨークの国際展やモンテカルロの展覧会 Monacophil でも展示し多くの人に惜しみなく観覧の機会を提供することにより、一気に収集家として有名になりました。なお、その他の切手は持っていない為、競争展へは参加しませんでした。

2014年の落札値は948万ドルでした (本誌第4号、2014参照) が、オークションを主宰するサザビーズは今回もほぼ同じ金額を予想しているとコメントしています。また、今回のセールでは、合わせて1918年発行の Inverted Jenny のプレート番号付きブロックも競売される予定で、郵趣界だけでなく一般への報道もおそらく予想される為、フィラテリーに注目が集まる機会になることが予想されます。

前回のオークション後の情報発信では、「香港在住者が telefonbidd で買った」とか「(収集用ではなく) 投機品として購入された」などの誤報が相継ぎました。正確に報道できたのは、スタンペディア以外では鳴美だけでしたが、世界のトップオークション会社との繋がりを考えればこれは仕方ないことなのかもしれません。当誌は、煽ることなく正確な報道を心掛けておりますので、誰が買ったか必ずしも早期に報道できないとは思いますが、次号でわかる範囲で報道できればと考えています。



サザビーズオークションカタログ2014.6



1918 Inverted Jenny プレートブロック

2 独ハウイド社 事業中止へ

1月末、独ベルリンの郵趣文具製造業 Hawid Hans Widmaier GmbH (ハウイド社、1945年創業) は、2021年6月30日をもって事業を停止するリリースを発表しました。郵趣文具に対する需要が減少する中、高齢化したオーナーが事業継承ではなく事業中止を選択したものです。ハウイド社の代表的製品は、ポリスチレン製の切手用マウントで、フィラテリストの中には、社名の一部

もっとも、郵便関連企業は、製造業であれ販売業であれ、無闇な事業継続を図ることが是でないケースも多く、今回のオーナー家の様に存命中にスマートな判断をできない企業も今後は出てくるのではないかと危惧しています。

米国は、2021 年 1 月 1 日の国内法 STOP Act の施行に伴い、手書きラベルで差し出された一部の郵便物について受け取りを拒絶するようになりました。この場合、当該郵便物は、返送理由を明示せず差出人戻しとなります。

米国への郵便は、昨年春以降、EMS が送れませんが、これに加えて、本年 4 月から第 4 地帯が創設されるなど、郵便史としてもトピックスが多く面白い分野となっています。

[illegible]

7

4 74年ぶりに前島密 以外の意匠の1円切手が発行されることに

日本郵便は1月28日に、同社キャラクターの「ぼすくま」を描くグリーティング1円切手(50面シート、シール式)を4月14日から、200万シート発行することを発表しました。報道画像を見る限り、製造は蘭エンスケデ社(JOH ENSCHEDE)です。

発表にあたり記者会見が行われ(1)新聞投稿を参考に新切手発行を検討した説明を行ったこと、および(2)1円切手の意匠は1947年以来、三四半世紀近く前島密以外が用いられなかったことが説明されました。

報道する側にとり、この説明は綺麗なストーリーを立てやすかった為、複数の媒体で報道され、収集家以外の層に関心を持ってもらう機会となりました。

もっともこのストーリーは綺麗すぎて本当かどうか疑わしく感じています。なぜならば、50面シートの1円切手の販売価格は50円でしかなく高コストであり、また、発行数がわずか200万シートでしかないからです。

あくまで一時的に発売されるグリーティング切手であり、発行数を限定しない普通切手とは異なる性格の切手です。本切手を発行する動機を聞く限りは、利用者の為に1円切手を常に2種類の意匠から選べる様にするということなので、売り切れた時にどれくらいの間隔で増刷もしくは新しい1円グリーティング切手を発行するか次第で日本郵便の本心がわかれると思います。



5 郵便切手類模造取締法違反で、4人書類送検

警視庁保安課は、1月28日に、郵便切手類模造取締法違反の疑いで、富山市の男性会社員(56)さいたま市の男性会社員(24)、青森県弘前市の無職男性(62)、大阪市の女性パート従業員(44)の4人を書類送検しました。

報道によれば、4人の中で最も模造切手を販売したのは、さいたま市の男性会社員(24)で、最近3年間で約6,000枚を売り、約470万円をえたとのこと。また、富山市の男性会社員(56)の手口は、「切手の表面に洗剤を塗り図柄を落とし、カラーコピー機で模造品の図柄を複写する」等と紹介されていました。

この報道に溜飲が下がる思いをされた方もいらっしゃると思いますが、フィラテリーにおける偽物のリスクは何も解決しておらず、むしろ高まってしまったのが現状です。

というのは、本件が「書類送検」だったことは、被疑者の身柄を拘束する「逮捕」「勾留」までは必要ないと警視庁が判断したことになるからです。そう考えると、容疑が詐欺ではなく、罰則が一年以下の懲役又は5万円以下の罰金と比較的小さい「郵模法」だったことに考えが及びます。

「詐欺罪」の構成要件は難しいのですが、ネットオークションで偽物をつかまされた場合にも適用されないという事例ができてしまうと、今後類似事例があった場合にも、詐欺にならない可能性が高くなります。

我が国における最大の切手のマーケットプレイスは、オークション会社ではなくヤフー株式会社の運営する「ヤフオク」ですが、「郵模法」の範疇にない使用済やカバーの偽物は、現在も出品されています。ベテランから初心者まで「ヤフオク」の利用は好まれている為、この傾向は今後とも続くと考えられ、収集家にとっては目利きの能力は、より必要とされています。

6 飲食を伴わない郵趣催事は、政府の要請する特別な対応を満たして、ほぼ復活

第27号以来、毎号取り上げている、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に伴う国内の郵趣催事の記録を掲載します。

1月7日より、首都圏の1都3県に緊急事態宣言が発出されました（1月13日に7府県に追加で宣言発出）が、郵趣団体・法人の開催する催事の内、飲食を伴わないものについては、政府の要請に従い、感染リスクの高い場面に絞り効果的・重点的な対策が徹底されるようになりました。

これらの対策にはコストが余計にかかりますが、対応できると判断した催事主催団体は、人数の上限や収容率、飲食の制限の徹底などを徹底した上で、社会経済活動を幅広く止めない努力をしていると感じます。

もっともこれら催事への、個人の参加・不参加はそれぞれが個別に判断することです。また大事なことは、開催団体の指定する感染対策の対応に従うことで、それが守れない者に対して入場拒否を含む厳しい制限を伴うことを各団体とも言明しています。節度ある対応が大切です。

時期	展覧会、WEB セミナー等	即売会・フリマ・例会	五大オークション+ナルミ
12月	14. 郵博 特別切手コレクション展、2020年度唯一となる「第3回南方占領地のフィラテリー展」を開催 23. 南方占領地切手コレクターズクラブ、作品解説のWEBセミナーを開催 25. 郵趣協会、スタンプショウ2021の開催を発表。	5. ジャパンスタンプ、大阪駅前第3ビル切手バザールを再開 26. 切手市場、年末のフリマを開催 年末 郵趣協会、新春交歓会(1/9,11)の中止を発表	
1月	1. 郵趣振興協会、4/10-13に開催予定の「スタンベックスジャパン2021」の出品者一覧を発表 31. 日本国際切手展 PHILANIPPON 2021のエントリーが同日を持って締め切られる。(アクセス通知は、4月15日までに行われるとのこと)	9. 本年最初の催事である「切手市場」「貨幣・切手大収集まつり」が、政府要請の特別な対応を満たして開催される。	9. 「スタンベディアオークション」が本年最初のフロアオークションとして開催。17日開催のタカハシスタンプ、31日開催の日本フィラテリックセンター含めて、3社とも好調な流通。
2月	5. 切手の博物館（目白）ミニベックスを再開	27-28 本年初の大阪第3ビル駅前切手バザール開催。	9. JPS オークションが、本年最初のオークションをメールセールに変えて開催。 27-28 ジャパンスタンプが、本年最初のフロアオークションを開催。最盛期の7割程度の入場者数まで回復。
3月	6. 切手の博物館（目白）3月のミニベックスを全て中止（4月より全て再開）	7. 切手市場、出店システムを改正。より接触の少ない形に。 13. 名古屋切手フリマ、本年初のフリマを無事開催。	～4月上旬 JPS オークションが533回公開セールのカタログを発表予定。

番外編 日本郵便、楽天株式会社に1500億円出資。8.32%の第4位株主に。

3月12日に日本郵便は、楽天株式会社への第三者増資に応募した事を発表しました。都内在住で楽天の株式を所有するフィラテリストに匿名を条件に感想を伺ったところ「俺の持ち分下がるけど、携帯電話に手を出してから悪化してきた財務状況が改善して時価総額が上がればOKでは？日本郵便に対するDX指導は、切手や消印の廃止に繋がる可能性があると思う」とのこと。

郵趣カレンダー

2021 年 3 月中旬以降に開催される郵趣イベント

今後予定されている催事は、季節・時期・地域を問わず急遽中止・変更される可能性があります。
ご来場にあたっては、各主催者が提供する一次情報（ホームページや代表電話）を確認の上、お越しください。

国際郵趣連盟の規則に基づいて審査が行われる競争切手展

開催日	切手展名称	会場	分類	出品 枚切
2021/4/10-13	スタンベックスジャパン 2021	郵政博物館（押上・スカイツリー）	日	締切済
2021/6/25-27	大 71 回全日本切手展	すみだ産業会館 8 階展示場（錦糸町）	日	4/30
2021/8/25-30	PHILANIPPON 2021	パシフィコ横浜 B・C ホール（横浜）	世	締切済
2021/11/5-7	JAPEX 2021	都立産業貿易センター台東館（浅草）	日	未発表
2021/11/9-13	CAPE TOWN 2021	International Convention Center（南ア、ケープタウン）	世	未発表
2022-2/19-26	LONDON 2022	Business Design Center（英、ロンドン）	世	締切済
2022-3/31-4/3	HUNFILEX 2022	ハンガリー、ブダペスト	世	未発表
2022/4(予)	スタンベックスジャパン 2022	郵政博物館（押上・スカイツリー）	日	未発表
2022/5/6-10	TAIPEI 2022	Taipei World Trade Center（台湾、台北）	ア	締切済
2022/5/18-22	HELVETIA 2022	スイス、ルガーノ	世	未発表
2022/8/4-9	INDONESIA 2022	The Indonesian Parliament Complex（インドネシア、ジャカルタ）	世	締切済
2022/9/8-11	MELBOURNE 2022	Caulfield Racecourse（豪、メルボルン）	ア	未発表
2023/5/25-28	IBRA 2023	Messe Essen, Hall 1+2（独 エッセン）	世	未発表
2026/5/23-30	BOSTON 2026	Boston Convention and Exhibition Center（米ボストン）	世	未発表

分類世：世界切手展 ア：アジア国際切手展 日：日本の全国切手展

一般切手展

開催日	地域	切手展名称	会場
2021/4/23-25	東京	スタンプショウ 2021	都立産業貿易センター台東館
2021/5/8-16	東京	故郷（ふるさと）の郵便の歴史展	郵政博物館
2021/6/12-20	東京	第 4 回南方占領地フィラテリー展	郵政博物館
2021/12/28-2022/1/11	東京	富士鹿切手発行百年記念展	郵政博物館

※郵政博物館の開場時間は 10:00-17:30 ですが、3/1 現在 10:30-16:30 に短縮されています。感染症の影響で今後、変更される可能性がありますので、ご来場にあたってはホームページでご確認ください。なお、いずれの場合も最終入場時刻は閉館時刻の 30 分前です。

※郵政博物館で開催される切手の展初日の開場時刻は 13:00 になるケースがあります。ホームページでご確認ください。 <http://kitte.com/>

今後予定されている催事は、季節・時期・地域を問わず急遽中止・変更される可能性があります。
ご来場にあたっては、各主催者が提供する一次情報（ホームページや代表電話）を確認の上、お越しください。

主要なオークション

開催日	主催者	回	会場
3/21	タカハシ・スタンプ・オークション	654	タカハシスタンプ
3/28	日本フィラテリックセンター	786	大阪駅前第二ビル 15 階
4/18	タカハシ・スタンプ・オークション	655	タカハシスタンプ
4/24	JPS オークション	533	都立産業貿易センター台東館
5/1	スタンペディアオークション	17	綿商会館
5/16	タカハシ・スタンプ・オークション	656	タカハシスタンプ
5/25	スタンペディアオークション 2021 年春の文献セール		メール
5/26	日本フィラテリックセンター	787	メール
5/29-30	ジャパンスタンプオークション	117	大阪駅前第三ビル 17 階
6/20	タカハシ・スタンプ・オークション	657	タカハシスタンプ

* メールオークションとして開催される場合は、開催日が入札締切日となります。

* 当社関連会社が提携するスタンペディアオークション への出品締切は下記の通りです。

第 18 回セール：2021/4/15、夏の文献セール：2021/5/15

切手フリマ・即売会

開催日	地域	名称	回	会場	開催時間
3 月 13 日	名古屋	名古屋切手フリマ in 大須	7	第 1 アメ横ビル 4F	10:00-16:00
4 月 3 日	東京	切手市場	193	綿商会館	9:00-17:00
5 月 1 日	東京	切手市場	194	綿商会館	9:00-17:00
5 月 29-30 日	大阪	大阪駅前第3ビル切手バザール	67	大阪駅前第3ビル 17 F	10:00-17:00
6 月 5 日	東京	切手市場	195	綿商会館	9:00-17:00
6 月 5 日	名古屋	名古屋切手フリマ in 大須	8	第 1 アメ横ビル 4F	10:00-16:00

綿商会館：東京都中央区日本橋富沢町 8-10 第 1 アメ横ビル：名古屋市中区大須 3-30-86

主なオンライン郵趣例会

切手サークル名	代表者	使用アプリ	参加費用	オンライン例会開催日
日本切手研究会	横山 裕三	ZOOM	無料	第 2, 4 日曜日 21 時 3/14, 3/28, 4/11, 4/25 5/9, 5/23, 6/13, 6/27
昭和切手研究会	斎 享	ZOOM	無料	第 3 日曜日 21 時 3/21, 4/18, 5/16, 6/20
外国切手研究会	榎原 晃二	ZOOM	無料	毎週土曜日 20 時 3/6, 13, 20, 27 4/3, 10, 17, 24 5/1, 8, 15, 22, 29 6/5, 12, 19, 26
南方占領地切手コレクターズクラブ	守川 環	ZOOM	無料	第 4 水曜日 20 時 3/24, 4/28, 5/26, 6/23

全国切手展 スタンペックスジャパン2021

スタンペックスジャパン2021 実行委員会

展覧会の概要

名称：スタンペックスジャパン2021

会期：2021年4月10日(土)~13日(火) [4日間]

会場：郵政博物館（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：100 フレーム

主催：(特非) 郵趣振興協会 / (公財) 通信文化協会（郵政博物館）

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティブリンティング社、切手市場、一般社団法人 全日本郵趣連合、株式会社鳴美、公益財団法人 日本郵趣協会

毎日の開場時間

4月10日(土) 11:00-16:30

4月11日(日) 11:00-16:30

4月12日(月) 11:00-16:30

4月13日(火) 11:00-16:30

※最終入場時刻は閉場時刻の30分前

主催者・審査委員長からのご挨拶

郵政博物館長 藤本栄助（公益財団法人 通信文化協会）

昨年は新型コロナウイルス感染症の流行の状況に鑑み、残念ながら「STAMPEX JAPAN 2020」の展示会は中止となりました。今回、新たな展示会のかたちを模索しつつ、「STAMPEX JAPAN 2021」を開催できることを主催者の一人として嬉しく思っております。

郵政博物館は郵政の歴史研究とそれに伴う展示を中心に活動を行ってまいりましたが、郵趣分野についてはあまり積極的には行っていませんでした。こうして新たな国際展準拠の全国切手展を郵政博物館にて開催できること、皆様の作品を一堂に展示できることを何よりも喜ばしく思います。

至らない部分もあるかと思いますが、この「STAMPEX JAPAN」が皆様に愛されるよう努力していきたく思いますので、よろしくお願い申し上げます。



今後予定されている催事は、季節・時期・地域を問わず急遽中止・変更される可能性がございます。ご来場にあたっては、各主催者が提供する一次情報（ホームページや代表電話）を確認の上、お越しく下さい。

スタンペックスジャパン2021 審査委員長 佐藤 浩一

PHILANIPPON 2021 の開催決定を契機に、「スタンペックスジャパン」は国内収集家の出品作品を国際的に通用するよう啓蒙することを目的に企画されました。審査はFIP登録審査員によるものとし、FIP基準で審査される全国切手展として位置づけられており、クリティークを通して詳細なアドバイスを出品者に還元することとしています。昨年の開催は新型コロナウィルス感染拡大の影響を受け残念ながら中止されましたが、今年は十分に感染予防の対策を取りながら開催できるものと期待しています。

新型コロナの世界的な蔓延の影響を受け、昨年開催を予定していた国際切手展はすべてが中止・延期されてしまいました。皮肉にも一昨年6月に武漢で開催された世界切手展以降の開催が無く、この次に開催される世界切手展がPHILANIPPON 2021 になりそうな雲行きです。

新型コロナの影響で海外ではバーチャルでの切手展の開催も計画されていますが、切手展の醍醐味はやはり実際に現物を展示し、審査員が展示作品を詳細に審査し、展示フレームを前に同好の方々と交流することにあります。PHILANIPPON 2021 に出品を予定されている皆様には「スタンペックスジャパン2021」を有効に利用していただき、FIP登録審査員による世界展スタンダードでのクリティークを受け、必要であればPHILANIPPON 2021 出品作品の最終調整を行う一助となるようお願いしております。「スタンペックスジャパン」審査チームの目標は、出品作品が国際展でも同レベルの評価を得られるよう指導させていただくことです。是非積極的に「スタンペックスジャパン2021」にご出品ください。



スタンペックスジャパン2021 実行委員長 安藤 源成

昭和20年代には切手蒐集は「趣味の王様」として、頭の良い高学歴で経済的に裕福な知識人が成す趣味と言われていましたが、30年代に「数年後に切手は値上がりし儲かる」という風評が広まり多くの方が郵便局に記念切手の購入に走り、40年代にピークを迎え、各地で切手展が開催され全盛を迎えました。

その後バブルが終わるのを境に切手蒐集は衰退の一途を辿り平成を迎えました。郵趣界はゼネラル蒐集から専門蒐集に移行し、切手の展覧会が一般の切手集めの庶民から見放されましたが残った専門コレクターは世界各地で開催される国際切手展で活躍するようになりました。

日本の国内切手競争展には「金」から「佳作」まで上下が決められています「銅」より「銀」以上が多い。かつてはその逆でした。他界の展覧会、例えば「日展」「院展」「日本伝統工芸展」等は入選することが難しく「賞」は特別賞のみです。コレクターから切手展に出品が少く、出品者が固定化しているのも見逃せません。国際展規則に完全に準拠できない展覧会については、もっと世間を見習うべきではないでしょうか？スポーツ界の様に種目別にしても良いのでは？とも思います。

「スタンペックスジャパン」は小規模の高尚な展覧会として展示を許される事が難しく、許されれば名誉であり、その作品の蒐集品内容、展示方法等を国際展に出品経験のある先輩方からアドバイスして戴き、国際展に出品する資格を与えられる展覧会です。この日本の「国際展の登龍門」を経て、出品者には、世界の郵趣界に羽ばたいて戴きたいと思います。若い方々の御活躍を懇願いたします。



スタンペックスジャパン2021 展示作品一覧

No	部門	Fr.	出品作品名称	出品者名	過去の賞歴
1	伝統郵趣	8	France 1849-1862	有吉伸人	国際 G
2		5	新昭和切手	飯澤達男	国内 G
3		5	Japan Definitives 1899-1908	内海省一	国内 V
4		5	Japan Definitives 1937-1940	菊地恵実	国際 V
5		5	South Korea 1945-1947	木戸裕介	国内 V
7		8	Japan Definitive Issues 1914-1925	丹羽昭夫	国際 G
8	郵便史	8	Early Cancellations of MIMASAKA, BIZEN, BICCYU-Han in OKAYAMA prefecture	安藤源成	国際 LV
9		5	配達証明・到達証明郵便	行徳国宏	国内 LV
10		5	Postal History of Transvaal during the Second Boer War	内藤陽介	初
11		8	朝鮮半島に於ける日本の消印 (1876-1945)	中野健司	国内 LV
12		5	大清国家郵政郵便史 1897-1912	藤本博嗣	国内 LS
13		5	郵便の効率化と機械化	水谷行秀	国内 G
14		5	Overseas Printed Matter 1877-1949	森田美佐子	国内 V
15		5	郵便に見る昭和 1937-1946	山本幸治	初
16	ステーショナリー	8	POSTAL CARDS OF JAPAN 1873-1874	斎享	国際 LV
17		8	Postal Stationery of Japanese Occupation Naval Occupied Area	守川環	国内 LG



スタンペックスジャパン 2021 実行委員会は、競争切手展の運営に注力するため、目録の発行については、協賛団体のスタンペディアプロジェクトに委託しています。

スタンペディアプロジェクトでは、全国切手展の開催の度に、フィラテリストマガジン号外「競争切手展参観ガイド」を発行してきました。

同様の取り組みをスタンペックスジャパン 2021 についても、同社の費用負担で行い、かつ印刷した目録(左図 カラー 84 ページ予定)の内、1,000 部を当実行委員会にご納品いただく協賛をいただけることになっております。

この目録につきましては、会期中のご来場者先着 1,000 名に対してお一人一部、無料で配布いたします(予定)。どうぞお楽しみになさってください。

スタンペックスジャパン2021の審査員が決定しました。

本展覧会の作品募集要項第2条（審査体制）に従い、審査員が決定しましたので、ご紹介します。



審査委員長 佐藤 浩一



審査員 設楽 光弘



審査員 山崎 文雄



審査員 山田 廉一

佐藤 浩一（さとう こういち）

昭和 31 年（1956）宮城県生まれ、神奈川県在住

1964 年の東京オリンピック記念切手を機に収集を開始し、学生時代よりイギリス、タスマニア、アルゼンチン、ハイデラバードを収集。1997 年に FIP 登録審査員となり、現在は伝統収集、郵便史、文献部門の審査員資格を有す。

設楽 光弘（したら みつひろ）

昭和 27（1952）年、群馬県前橋市生まれ

小学校 3 年より収集を開始。記念切手収集を経て学生時代より小判切手、上野国郵便印の収集を開始する。2004 年より FIP 登録審査員となり伝統郵便部門資格を有す。AIEP 会員

山崎 文雄（やまさき ふみお）

昭和 25 年（1950）福井県生まれ、福井市在住

1960 年、小学校 4 年生の時に、同級生が転校する時にお別れの記しとして使用済の切手をくれたのをきっかけに切手収集を始める。その後、オリンピック切手発行をきっかけに本格的に収集。高校生時代には海外との文通などにより外国切手の収集を始め、ジェネラル的に収集を行う。大学時代には大阪博覧会、メキシコオリンピックなどの切手も収集。大学卒業時にハワイに行き、ハワイ切手を購入してから、ハワイ切手を専攻するようになる。また、同時にポルトガルの切手にも関心を抱き、ポルトガルの切手もジェネラル的に収集。2009 年に FIP 登録審査員となり、現在は伝統収集部門の審査員資格を有す。

山田 廉一（やまだ れんいち）

昭和 39 年（1964）神奈川県生まれ、東京都在住

小学生より切手収集を始め、中学生で小判切手収集を開始。2001 年、米国カリフォルニア在住時に、ハワイ切手の収集開始。2018 - 2020 年、英国ケンブリッジ在住時に英国切手、特に King George V の収集開始。2014 年に FIP 登録審査員となり伝統郵便部門資格を有す。

アプレンティス審査員決定のお知らせ

我が国の FIP 登録審査員の強化・育成の為に、審査委員会は、2021 年 12 月に、アプレンティス審査員を公募しました。応募者の中から下記 1 名をアプレンティス審査員として審査委員会に加えることが決定しましたので、ご案内します。

アプレンティス審査員：吉田敬（よしだたかし） Kingdom of Prussia, WSC ISRAEL LG 等

国際切手展の開催動向

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

国際郵趣連盟および大陸別の郵趣連盟が公認する競争切手展（以下「国際切手展」と略す）の
実行委員会は、2020年6月以降も、暫時延期をアナウンスしています。当協会ではホームページ
(<http://kitte.com>) で速報を行っておりますが、以下でまとめてご案内します。

切手展の当初の名称	開催地	分類	当初 開催予定期間	現 開催予定期間
NZ 2020	ニュージーランド、オークランド	ア	2020/3/19-22	国際展は中止
LONDON 2020	英、ロンドン	世	2020/5/2-9	2022/2/19-26
WSC<INDONESIA2020>	インドネシア、ジャカルタ	世	2020/8/6-11	2022/8/4-9
TAIPEI 2020	台湾、台北	ア	2020/10/23-27	2022/5/6-10
MELBOURNE 2021	豪、メルボルン	ア	2021/2/11-14	2022/9/8-11
CAPE TOWN 2021	南ア、ケープタウン	世	2021/3/17-20	2021/11/9-13
IBRA 2021	独 エッセン	世	2021/5/6-9	2023/5/25-28
PHILANIPPON 2021	日、パシフィコ横浜	世	2021/8/25-30	2021/8/25-30
HUNFILEX 2022	ハンガリー ブダペスト	世	2022/3/31-4/3	2022/3/31-4/3
HELVETIA 2022	スイス、ルガーノ	世	2022/5/18-22	2022/5/18-22

■ :2020 年開催 ■ :2021 年開催 ■ :2022 年開催 ■ :2023 年開催

この3ヶ月間は、一年ぶりに、国際展の開催時期の中止や変更がないクオーターとなりました。
COVID-19 感染症の流行は鎮静したとはとても言えない状況ですが、世の中一般に加えて、展覧会
開催団体の対応の体勢もより賢くなったことのあらわれだと思います。

そのような中、日本に住んでいる国際展出品者にとり、最も気になることは、今年秋以降にたく
さん開催される国際切手展の動向、中でも日本からの入国受け入れではないでしょうか。受け入れ
られない場合、また受け入れるにしても2週間隔離が必須となる場合にはこれまでのような気軽な
出品が困難になるためです。従いまして、当該切手展への出品を考える方は、各展覧会の実行委員
会のホームページやニュースレターに目を通すだけでなく、当該国に関する外務省のホームペー
ジ上の国別の「海外安全情報」もお目通しされることをお勧めします。

そのような中でも、来年以降開催される国際展の実行委員
会は新規にホームページを立ち上げ始めています。

2022年に延期され展覧会名の変更されたLONDON
2020は、ホームページのURLもlondon2022.coに変更
しました。

その翌月にハンガリーで開催されるHUNFILEXは、当初
はHUFNIXという名称で報道されていましたが、正式な展
覧会名HUNFILEX2022でホームページを立ち上げました。
(右図)

なおHUNFILEXの開場翌月に開催されるHELVETIA
2022もこの3ヶ月間にホームページが立ち上がりました。



地方郵便印・地方郵便史の展示を行います ふるさと 郷土の郵便の歴史展

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

『ふるさと 郷土の郵便の歴史展』は、2020年4月17-19日に開催が予定されていた、郵博 特別切手コレクション展ですが、COVID-19感染症の流行に伴い郵政博物館が閉館された事に伴い、昨年3月17日に日程を決めず将来への延期が決まりました。郵政博物館の再開が軌道に乗り延滞期日が決定したのは昨年12月3日になってからで、5月によりやく開催に漕ぎ着けることができました。

さて、2017年に始まり、量より質を追う展示を志向している「郵博 特別切手コレクション展」は、より多くの方に展示をご覧いただける様に本年複数の改善を図ります。これは、「特定の2、3日間だけの展示では、仮に首都圏に住んでいても観に行けない」という参観者の意見を聞いて改善するものです。第一弾として本展覧会は九日間の会期で開催します。又本年中に、展示コレクションの一部ないし全部をオンラインで配信することも展示者と相談して検討して参ります。

これらの実行には、収入が増加しないにも関わらず費用の増加が見込まれますが、当協会は郵趣振興に関する公益団体ですので、2021年度予算に盛り込むことで実現したいと考えております。当協会の活動をご支援くださる方は本誌141ページをご覧の上、是非、会員になっていただければ幸いです。

展示名称 ふるさと 郷土の郵便の歴史展

開催日時 2021年5月8-16日（9日間）

開場時間 10:30-16:30（初日のみ12時開場予定） 最終入場時刻は閉場の30分前

会場 郵政博物館 多目的ホール

作品名	オーナー
国立銀行	近辻 喜一
横浜の抹消印・証示印	城野 隆三
明治前期上野国差立の書留・金子入・別配達	設楽 光弘
千葉県の丸一印の集め方	永富 功
八王子の消印	長野 行洋
群馬県の鉄道郵便印（停車場印～丸一型印）	森下 幹夫
甲斐国 二重丸型日付印 アラカルト	穴戸 俊介
明治の東京・深川郵便局ぶらり散歩	鎌倉 達敏
不統一印を愉しむ	立山 一郎
伊賀国消印	須谷 伸宏
三河国岡崎一飛脚と郵便	祖父江 義信
豊後国の郵便路線の発達と初期郵便	桑原 康雄
U小判切手と二重丸型印	平尾 勉
練馬	吉田 敬

上記の展示予定作品は、予定であり、今後、その変更や加除の可能性があります。

4月30日頃には展示パンフレット（PDF）をホームページに掲載予定です。 <http://kitte.com/>

今年は、公募・非競争切手展として開催します

第4回南方占領地のフィラテリー展 展示作品の募集について

南方占領地切手コレクターズクラブ

今年で4年連続の開催を迎える「南方占領地のフィラテリー展」では、一人でも多くの方が南方占領地切手の展示を楽しむことができるように、非競争展覧会を開催することと致しました。

同展覧会の募集要項を発表しますので、コレクションを所有されていらっしゃる方のご参加をお待ちしております。

記

展覧会名 : 2021年度 第2回 郵博 特別切手コレクション展
 企画展名 : 第4回南方占領地のフィラテリー展
 切手展の性格 : 非競争切手展
 開催期間 : 2021/6/12(土)～2021/6/20(日)9日間 *1
 開場時間 : 11:00-16:00(初日12時開場予定) 最終入場時刻は閉館時刻の30分前です
 開催場所 : 郵政博物館(東京スカイツリータウン ソラマチ9F)
 主催団体 : 郵政博物館、特非 郵趣振興協会
 展示団体 : 南方占領地切手コレクターズクラブ

*1 展示期間につきましては、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の流行状況等が原因で、博物館の開館スケジュールが変更される可能性があります。

展示作品の募集について

募集作品 南方占領地切手および関連するコレクション
 募集形態 フレーム単位のコレクション(1～8フレーム)
 作品郵送 2021/6/5前後を予定しております。
 なお、コレクションの持参を希望される方にも対応いたします。
 作品返却 2021/6/25前後を予定しております。
 会場引取もしくは着払返送等をご選択頂けます。
 出品費用 無料
 展示規模 約30フレーム
 ご連絡先 hobbyshop@web-more.jp 守川 まで
 募集締め切りは設けませんが、既にいくつかの作品の展示が決定しておりますので、ご関心のある方は早めのご連絡をお願いいたします。ご相談も歓迎いたします。

作品のセキュリティについて

郵政博物館は、東京スカイツリータウン・ソラマチに立地する、我が国の郵趣に関するナショナルミュージアムです。東京スカイツリータウン自体の物理的セキュリティに加えて、同博物館自体が物理的セキュリティの高い施設として運営されています。

人的セキュリティとしては、入場口すぐ横の多目的ホールを使用する事に加えて、博物館の警備スタッフが巡回を行っています。一方で、長期間運営される特別切手コレクション展に、専任の会場スタッフは常駐しません。そこで、受付や巡回警備スタッフの視認性を高める為、切手コレクション展示パネルは、ゆったり目に死角がない様に配置します。

展示団体としては許容できるセキュリティであると考えておりますが、ご出品いただく作品のセキュリティに関するリスクは一切負いませんので、ご出品作品の応募にあたり、この点をご納得いただいた上でご出品ください。

スタンプショウ=ヒロシマ2021

スタンプショウ=ヒロシマ2021実行委員会

当誌第29号で、同実行委員会より、本切手展の開催に関する告知記事を頂戴いたしましたが、同号の校了後に開催日の延期（3月から9月へ）が決定しましたので、改めてご案内します。（編集部）

スタンプショウ=ヒロシマは西日本最大の切手展として毎年5-6月に開催して参りました。2020年につきましては、COVID-19 流行の影響で中止となりましたが、2021年は当初の開催日程を変更し、9月に予定しておりますので、ご案内申し上げます。

約70フレームの展示と切手商ブースを予定しているほか、初日には、展示会場の閉場後、吉田敬氏（郵趣振興協会）の講演を予定しております。どうぞご来場ください。

開催時期 2021年9月11日（土） 10:00~17:00

9月12日（日） 9:00~15:00

会場 県立広島産業会館・東展示館（広島市南区比治山本町16-31）

主催 スタンプショウ=ヒロシマ実行委員会（公益財団法人）日本郵趣協会中国・四国地方本部

後援 日本郵便株式会社中国支社（予定）、（特非）郵趣振興協会

企画テーマ 東京オリンピック2020

[ad]

国際展まであと4ヶ月！直前の全国切手展（競争切手展）開幕！

会期：2021年4月10日（土）~13日（火）[4日間]

会場：郵政博物館（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：100フレーム

主催：（特非）郵趣振興協会 /（公財）通信文化協会

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティプリンティング社、
切手市場、（一社）全日本郵趣連合、
（公財）日本郵趣協会、株式会社鳴美



<http://kitte.com/stampex2021>

サブスク購読できる

郵趣雑誌の発行者等を応援するページ

2020年12月～2021年3月

郵趣仙台（発行：仙台郵趣会）



245号を発行(12/13) 塩釜局での大型波型(L波)機械印の昭和26年年賀使用(横山 裕三) 切手に登場した歴史上の女たち(12)(中島 斉) 詩と音楽(12)(佐々木 克夫) JAPExでオープンクラスを考えてみた(佐藤 浩一) 第1次国立公園切手(18)(池田 駿介) 特別地域宛て規制期の官公署発又は宛ての速達(小林 富士夫) 宮城県県の記番印 鈴木紀男氏のコレクションから 仙台 コ第壹号(小関 幸生) 二つ折りはがき(4) 脇付はがき その1(斎 享) ほか

246号を発行(2/14) 戦前の仙台郵便局局舎(横山 裕三) 切手に登場した歴史上の女たち(13)(中島 斉) 詩と音楽(13)(佐々木 克夫) 郵便史的に考える“戦時下に占領されるということ”(佐藤 浩一) 第1次国立公園切手(19)(池田 駿介) 宮城県県の記番印-2 鈴木紀男氏のコレクションから コ第貳号～第六号(小関 幸生) 二つ折りはがき(5) 脇付はがき その2(斎 享) ほか

「仙台郵趣会」例会案内	
例会開催日時	COVID-19の影響もあり、会場や時間が定まりません。参加希望者は torusai2@yahoo.co.jp までお問い合わせください。
会場	
向こう三ヶ月の例会日	3/14, 4/18
例会参加資格	会員限定(ダウンロード会員も参加できます)

IZUMI（発行：いずみ切手研究会）



382号を発行(12/20) 全国郵便実施5日目の郵便御用(通信事務) 使用例(富樫 敏郎) 地名入り雪支延着印(濱谷 彰彦) 我が故郷「新宿(にいじゅく)」記番印(長野 行洋) 近代史を語る記念絵葉書-2(矢嶋 基之) 東京・大阪間の船便(近辻 喜一) 博覧会 共進會(安藤 源成) 保険に関する標語(3)(清水 勝利) 朝鮮一行印後期使用(横山裕三) 小さい絵封筒(山田克興) 追放切手の最終期使用例と記念切手(宮崎 幸二) ほか

「いずみ切手研究会」例会案内	
例会開催日	原則として第3日曜日 午前9時-12時
会場	練馬区立勤労福祉会館(大泉学園駅近)
向こう三ヶ月の例会日	3/21, 4/18, 5/16, 6/20
例会参加資格	会員限定(ダウンロード権利のみでは参加できません)

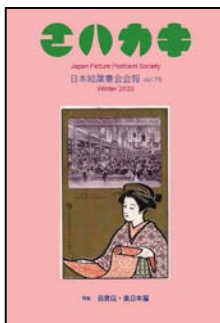
予定されている催事は、季節・時期・地域を問わず、全て急遽中止・変更される可能性があります。ご参加にあたっては、各主催者が提供する一次情報(ホームページや代表電話)を確認の上、ご参加ください。

最近の情報（発行：小判振舞処）



200号を発行(2/10) 最近の情報 200号発刊に寄せて(長田 伊玖雄、水口 公秀) JAPEX'19 出品作品ワンフレームクラス / 開港地間郵便(佐々木 義郎)、大阪の証示用二重丸印による抹消使用例(梅原 徹)、「小判切手のピンホール(水口 公秀) ほか

エハカキ（発行：日本絵葉書会）



75号を発行(12/25) 特集「百貨店・東日本編」デパートの創世記(東京編)(林 丈二) 小都市の百貨店「山吉」(齊田 美昭) 札幌の百貨店(上ヶ島 理) 絵葉書をより愉しむために(十一)(高尾 均) 私の小早川秋聲(八)(松竹 京子) 石橋(三)(林 丈二) ほか

切手の友会報（発行：切手の友）



1月号を発行(1/10) 貯金の絵文字入り局名印の収集(14)(竹之内 康雄) 郵頼の失敗に学ぶ(山来 勝) 自作のダスト・カバーケース その4(飯野 明) 神戸淡路大震災とインドネシア(友田 淳治) 「特定局」の現在の呼び方(友田 淳治) 2015年末のバンコク旅行(3)(友田 淳治) ほか

2月号を発行(2/14) “絵本の世界”シリーズレオ レオニの切手を買ってしまったI(飯野 明) 貯金の絵文字入り局名印の収集(15)(竹之内 康雄) 「京都寸葉」(友田 淳治) ポスト百態(19) 年賀状引受シール(友田 淳治) 2015年香港出張(友田 淳治) ほか

マイスタンペディアで PDF 購読のオプション申込が可能な郵趣雑誌

これらの雑誌の PDF 購読を希望される方は、マイスタンペディアよりお申し込みください。(有料)

無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社(以下、「当社」)は、「スタンペディア日本版」会員を対象に、マイスタンペディア(インターネット上のサービス)を通じて、有償で他者が発行するフィラテリーに関する情報媒体を配信する事業を2016年より行っております。

提供している郵趣雑誌は、当社がその内容を精査し「スタンペディア日本版」会員の皆さんに自信を持ってお勧めできるものに限定しており、現在は全員に無料で提供する1媒体と、サブスク(有料)の4媒体を提供しております。サブスク媒体の購読(有料)を希望される方は、マイスタンペディアよりお申し込みください。

私の発見・私の報告

都内速達 丸速センサス update

本誌第 6, 7, 11, 19, 20, 22 号で掲載した丸速センサス（26 点）に、追加の報告を古家美和さんとスタンペディアオークション株式会社より頂きました。（丸速 -27, 28）

「丸速」印は、昭和 24 年 2 月 16 日から 7 月 31 日までの半年間だけ、東京都内で取扱われた「都内速達郵便」で使用された印影です。「速」の文字を縦方向に長く楕円形で囲った形がその特徴で、行徳宏氏がこの印の押捺された速達郵便物が「都内速達郵便」であることを、郵政総合博物館資料室所蔵の「通信文化新報」（24 年 3 月 2 日号）の記事から突き止めました。残存数が少ないことからセンサスを作成しております。

丸速 -27 の到着印は、日本切手研究会の第 19 回オンライン例会（2021/2/28）で発表された古家美和さんの收藏品で、余白の関係で左上の印面に被っていますが、落合長崎局の楕型印が到着印として押捺されています。今回のご報告で「丸速センサス」掲載件数は 28 件となりました。



丸速 -27 1949 伸びゆく電気通信展 小型印貼り
(古家美和氏蔵)



丸速 -28 (スタンペディアオークション
第 17 回セール # 600, 2021-5-1)

速達料金 15 円時代

管理番号	引受日	引受局	形態	到着印	備考	所有
丸速-19	24.2.18	板橋大山	官製葉書	品川	検閲印あり	矢部
丸速-01	24.2.24	本郷	官製葉書	板橋		池田
丸速-23	24.3.5	最高裁判所内	官製葉書		都内速達ではない	馬淵
丸速-21	24.3.10	神田神保町	書状	目黒	閲印あり	池田
丸速-02	24.3.12	京橋通一	官製葉書			池田
丸速-03	24.3.15	豊島	書状	日本橋	検閲印あり	横山
丸速-04	24.3.17	京橋	書状			数珠
丸速-05	24.3.22	渋谷	官製葉書	豊島	「占領下における速達郵便」 (荻原海一氏、全日本郵趣 1990年2月号)に掲載	
丸速-28	24.3.26	世田谷	書状	中野		スタ*1
丸速-06	24.4.8	赤坂中町	官製葉書			横山
丸速-07	24.4.9	東京中央	官製葉書			横山
丸速-20	24.4.11	赤坂	官製葉書	練馬	検閲印あり	矢部
丸速-24	24.4.16	牛込	官製葉書	千歳		飯澤
丸速-26	24.4.21	西芝浦	官製葉書	なし	検閲印あり	油谷

速達料金 20 円時代

管理番号	引受日	引受局	形態	到着印	備考	所有
丸速-08	24.5.2	目黒	書状重量便		検閲印あり	行徳
丸速-27	24.5.11	日本橋	書状	落合長崎	検閲印あり	古家
丸速-09	24.5.13	九段	官製葉書	目黒		横山
丸速-10	24.5.19	本郷片町	官製葉書			片山
丸速-11	24.5.28	丸の内ビル内	官製葉書	杉並		須谷
丸速-25	24.6.1	新宿下落合	書状		都内速達ではない普通の速達書留	飯澤
丸速-12	24.6.8	日本橋	書状	千歳	翌日到着	横山
丸速-13	24.6.10	神田駿河台	書状			池田
丸速-22	24.6.17	阿佐ヶ谷東原	官製葉書	杉並		馬淵
丸速-14	24.6.22	大森久が原	書状		速を抹消	行徳
丸速-15	24.6.29	日本橋	書状	千歳	翌日到着	池田
丸速-16	24.7.8	立石	官製葉書	荻窪		数珠
丸速-17	24.7.21	東京中央	官製葉書	田園調布	ヤフーオークションにて出品 (2002年3月)	
丸速-18	24.7.27	東京中央	葉書		速を抹消 都内速達ではない	吉田

* 「所有」は報告時点での所有者。 * 1 スタ=スタンプディアオークション社画像提供



[コラム] 今更聞けないフィラテリー (14) 鑑定書の有効性

編集部まとめ

フィラテリーの「鑑定書」には色々ある

「鑑定書」に関する経験の豊富な日本のフィラテリストはあまりいない為、言葉の定義が曖昧なままに多くの人々が「鑑定書」という単語を、その効用を誤解して使用していると感じます。

そもそも「鑑定書」の登場は、偽物の登場を後追いつけるものであり、切手の偽造自体は1840年のペニーブラック登場以来、最初は郵便使用の偽造 (Postal Forgery) として、後年には郵趣目的も加味されて行われました。

1860-70年代のドイツのハンブルグは贋作作成が盛んで、Philip Spiro (フィリップ・スピロ) や Julius Goldner (ユリウス・ゴルドナー) などが暗躍していました。前者は日本の手彫切手の贋作シートも作成していましたので、日本切手しかご存じない方も聞き覚えがあるかもしれません。

原材料に比べて、経済的価値が大きくなる有体物について、贋作が登場するのは歴史が証明することであり、他の分野同様に当時から多くのフィラテリストは悩まされてきました。上流階級が嗜むことの多かったフィラテリーにおいては、より長い歴史を持つ金やダイヤモンドの鑑定を応用し、鑑定が徐々に整備され、その役割に英国王室郵趣協会 (RPSL) や国際郵趣連盟 (FIP) は大きな役割を果たしました。

ただし、鑑定・鑑別方法が国際的に確立している金やダイヤモンドと異なり、現在、フィラテリーの分野では世界統一の鑑定手法は確立していません。最大の理由は、鑑定対象が多く、国際機関を一つ作り、中央集権的手法で、正しい鑑定方法を決定し守らせることができない為です。

又、ダイヤモンドでは「鑑定書」は鑑定機関がカラーやクラリティ、カットなどのグレードを証明する書面、「鑑別書」は科学的手法で宝石の真贋を判定する書面、「保証書」は販売店が商品の品質を保証する書面と分かれています。フィラテリーでは「鑑別書」の意味を含めた「鑑定書」も存在しますし、又「保証書」の域を出ない「鑑定書」も存在します。

図2 (次ページ上段) は、フランスの有名ディーラーである BEHR が発行した鑑定書ですが、私は同社の鑑定書はあまり信用しておらず、必ず別途自分で綿密な調査をして本物だった場合のみ後払いで送金する条件で取引に応じています。ちなみに図2のマテリアルは本物でした。

私が同社を信用しないようになった理由は、鑑定範囲を限定しないことと、目の前で鑑定書を書いてくれた経験をしたからです。これはダイヤモンド業界の分類で言えば「保証書」にすぎないな、と思います。実際、certification には「保証書」の意味もありますから嘘ではないでしょう。又、これまでに誤った鑑定判断をした鑑定家が、広い範囲の鑑定をできるとしていた傾向を感じることも、同社の判断に疑問を持つ理由の一つです。



図1 Jean de Sperati (スベラティ) 作の
チューリッヒ 4 Rp. の贋作
本物だったら取引価格 300 万円



図2 在モロッコフランス局切手の鑑定書 (Pascal BEHR 2010.11.19)

「鑑定書」のコンセンサスが取れていないフィラテリーの世界

このような事象が生じる原因は、「鑑定書はこうあるべき」というコンセンサスがフィラテリーの世界で取れていない点にあります。現在は誰でも「鑑定書」「保証書」を発行できます。それらの書面は原則として調査時点のできる限りベストの検査結果を記したものであり、将来間違いが判明してもなんら責任を伴うものではないとされています。

もちろん郵趣鑑定の国際団体は存在します(図3、機関紙)し、国際展に出品し、エキスパートチームから鑑定書を取り直す様に指示される経験をした国際展出品者もいらっしゃると思います。その場合には FIP に加盟する団体の鑑定書であることが望ましいのですが、これはあくまでも国際展に出し続ける範囲内でのことであり、比較にならないほど需要の大きな一般的な切手の取引においては重視されていません。日本にも複数の郵趣鑑定団体が存在しますが、国際団体未加盟の団体による鑑定書も商取引上は信頼されています。

海外におけるトップクラスの切手の取引、特にオークションにおけるエクステンションロットの場合は、どの団体が発行した鑑定書であるかよりも、誰が発行した鑑定書であるかの方が重視されることが多く、鑑定書つきのマテリアルが再鑑定されることもしばしばあります。鑑定書の重要性は今後も大きいと思われるのですが、無条件にどこでも良いというわけでもないの、当誌としても啓蒙していきたいと考えています。



図3 スウェーデンの国際オークションハウス Postiljonen が発行する FFE Journal



[コラム] 今更聞けないフィラテリー (15)

広告付き葉書は、どうしてエコー葉書と呼ばれているの？

編集部まとめ

現業官庁である郵政省にとって、広告営業など朝飯前

昭和 56 年 7 月 7 日 (1981) に発行が開始された、広告付き葉書は本年で発行 40 周年を迎える、日本フィラテリーの一分野です。発行開始から数年間は収集家の間でブームとなりましたが、その多くが発行種類の多さに収集の継続を断念しており、最盛期と現在の収集家の差が最も大きい分野となっています。

広告付き葉書の最大の特徴は、郵便局で発売される葉書の表面下部 3 分の 1 に企業広告が掲載される代わりに、葉書を料額印面よりも 5 円安く購入できる点にあります。値引原資は広告出稿者が郵政省に支払う広告料の一部が充てられています。

「官庁の広告営業」という文字を見ると不思議に思う方もいらっしゃるかもしれませんが、全国の企業・個人と郵便や貯金を通じて繋がりを持ち、昭和 25-27 年には広告入り機械印 (図 1) の営業経験を持つ郵政省にとっては、高度な提案営業などでなければ、単体として販売できるだろうと考えられていました。

実際、昭和 50 年代には法人向けに絵入り葉書の営業が行われており (図 2)、後にはこの同一チャネルを通じて営業が行われました。

導入の決定的な決め手は、昭和 56 年の二度にわたる郵便料金改訂で葉書料金が 20 円から倍の 40 円に値上げされた事にあります。商用インターネットやパソコン通信のない当時、即座に手紙離れは起きなかったものの、少しでもダメージを減少させる為、一気に企画が進み、料金改訂半年後の 7 月 8 日に東芝、HONDA による全国版が、又 10 月 1 日に地方郵政局の存在する 12 都道府県で 16 種類が発行されました。

通常よりも安価であることに加えて、カラフルな企業広告の入ったエコー葉書は、消費者に歓迎されることとなり、全国版のエコー葉書は、短期間の間に一般層にも認知され、よく使われました (図 3)。

これを受けて郵政省では、滑舌を必要とする説明文の様に長い「広告付き葉書」という名称の愛称を一般募集する事になり、その結果選ばれたのが、「エコー葉書」というわけです。

名称選定理由としては、(1) 広告の内容が「山びこ (エコー)」のように利用者 (送り手、受け手) 双方に伝わるという意味や (2) 売価が 5 円安いので「エコノミー」という意味が込められていると発表されました。まるで昭和のギャグの様なネーミングですが、よく考えたら昭和時代の発行開始でした。

なお「スタンペディア日本版」会員には、会員特典の一環として、在籍中に「エコー葉書データベース」をご利用いただくことができます。マイスタンペディアの「サブスク郵趣雑誌」タブをクリックしたページの最下段に各種データベースが掲載されています。無料でご利用いただけますので、どうぞご利用ください (図 4)。



図 1 山田 25.3.15
図版スタンペディアオークション
12th #520

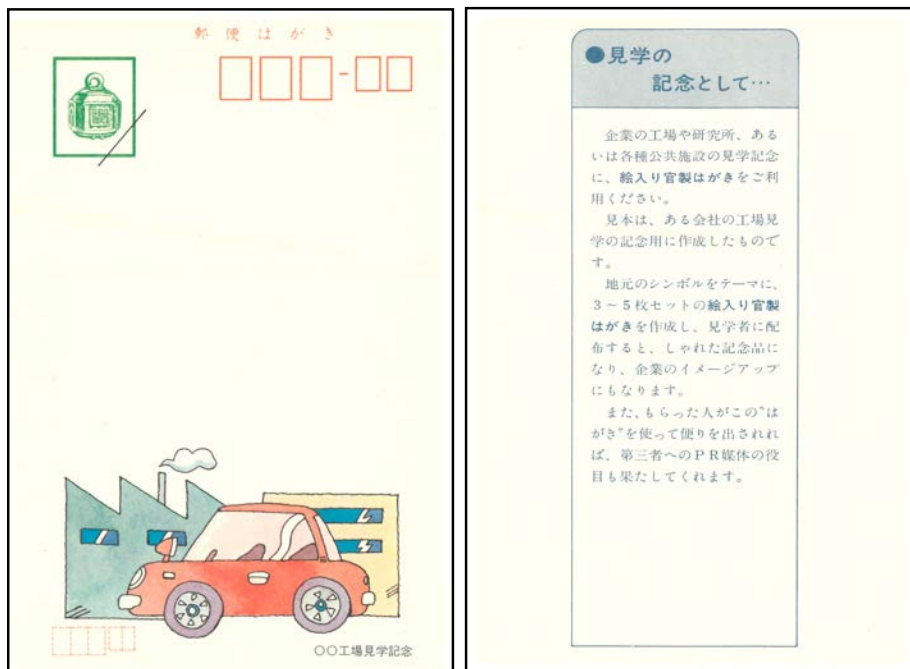


図2 絵入り葉書営業見本（郵政省）の表裏



図4 スタンペディアエコノ葉書データベース

図3 1981 一次都道府県版 北海道（石屋製菓）鉄郵・一般便（懸賞応募）札幌根室間 56 10 10（初期使用）

イマ
キケ

[コラム] 今更聞けないフィラテリー (16)

和桜半銭 (カナなし) 松田と政府印刷の区別

編集部まとめ

「和桜半銭 政府印刷」は 世界の郵趣における定義に従えば「公式リプリント」？

当コラム第7回(本誌 28 号掲載)で、和紙2銭「タ」の公式リプリントの性格について言及しましたが、和桜半銭 政府印刷は、まさに同じ性格を持つ切手で、その製造時期は、カナ入りの桜切手半銭が発行された後の明治8年(1875)以降とされています。

切手商等の需要に応じて在庫のない切手を後年製造・販売することは19世紀後半の各国郵政では広く行われていました。それらの切手は、発行者が意図するかしないかに関わらず、後年収集家により公式リプリントに分類されますが、大半は実際に発行された切手に使用された同一の原版を用いて製造されており、日本でも同様でした。しかしながら、用紙やインクまで同一に複製することは当時の複製技術の水準では難しく、多くの場合、分類が可能です。

なお公式リプリントの中には、実際に郵便に使用された例が存在します。この点は郵政機関以外が発行する、非公式リプリントとの大きな違いです。

同一原版を用いて製造されようが、ディーラーや収集家が記念に発行したりリプリントは、郵便に使用することが許されていません。もっともリプリントの取引価格は、公式であるか否かに依らず、人気があり、発行数の少ないものは高く、この点は和桜半銭 政府印刷も同じです。



1847 Mauritius 1d, 2d 1912 年リプリント



和桜半銭 松田印刷



和桜半銭 政府印刷

(画像提供: スタンベディアオークション 13th #33)

(画像提供: スタンベディアオークション 15th #45)

大半の「和桜半銭」(カナなし)は松田印刷

「和桜半銭 政府印刷」の持つ公式リプリントとしての性格を理解すれば、使用済の存在数が限定的であることがわかります。また日専評価が松田印刷 4,000 円、政府印刷 15,000 円である事から推定できるように、大概の未使用も松田印刷で、政府印刷に出会うことは多くありません。従って、和桜半銭(カナなし)の分類にあたっては、未使用の松田印刷の中から、どうやって政府印刷を掘り出すか?という点に始まると思います。それに慣れてくれば、将来、使用済や使用例を掘り出すことができるかもしれません。

分類にあたり、手彫切手に詳しい Mr.X にお聞きしたところ、「感覚的な話で、硬い感じなのが松田印刷で、政府印刷は柔らかい感じ」と言われました。話を聴いただけでは全くピンとこなかったのですが、切手を並べてみたところ(前ページ)、なんとなくおっしやる理由が分かった気がします。

製造面にもう少し踏み込んでみると、製造時期がだいぶ空いており、その間の技術進歩が大きかった事により、用紙や目打に大きな違いが見られます。また当時は刷り色の複製能力も高くなく、少なくとも政府印刷に濃茶は存在しないようです。

	製造時期	印刷版	用紙	目打	インク
松田印刷	明治 5-6 年	Pl.1, 2, 3, 4	薄い和紙	短器目打	薄茶〜濃茶
政府印刷	明治 8 年以降	Pl. 4	和紙だが厚味あり	長器目打のみ	濃茶は存在しない

松田印刷に使われた 4 つの印刷版の内、第 4 版(Pl.4)だけを用いて政府印刷は製造された為、第 4 版でない限りは松田印刷です。ちなみに第 4 版は「キ半銭」と呼ばれる版欠点を含む印刷版で、特徴の一つとして、「1/2SEN」の「N」にセリフがついていません(タイプⅢ)。和桜半銭 松田印刷の 第 4 版はシートが存在し、その画像もペプロウの写真集などで確認できます。



N タイプⅠ(左)とⅢ(右)

日本の最初の目打穿孔は、短器目打と呼称される、切手一片の長さ程度の穿孔器を用いて行われていましたが、間も無く、穿孔器の長さはシートの長い片以上に伸びます。これを長器目打と呼びますが、世界に通じる単語に置き換えるとすると「単線目打」です。

和桜半銭政府印刷の製造時期には、短器目打は原則として使われていなかった為、全てが長器目打となっています。

最後に用紙ですが、政府印刷に使われた和紙は、厚味があるのが特徴です。こればかりは現物をご自分で入手して触ってわかるしかありません。幸い政府印刷の未使用は 1 万円以下での入手も可能ですので、是非トライしてみてくださいと思います。



第 4 版 Pos.15/24, pos.23 「キ半銭」を含む
引用：ペプロウの写真集



連載 クラシック切手 (13) 英領ギアナ 1852 Waterloo Issue

吉田 敬

1852. ロンドンの Waterlow 社、英領ギアナ植民地政府に切手 2 種類を納品

コットンリール (1850 年一番切手) や 1856 年暫定切手で有名な英領ギアナは、他国同様、郵便切手の導入当初は、距離別郵便料金制を採用していましたが、2 年後の 1852 年 4 月から全国統一料金 (書状 4c、印刷物 1c) を採用することになりました。

一番切手の発行を委託したロイヤルガゼット社の出来栄が悪く、切手偽造を防止するために全切手に郵便局の職員が手分けしてサインするハメになったため、1852 年の郵便料金改正に際して植民地政府は、切手の製造を英本国に委託することになりました。

ただしその委託先は、当時、本国の現行切手 (ペニーレッド等) の大半の製造を担っていたパーキンス・ベーコン社ではなく、ウォータールー社となりました。



1850 Cotton-Real 8c 未使用
EDW サイン入り (Wight 氏)

Waterlow の名前は、20 世紀に美しい凹版切手を多数製造した英国企業として有名です。しかしながら、英領ギアナ植民地から 1851 年に受けた仕事はおそらく同社初の切手製造業務だったと考えられます。1852 年 4 月の料金改正に間に合うように、1 月には完成していたと考えられていますが、その出来栄は、芳しくありませんでした。そして翌 1853 年には、同じ石版切手ですが、遥かに美しい帆船図案の切手に置き換わります。



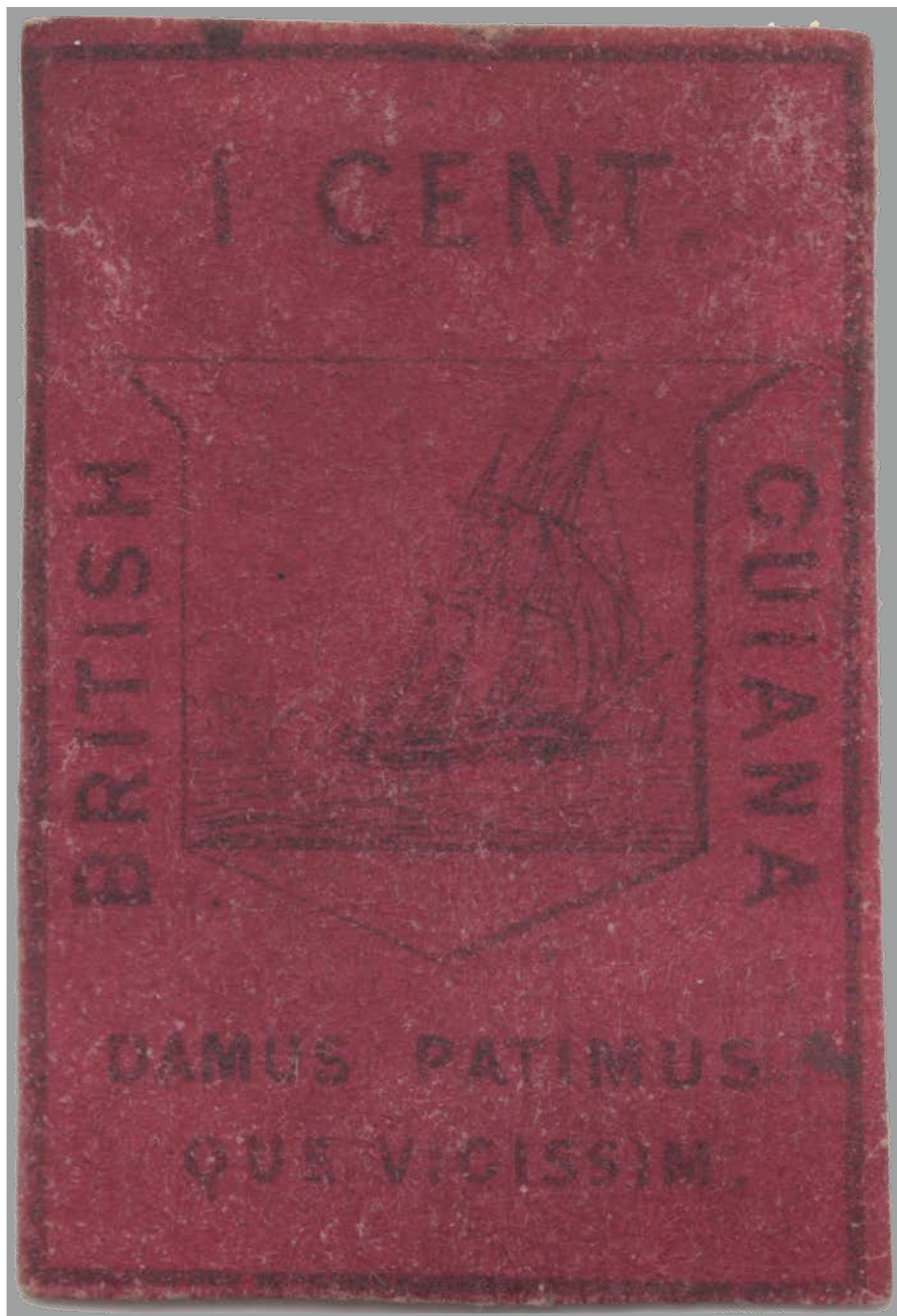
1913 1 Pound
Waterlow Brothers & Layton printing

短期間しか使用されなかったクラシック切手は入手が難しく、リプリントが 1865 年に製造されますが、オリジナルが薄い紙に印刷されたのに対して、リプリントには厚紙が使用され、また P.12.5 の目打が穿孔されました。リプリントの取引価格は千円前後で、注意したいのはリプリントから目打部分を切り取り、無目打切手に似せたマテリアルが存在することです。

本物と見比べていただくと違いは一目瞭然ですが、本物の入手にあたってはご注意ください。欧米では高価なマテリアルの売買にあたり、鑑定書の入手は常識ですので、ご留意いただきたいと思います。



1865 reprint P.12.5



南方占領地のフィラテリー (16) 北ボルネオの消印タイプと郵便料金

守川 環

北ボルネオの消印のタイプ

北ボルネオの消印のタイプは大きく 4 つに分類されます。

1 つ目は戦前から使用されていた欧文印で和文印が登場する 1942 年末ごろまで使用されました。

ブルネイ地区は下部は空欄で、サラワク地区は下部に SARAWAK と入っているものとなないものが、旧北ボルネオもまた下部に NORTH BORNEO と入っているものとなないものがあります。(図 1)



図 1 KANOWIT カノウイ 1942.9.21 SARAWAK

2つ目はサラワクの美里局のみにて使用された楕型印です。1942年9月末から10月にかけての短期間のみ確認されています。おそらく和文印の試験の意味合いから作られ後述の和文印ができるまでの短期間使われました。(図2)

最初期使用例	1942.9.29
最後期使用例	1942.10.9

図2 美里(ミリ) 17.10.5
Kuching 宛て書留書状



3つ目は二重丸和文印です。14局が確認され、A欄に局名、B欄に昭和で年月日の順に日本式に表記され、C欄には「ボルネオ」と表記されています。

最も早いものでゼセルトン局の1942年10月20日で、最も遅いものでラハダツ局の1944年3月18日です。また、パパール局はジェセルトン局がアビ局に改名された際に古いジェセルトン局の局名部分を削り取ってパパールと手書きして使用されたものといわれています。(図3)

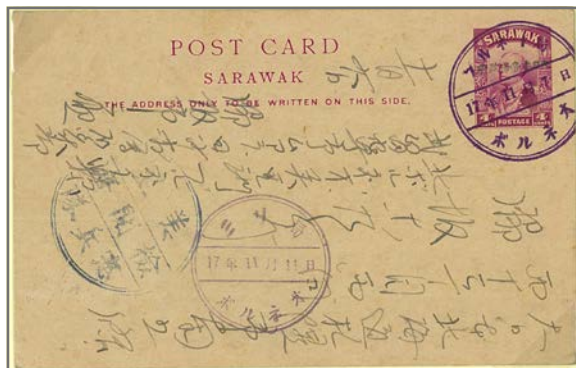


図3 ブルネー 1942.11.7 ミリ 11.11 札幌あて葉書

4つ目は一重丸和文印で、32局が確認されています。中央部に上から日、月、年の順に年は紀元暦にて標記しています。下部には「ボルネオ」に代わって「北ボルネオ」と表記されています。

最も早いものでブルネイ中央局の1943年6月11日で、最も遅いものでクチン局とクダツ局の1945年9月4日(占領下の最終日)です。(図4)

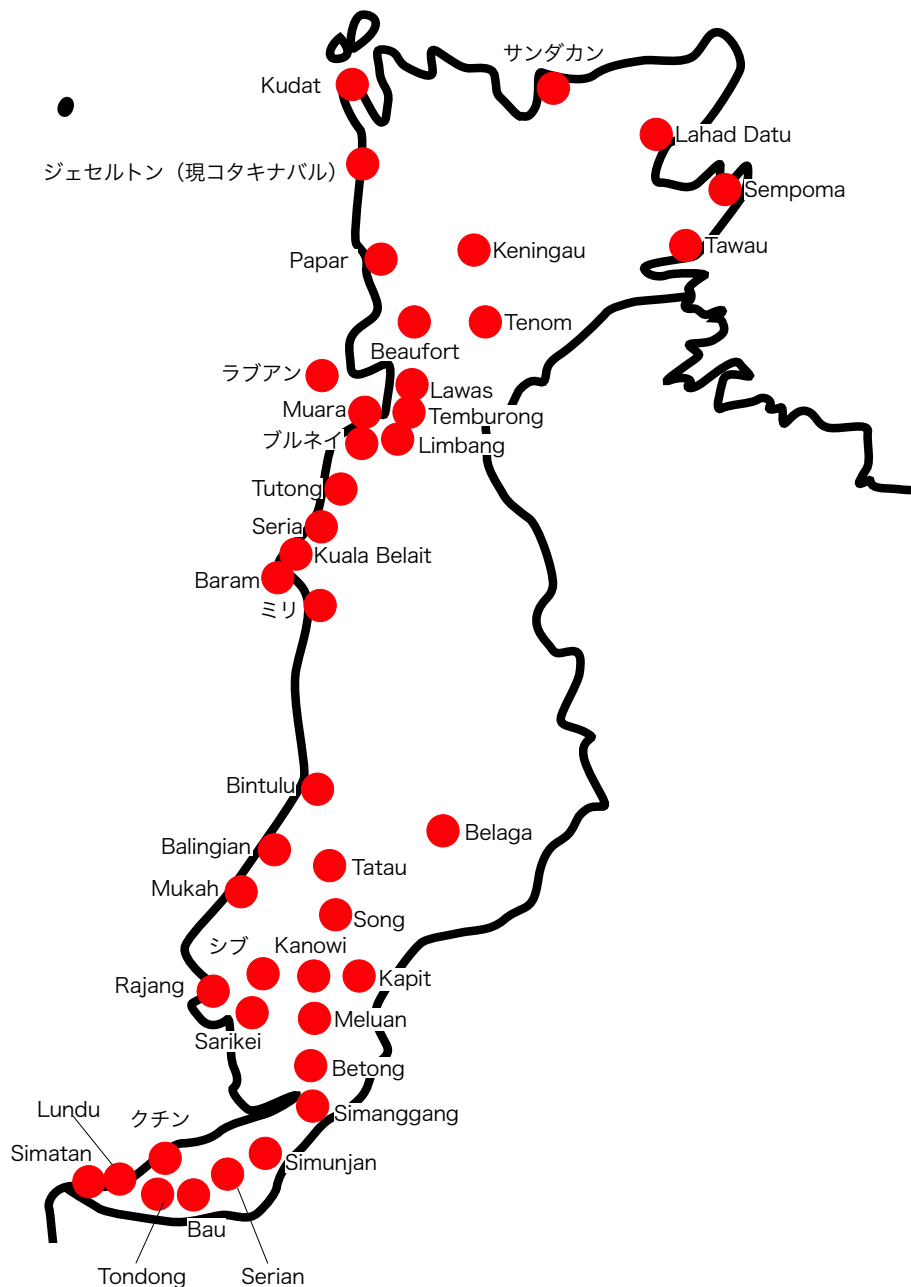


ちなみにジェセルトンとは当時北ボルネオ会社副会長の名前からとられたもので、それ以前はアピアピと呼ばれていました。北ボルネオ会社はバジャウ族に焼き打ちにあい移転してきた経緯からアピアピはマレー語の「火」を意味するためジェセルトンに改名されていました。日本占領下では旧称のアビを復活させました。



図4 アビ 1944.9.26 福島県あて葉書

以上、北ボルネオで使用された4タイプの消印についてご紹介しましたが、美里局（サラワク）でしか使用されなかった2つ目の楕型印を除く3タイプの消印について、次ページ見開きで確認されている情報を取りまとめましたので、ご活用ください。



郵便局名	英文印		和文印・二重丸		和文印	
	(局名表記)	(使用期間)	(局名表記)	(使用期間)	(局名表記)	(使用期間)
ブルネイ						
Brunei	BRUNEI	1942.4.6- 1942.10.31	ブルネー	1942.11.2- 1943.6.1	ブルネイ中央	1943.6.11- 1945.4.27
KualaBelait	BELAIT	1942.10.8- 1943.2.17			コーラブライト	1943.7.13- 1945.1.12
Muara	MUARA	1942.4.15				
Seria	どの消印也未確認					
Temburong	どの消印也未確認					
Tutong	どの消印也未確認					
北ボルネオ						
Jesselton	JESSELTON	1942.1.22- 1942.10.13	ゼセルトン局	1942.10.20- 1943.5.19	ゼツセルトン中央	1943.7.27- 1943.11.8
			アビ局 1943.5 改称	1943.6.9- 1943.6.17	アビ中央	1944.1.11- 1945.2.28
Beaufort	BEAUFORT	1942.2.24- 1942.5.7			ボーホード	1943.8.24- 1945.1.29
Keningau					ケニンガウ	1943.12.8- 1944.12.18
Kudat	KUDAT	1942.9.11	クダツ局	1943.	クダツ	-1945.9.4
Lahad Datu	LAHAD DATU	1942.9.1- 1942.9.26	ラハドダツ	1943.1.11- 1944.3.18		
Papar			パパール	1943.9.9- 1943.11.15	パパール	1944.3.30- 1944.11.17
Sandakan	SANDAKAN	1942.3.2- 1942.6.22	サンダカン	1942.11.11- 1943.7.26	サンダカン中央	1943.10.25- 1944.7.19
Tawau	TAWAU	1942.8.4			タワオ	1943.4.13- 1944.3.6
Tenom	TENOM	1942.2.8- 1942.10.13	テノム	1942.11.21	テノム	1943.6.29- 1945.1.17
Train Mail	TRAIN MAIL	1942.2.10- 1942.12.12				
ラブアン						
Labuan	LABUAN	1942.5.8- 1942.12.1			前田島	1943.11.18- 1945.5.7
サラワク						
Kuching	KUCHING	1942.5.20- 1942.10.19	クチン局	1942.10.21- 1943.7.26	久鎮中央	1943.8.9- 1943.11.16
					クチン中央	1943.12.16- 1945.9.4
Balingian	BALINGIAN	1942.12.23- 1943.1.2				
Baram	どの消印也未確認					
Bau					バウ	1945.2.20
Belaga	どの消印也未確認					
Betong	BETONG	1942.7.24			ベトン	1944.4.5

郵便局名	英文印		和文印・二重丸		和文印	
	(局名表記)	(使用期間)	(局名表記)	(使用期間)	(局名表記)	(使用期間)
Binatang	BINATANG					
Bintulu			ピンツル局	1942.12.10-1943.6.25	ピンツル	1943.10.12-1945.4.3
Dalat	どの消印も未確認 (除くペン消し)					
Engkilili	どの消印も未確認					
Kanowit	KANOWIT	1942.5.9-1942.12.31			カノウイ	1943.9.29-1945.1.24
Kapit					カピト	1943.5.18-1945.9.4
Lawas	LAWAS	1942.12.15			ラウス	1944.12.30
Limbang	LIMBANG	1942.11.4-1942.12.25			リンバン	1943.10.18-1945.1.9
Linga	どの消印も未確認					
Lubok Antu	どの消印も未確認					
Lundu					ルンドゥ	1944.7.10-1945.3.4
Matu	MATU					
Meluan	MELUAN	1942.12.1-1943.1.2			メルアン	1945.1.3
Miri	MIRI	1941.12.16-1942.8.28	ミリ局	1942.11.11-1943.9.10	美里	1943.9.29-1943.11.29
Mukah	MUKAH	1942.12.5-1943.1.9			ムカ	1943.12.25-1945.8.4
Oya	どの消印も未確認					
Pusah	どの消印も未確認					
Rejang					ルジャン	1945.1.15-1945.3.4
Saratok						
Sarikei	SARIKEI	1942.9.7-1943.7.18			サリケイ	1943.9.1-1945.7.31
Serian					セリアン	1944.12.18
Sibu	SIBU	1941.12.24-1942.10.28	シブ局	1942.10.29-1943.7.15	志布中央	1943.7.29-1945.5.18
Sibuti	どの消印も未確認					
Simanggang	SIMANGGANG	1942.9.2	シマンガン局	1942.12.16-1943.8.13	シマンガン	1943.8.25-1944.10.9
Simatan					シマタン	1944.11.5-1945.3.12
Simunjan					シンニヤワン	1945.3.5
Song	どの消印も未確認 (除く書留印)					
Spoah	どの消印も未確認					
Tatau					タタツ	1944.10.18
Trusan	どの消印も未確認					
Tundong					トンドング	1944.9.27-1944.10.2

北ボルネオの郵便料金

北ボルネオの郵便料金は以下の通りです。

宛先	書状料金	葉書料金	図版	備考
日本及び南方占領地宛	8 銭		図5	書留料金はプラス 15 銭 (図7)
		4 銭	図6	
それ以外の地域宛 (中国、タイ)	20 銭		図8	
		8 銭	図9	



図5 公用書状：8 銭 シブ 18.6.9 → Kuching

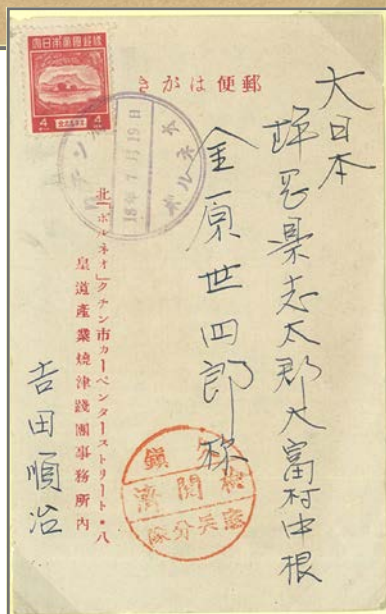


図6 日本宛て葉書：4 銭
クチン 18.7.19 → 静岡県



図7 書留書状：23銭 志布中央 1945.1.8→サリケイ

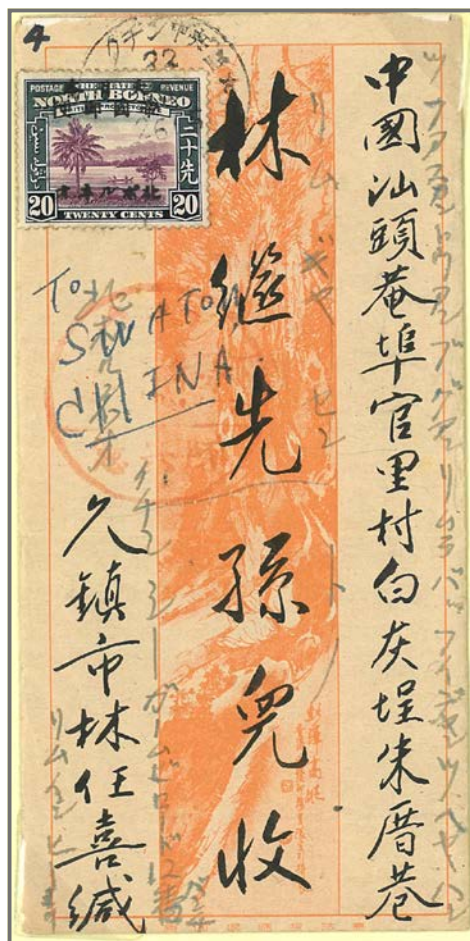


図9 中国宛て葉書：8銭
クチン中央 1945.3.12→中国 汕頭

図8 中国宛て書状：20銭 クチン中央 1945.3.22→中国 汕頭

この郵便料金表に合致しない5銭を貼った実通カバー存在しますが、料金については未解明です。
(図10)



図10 書状：5銭 前田島 / 北ボルネオ 2604.5.11 →クチン

[ad]

国際展まであと4ヶ月！直前の全国切手展（競争切手展）開幕！

会期：2021年4月10日（土）～13日（火）[4日間]

会場：郵政博物館（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：100 フレーム

主催：（特非）郵趣振興協会 /（公財）通信文化協会

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティプリンティング社、

切手市場、（一社）全日本郵趣連合、

（公財）日本郵趣協会、株式会社鳴美

STAMP
JAPANESE
2021 X

<http://kitte.com/stampex2021>

重量便についてですが、2 オンスまでが 8 銭で 2 オンス増すごとにプラス 8 セントと推測されますが、詳しい情報は今のところありません。(図 1 1)

また、航空便ですが、1943 年 7 月 10 日から海軍地区で開始されています。北ボルネオ地区でも同じころに開始されたと思われますが、料金など不明で今後の研究に期待されます。(図 1 2)



図 1 1 書状 (重量便?): 16 銭
クチン中央 1945.3.27 → ブルネイ



図 1 2 書状航空便: 1 円 11 銭
タワオ 2604.3.6 → クチン

明治 4.12.6 の大阪→堺 25 里以内・重量便

高野 昇郎

本誌 No. 29 の 26 ページ、イマキケ [コラム]、今更聞けないフィラテリー (12) に、明治 4 年 12 月 5 日から 16 日まで、わずか 2 週間足らずに終わった制度の下、大阪→堺の 4 里を運ばれた重量 2 匁以上で 4 匁以下である「3 匁」、「辛未十二月六日」との書き込みのある 200 文 (2 銭) を貼ったカバーが紹介されていた。

この月の 17 日には、4 匁毎 1 銭に改められたので、それ以後であれば、1 銭で済んだところを、2 銭徴収されたカバーである。わずか 2 週間足らずの出来事を実証できるカバーである。こんなカバーを探し出すのは、知識と執念に加えて幸運もなければ至難の業であっただろうと、思わず写真のカバーにくぎ付けになった。

JPS が発行した「日専」とか「日本普通切手専門カタログ」とかは、この短期に終わった郵便制度の一コマを取り上げていないが、2007 年版を最後に終刊した「手彫切手専門カタログ」(以下、手専) は、2007 年版では、21 ページと 24 ページに、この極短期に終わった郵便制度の一コマを完璧に収載をしていることも紹介されていた。

分かりやすいように、「手専」2007 年版から、該当する部分を引き出し、図 1 として示した。

明治 4 年	
	書状
12月5日	長崎まで開業、基本重量2匁、料金は距離制に (別記2)
別記2 距離制改正郵便料金 (明治 4 年 12 月 5 日～明治 6 年 3 月 31 日まで) 12月5日長崎まで郵便が開通し、重量2匁ごとに25里以内100文、50里以内200文、100里以内300文、200里以内400文、200里以上500文に決められた。 12月17日には4匁ごとに改められたがこの布告は二つ同時に配布されている(京都府の例)。5年3月からは新賃条例により銭単位となった。	

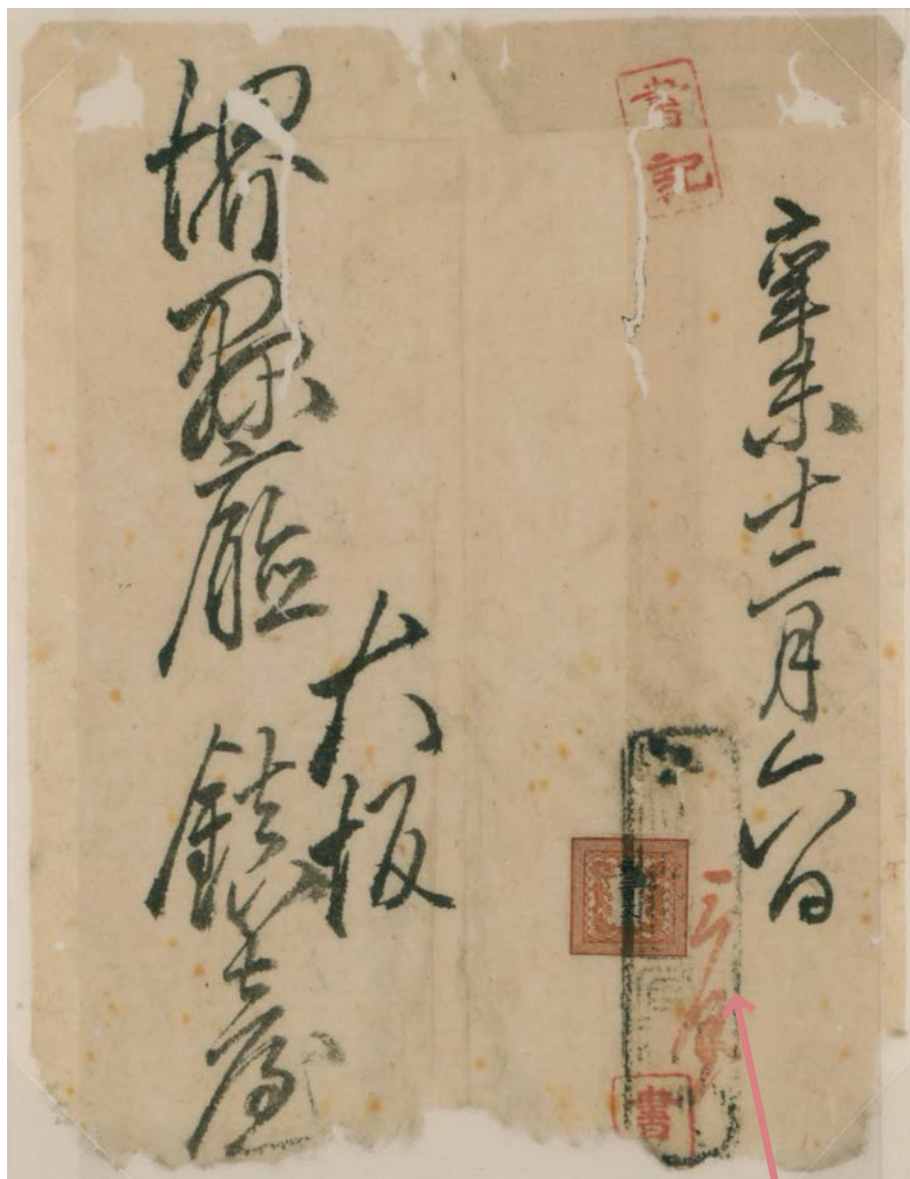
図 1「手専」2007 年版

ここからが、本稿の始まりである。

筆者は、手彫切手研究会 (以下、手研) で、この「手専」2007 年版の編集を担当したので、当時のことを懐かしく思い出した。

「手専」2007 年版の出版に際し、この項を担当したのは谷喬氏であったが、例会の席で、この項を裏付けるカバーが残っているだろうか、残っていたらぜひ見たいと、強く思いながら、慌ただしい中、話題にできずに終わった記憶がかすかに頭に残っている。

あれから 14 年、その記憶が薄れかけた折も折、このカバーが登場した。ところが、このカバーの登場は思わぬ展開を示すことになった。



25 里以内書状・重量便
大阪→堺（4 里）明治 4.12.6（1872.1.15）

三勾

一体、どなたの所有物でどういふところで見つけたのかと、ちょっと無遠慮かと思いつつ編集部
に尋ねてみた。吉田敬氏から、今は、氏ご自身の蔵品で、元は谷喬氏の所蔵のものとの返事を頂いた。

谷氏が、2007 年の「手専」発刊後に、どこかで巡り合われたカバーなのだろうかなどと思いつつ、
早速、今は長野におられる谷氏に、これまた、無遠慮に電話でお尋ねすることになった。

前置きが、縷々長くなってしまつて恐縮であるがここからが本論である。

谷氏から、このカバーは、日本郵趣協会が1969年、今から半世紀も前に創刊した「フィラテリスト」
の創刊間もない第5号に、写真を添えて解説しているとのこと教示を頂いた。半世紀も前から知る人
ぞ知るカバーだったのである。

小生、「フィラテリスト」は創刊号から購読し所持している。当時は、毎号全ページ目を通して
いたので、谷氏のこの報告も読んでいるはずである。前後の号に収載された、手彫切手の目打とか
原版の記事はかなり記憶しているのに、この記事は、まるで、記憶に残っていない。当時は、今も
そうであるが、切手のことで精いっぱい、郵便史のことまでは頭が回らなかったであろう。

重量2匁時代について

重量 2 匁 時代について

On the Revised Basic Weight and the Postage
at the Inauguration Period of Postal System

谷 喬 Takashi Tani (#21045)

本誌に連載されている、天野氏の「普通切
手のエンタツア」を興味深く拝見しておりま
すが、その中に明治4年12月5日基本重量が
2匁に改正された項で、「しかし、基本重量
2匁は12月中旬に「日付はよくわからない」4匁に
引き上げられた。」とされています。いくら
創業当時の郵便規則とはいえ、わずか1月た
らずで改正とは異例のことですが、これにつ
いて郵便明細の記録は次の通りです。

「巻6第13頁 郵便ノ部ノ2 128丁」
17日省議（決）明治4年12月
大阪出張前島郵便頭ヨ
リ別紙之通申案候ニ付此
段相向申候

今般御定相成候郵便書
状之日方志通分2匁ニテ
ハ実際不都合相生候ニ付
4匁ニ引直シ候様致度右
ハ郵便規則案更下申段ニモ
無之候間便宜御決権相成
候様相向申候也 辛未
12月12日 前島郵便頭
吉田大蔵少輔殿

とあって、このあとと正院
への御届書があり、布告
案として

「郵便書状之日方2文
目4文目6文目之割合ニ
テ里數之遠近ニ応シ賃銭
可相納短則之儀已來ハ4
文目8文目12文目之割合
ゾ以里數ニ応シ賃銭可相
納」

「大阪検査済」消しエンタツア、右は紙大図

THE JAPAN PHILATELIST, May, 1969

大で
すは
25
ま
が
大
商
存
が
っ
ま
け
最
は
ら
り
I

枚が大型「大阪検査済」で消されています。
そして未で「3匁」を書き入れがあり、だいた
い創業時も重量超過郵便でなければ日方の
記入はなかったことからみて、わずか3里あ
まりの大阪・堺間で信額 200 文が必要とな
ったものでしょう。

もっとも頃は12月6日にはまだ正式開局と
なっており、じつは、4年8月制定の大阪
以西郵便が通用されたものでしょうが、この
制度も本来増まで 100 文だったのですから、
やはり実質値上げの影響をうけた郵便と思い
ます。できれば正規の本道筋の郵便について、
それもあるべくおそい目付での2匁時代超
過重量適用の実例と期間をしらべてみたいも
のです。

それにしても正規の料金改正をした直後で
も、不評とあれば体面にこだわらず、すぐ改
正を行なったというところは、当時のお役人
はよく民衆へのサービスを心得ていたといえ
るのではないのでしょうか。

※注 これについては以前「郵便」65号に「未開
局地と郵便」として、その実在を立証したこ
とがあります。

データ
明治23年10月29日ヲ使
明治23年12月20日ヲ使
上記の2種に東京の「京」の字の「口」の
部分に一本棒がはいって「日」となり、変種
となっている。

山田 政市 (#31627)

1969年5月 会 フィラテリスト

105

その同時には、両者の字体は一般に共用さ
れたと思われますが、残念ながら、すべて到
着印ばかりなのです。これからは捺消印を採
つつもりです。

106

「手専」のバックナンバーに当たってみると、1973年の初版を除いて、1975年の再版からは、この郵便制度の一コマを採録しているではないか。筆者が編集を担当してからは、カタログ利用者から質問があれば、適切に答えてもらえるよう、解説のページには、担当者を記すことにしたが、この記事は1975年から谷氏が担当されたようで、ほとんど改変されていない。だから、編集の席では、先輩方は、議論などせず、粛々と、議事を前に進めたのだったと今になって判った。

ただ、ちょっと面白いこともある。1975年版ほかでは

12月17日には4匁ごとに改められたがこの布告は同時に配布されている(京都府の例)ので2匁単位の料金が実際行われたかどうかかわからない。

と追記されている。

改めて、谷氏の「フィラテリスト」の報告を読み直してみると、このカバーについて、

もっとも堺は12月6日にはまだ正式開局となっておらず、じつは、4年8月制定の大阪以西郵便が適用されたものでしょうが、この制度も本来堺まで100文だったのですから、やはり実質値上げの影響をうけた郵便と思います。できれば正規の本道筋の郵便について、それともなるべくおそい日付でこの2匁時代超過重量適用の実例と期間をしらべてみたいものです。

とも語っておられる。

いつか、谷氏が語った本道筋の郵便も見つかり、「12月17日には4匁ごとに改められたが、この布告は同時に配布されている(京都府の例)ので2匁単位の料金が実際行われたかどうかかわからない。」という疑問が解明されることを願っている。

[ad]

国際展まであと4ヶ月！直前の全国切手展(競争切手展)開幕！

会期:2021年4月10日(土)~13日(火) [4日間]

会場:郵政博物館(東京都墨田区・東京スカイツリータウン内)

規模:100フレーム

主催:(特非)郵趣振興協会/(公財)通信文化協会

協賛:スタンペディアプロジェクト

後援:カルトールセキュリティプリンティング社、

切手市場、(一社)全日本郵趣連合、

(公財)日本郵趣協会、株式会社鳴美



<http://kitte.com/stampex2021>

江戸時代の国際郵便（2）

慶応3年・プロシア王国

吉田 敬

十年前の PHILANIPPON のあった年、2011 年の 1 月に「日独国交 150 周年」記念切手が発行されました（右図）。

これは万延元年 1 月 24 日（1861 年）に日本とプロシア王国の間で修好通商条約が締結されてから 150 年を迎えたことを記念した切手の発行です。しかし、この条約は我が国に不利な不平等条約でしたので、残念な歴史を祝う切手という面があります。

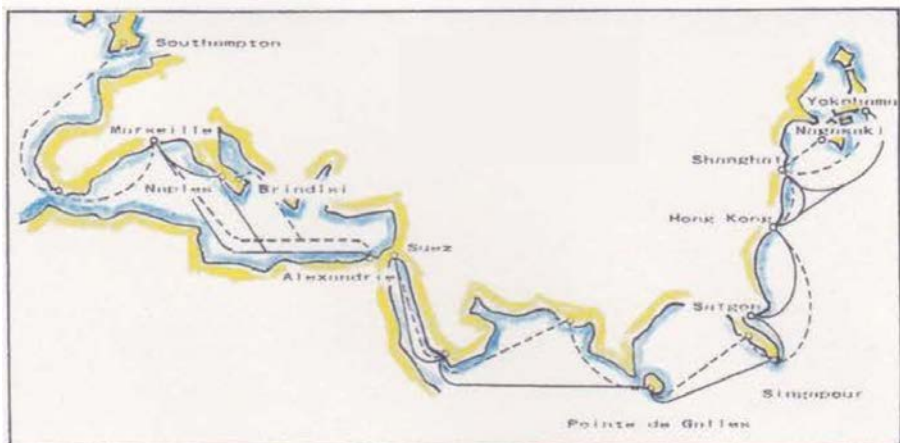
まあ昔のことだから良いのでしょうか、この前後の一連の国交 150 年記念切手の発行は、日本にとって『お祝いごとなのかな？少々不思議だな』と思って眺めていました。



ところで不平等条約で領事館を開設した諸外国のうち、郵便の取り扱いをしたのは米国、フランス、英国だけというのは、日本クラシックをやっている方では常識ですが、それ以外の国も領事館は開設していましたので、領事館郵便があってもおかしくはありません。

実際、プロシア王国の駐日領事館は 1862 年に横浜に開設されており（初代領事 マックス・フォン・プラント）、当然のことながら本国とのやりとりは郵便で行われていたと推測されます。ただ日本よりも西のアジアにおける強い権益を持つ英仏や東向きの米国と違い、アジアにおける権益が弱いプロシアの場合、日本との通信は他国の船を信頼して活用する方法しか選択肢がなかったのです。

インカミングにせよアウトゴーイングにせよ、日本とプロシアとの間の郵便は 10 通前後しか見つかっておらず、英米仏に比べるとその数量は全然少ないです。この量は十年ほど前に 5-6 通が一挙に市場に出て初めて欲しい人に行き渡った数字で、プロシアの伝統収集をメインでやっている筆者でも 1 通しか手元にはありません。



日本と欧州を結ぶ船舶ルート 実線はフランス船、点線はイギリス船（図版提供：小林彰氏）

本題に入りますが、慶応3年、プロシアからのインカミングレター（Folded Letter）です。

ELBERFELD（エルバーフェルト）は、現在のドイツ西部に位置し、来年国際展が予定されているエッセンやデュッセルドルフ近くのヴッパータール市の中心部にある地名で、ドイツ有数の工業地帯です。

プロイセンは1850年から切手を発行していますが、この折り畳み書状には、最初の日打ありシリーズである1861年シリーズから2 Sgr.（シルバーグロッシュェン）一枚と3 Sgr. 二枚が貼られ、ELBERFELD BAHNHOF（エルバーフェルト駅）局で1867年6月8日に差し出されています。プロシアの領事館がすでに日本に開設されている時期の差し立てになります。

エルバーフェルトは、ベルギー・オランダとも近い地域ですが、この当時のドイツやスイスからアジアへて郵便物は、マルセイユから地中海経由で運搬されるのが普通で、本カバーの左上にも「マルセイユ・スエズ経由」と記載があります（スエズ運河の開通前）。

プロシアでは、ドイツオーストリー郵便連合内に適用される3段階の距離制郵便料金を採用しており、エルバーフェルトからフランスまでの郵便料金は第3地帯料金の3Sgr. が適用されたと思われます。残額の5 Sgr. はフランス・横浜間の料金に当てられるわけですが、フランスが定める、日本・フランス間の郵便料金は70 Cts.（サンチーム）であり、必ずしもイコールでないと感じます。ただ、朱印「P.D.」が押捺されていることからわかるとおり、このカバーは必要料金完納で引き受けられており、他に記載も見当たらない為、プロシアの郵便局で日本宛てのカバーはいくらにするというのが定められていたのかもしれませんが。このあたりはプロシア伝統郵趣のハンドブックに当たっても見つけられずにいます。

なお、裏面には中継印は一切なく、到着印のみが差出人の印と共に押されています。文面がなく、現時点での解析情報はここまでです



ELBERFELD BAHNHOF 1867/6/8 → Marseille → Yokohama, 7/30, 8 Sgr.

書評

Dr. Paul Singer & the History of Shanahan Auctions, Five Years to the Top of the World and a Deep Fall

正田 幸弘

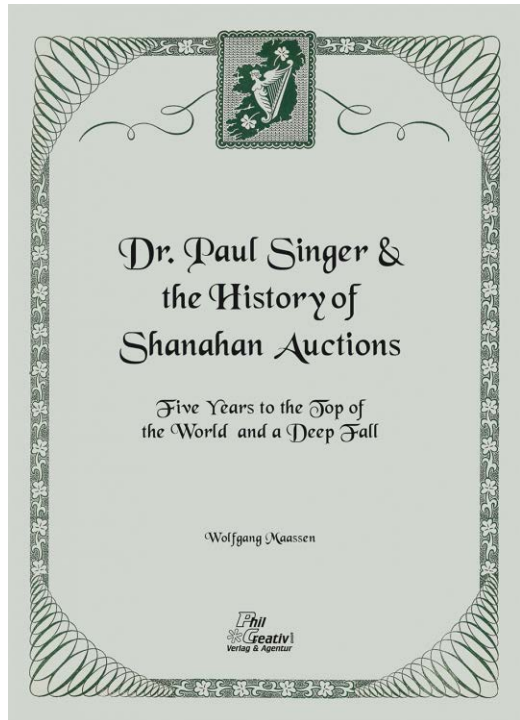
本書は、ドイツの書籍であり、(Wolfgang Maassen 著、Phil * Creativ 2019 刊)
<https://phila-shop.de> から注文できる。(A4 版 188pp 定価 37.50 ユーロ)

1954 年、アイルランドのダブリンでスタートした、とある切手オークションは短期間で急成長した。ビュルス Maurice Burrus (1882-1959) の全コレクション購入を発表し、1959 年 6 月にはその第 1 回セールが始まる予定だった。そしてその 1 か月前の 5 月 9 日開店 5 周年の記念セールの朝、EX ビュルスのロンバルディア・ベネチア等、当日のオークション品が盗難にあった。こうして第 98、99 回オークションは急きよ中止となり、警察の捜査対象となる。

元々家具やアンティークのオークションを扱っていたシャナハン商会は、年間 2 万ポンドの売り上げを誇る地域では安定した家族経営の会社だった。1954 年 2 月、アイルランドに初上陸したオーストリア国籍のユダヤ人であるシンガー Paul Singer (1911-1985) が、100 ポンドの家具を購入した。シャナハン一家は、切手のことは趣味としても事業としても一切知らなかったが、早くも 5 月 8 日には第 1 回切手オークションがスタートする。9 月からは雑誌 “Green I.S.L.E. Philately” の発行が始まり、第 5 回セール以降、オークション誌は同誌に挟み込まれる。I.S.L.E. は Ireland Stamp Lover Edition の略である。1955 年 12 月号には、シャナハン商会総勢 11 人の顔写真が表紙を飾っている。この時のシンガーの肩書は「編集者」である。

シンガーは膨大なストックを持っており、当初は彼自身の切手を売っていた。ヨーロッパ大陸の切手オークションでは、早くから売り手と買い手の両方から手数料を取っていたらしいが、英米では日本と同様に手数料は売り手のみの支払いだった。この切手オークションは買い手からも手数料を取る代わりに、出品手数料を引き下げた。ロットの落札価が 210 ポンドまでは 12.5%だが、420 ポンドまでは 10%、980 ポンドまでは 7.5%そして 980 ポンドを超えると 5%とした。大口ロットや高額品ほど有利な仕組みである。

そして 1956 年 2 月には、「投資プラン」を発表し、募集を始める。オークションで 10 ポンド以



上切手を購入すれば、4カ月以内なら売値での買い戻しを保障する「Profit from Stamps without Risk」である。最初の投資者は4か月後に25%の配当を手にした。こうして集めた資金をもとにシンガーは事業を拡大。専用の写真室も備え、オークション誌にもカラーを含め充実。1958年5月3日の4周年セールでは10万ポンドで購入したロスチルド Alphonse de Rothchild (1878-1942) 旧蔵のベルゲドルフが売られ、世界一のオークションになったと宣伝した。すでに1956年6月には鑑定委員会(料金無料)を発足させていたが、1957年12月の第58回、1958年2月の第59回セールではフランスのブラン Auguste Brun (1895-1969) が、同月の第60回はイタリアのディエナ Albert Diena (1894-1977) が全出品物を鑑定した。そして3月以降はシャナハン商会自体が全出品物の真正性を保証した。1958年6月には「Stop Less Insurance」といって、シャナハン商会はオークション購入品を「いつでも」売値で買い戻すと宣言(ただし手数料は差し引かれるが)。オークション落札者に対して、月利1%で6カ月限りの資金の貸し出しも始める。

1958年11月の第79回は初の Millionaire Sale となり、オークションには海外から80人が参加。ロットは見積価35万ポンド(約1000ドル)以上のみで平均見積価500ポンド、総額30万ポンド(日本円で3億円)。オークション後のパーティーでは10品のコース料理がゲスト180人と社員96人にふるまわれた。この費用に6000ポンド使った。世界各地を飛び回って出品物を集めるシンガーは、飛行機代に年間3500ポンド使っていた。当初の予定に従って5月30日のオークションが、裁判所の許可のもと清算人の管理下で実施されたが、売り上げはわずかだった。

シャナハン商会の破産で、出資者4万2000人が被害にあった。1250～1600万ポンド集めたといわれているが、会社には600万ポンドしかなかった。シャナハン事件は世界郵趣史に残る切手投資詐欺事件だが、不明な事だらけである。

3年に及ぶ裁判闘争では、会社の代表者であるシャナハン Desmond Shanahan (1926-2010) には1960年7月21日に懲役(重労働)15カ月の判決が下りた。シンガーには詐欺罪をはじめとする各種犯罪が合算されて、懲役14年の判決が同年11月21日に下りた。しかし、この裁判の陪審員長がシャナハン商会に375ポンド出資している利害関係者であることから、シンガーは裁判のやり直しを求めた。1961年6月23日に再審が決定し、1962年1月24日に新たな判決が下りた。今回は証拠不十分により無罪である。翌日にはシンガー夫妻はダブリンから姿を消した。

盗まれたといわれていたビュルスの英国とオランダは、別室にあって無事だった。これらはロブソン・ロウ Robson Lowe (1905-1997) が購入し1963年秋のセールに出した。5月9日当日の朝に盗まれた切手の大半は翌年スイスで発見された。1959年2月以降シャナハン商会で働いていたギリシヤ人、タソポロス Apostolos Tatsopoulos のジュネーブの住居内で、1960年10月に逮捕されたタソポロスは、1961年4月7日スイスへの密輸(15万スイスフラン)容疑で懲役12カ月の判決を受けた。これらの切手はダブリンに戻され、1961年2月に清算人オブライエン G.W.O'Brien の手によってシャナハン商会の名前でオークションにかけられた。

こういった経緯が本書の第2章から第9章で詳述されている。評者も10年以上前に『呉ポスト』での連載記事のビュルスの部でこうした大枠については書いたことがあるので、公表済みの内容には特段の新鮮味はない。しかし著者が収集したオークション誌の現物や英国で発行されていた週刊切手誌“Stamp Collecting”の記事が引用されていて、当時の雰囲気や流れが極めて分かりやすい。オークション誌は世界中に最大6万部が配られ、当時の『郵趣』にも毎月広告が載っている。破産後の1959年7月号でも1ページ全面の広告が掲載されているので、広告料は前払いだったのだろう。

“Stamp Collecting”誌は主筆のチャップマン Kenneth Chapman がオークション会社の広告を一貫して載せず、批判的な記事を含めて独立を保ってきた雑誌である。さらに1959～1962年ごろの英国やアイルランドの一般新聞の切り抜き等の資料をロブソン・ロウが集積して長年保管していた。これらの23巻に及ぶ資料を2017年春フェルドマン David Feldman が売りに出し、著者が購入したことが執筆のきっかけだそうである。

シャナハン事件に関する文献としては、

- ① Seamus Brady, "Doctor of Millions" Anvil Books Ltd. Ireland (1965)
- ② George Henhoeffler, 'Singer of Shanahans. The Case of the Fabulous Fat Man'
American Philatelist (May 1975) Vol.89 pp417-424
- ③ Carlrichard Brühl, "Geschichte der Philatelie" Vol.1 (1985) pp231-232, pp372-376
- ④ 山崎好是『切手に生きる』(1986) pp120-121 (61) シャナハン事件
等がある。

本書でも脚注に多数登場する①は、プロのジャーナリスト (Daily Express の記者) が週刊誌に連載した記事をまとめたペーパーブックである。主として裁判記録をもとに書いたもので、②や③も同書に依っており、今まではこの事件の基本書だった。評者も入手してかつて読み始めたが、途中で挫折した経験がある。

そもそも Paul Singer なる人物はいったい何者なのか? 21 世紀に入ってからでもスペインの Afinsa が消滅するなど、一般大衆から資金を集める切手投資がうまくいくとは思えないが、一体シャナハン商会の資金の流れの実際はどうだったんだろうか? さらに言えば 5 月 9 日の盗難事件は狂言ではないのか? そう言った疑問を評者はずっと抱えてきた。おそらく著者も評者と同様の疑問を持っていたのであろう。かなりの解答が本書で得られた。

第 1 章がポール・シンガーとその家族。第 10 章が事件後のシンガーの行方。75 万ポンドがシンガーや妻 Irma (1922-) の名義でスイスやカナダの銀行に預金されたが、うち回収できたのは 8 万 4 0 0 0 ポンドに過ぎない。さらに 1979 年 4 月カナダのトロントの新聞に「私はあなたを億万長者にしますよ」というシンガーの記事が掲載されている。

そして本書の価値を高めているのが第 11 章である。1957 年からシャナハン商会で働いていたグラス Sydney Glass (1931-) に対する、著者自身による 2018 年 11 月のインタビューをもとにしている。盗難品のうち超高級品のみが行方不明であるが、彼はその後の売却事実を追及している。【図】

問題のロンバルディア・ベネチアのコレクションはビュルスの旧蔵品ではあるが、シンガーが直接買ったものではなかったことは③のブリュール本にも書かれている。グラスによると、これらはタソポロスとともにイタリアのミラノからやってきて、事件後に彼とともになくなった。ビュルスはこのコレクションや旧イタリア諸国を好んでいたが、シンガーではなく第 3 者に売った。この第 3 者が誰であるかは不明であるが元ルーマニア国王のキャロル 2 世 Carol II (1893-1953) の関係者の関与も考えられる。

このコレクションは盗まれるために持ち込まれ、所有者に返された。実は 1959 年初頭にはシャナハン商会は資金繰りに苦しみ始めており、盗難事件は仕組んだものだ、と彼は推測している。

巻末の国別顧客数を見ると、フランス 2 4 4、アメリカ 2 3 4、西ドイツ 2 0 9、には遠いが日本も 9 0 となっている。ただ総数 3 4 4 3 中、イギリス 3、アイルランド 0 であるからこの数字は正確な顧客数とは言えないが、日本からはまだ個人での海外送金はできなかった時代だが、切手商との取引はあったのだろうか。1958 年 5 月の第 65 回セールでは「デグロン君カバー」第 1 号が見積価 80 ポンド (220 ドル) で登場し日本郵趣界に衝撃を与えた。今日のポンドとは異なり、当時は 1 ポンドが 1 0 0 8 円。1 ドル 3 6 0 円の時代である。日本の国内封書郵便料金 10 円。大卒初任給 1 万 5 000 円のころのお話である。

なお著者の Maassen 氏は国際郵趣ジャーナリスト協会 AIJP (Association Internationale des Journalist Philateliques) の会長で、本書の出版社は主として氏の著作を発行する会社だが、古本や郵趣付属品、郵便史関連資料も扱っている。新刊本はいままではドイツ語のものだけだったと思うが、今回は英語版も出版された。英語版とドイツ語版を比べてみると後者の方がページ数が多いが、本文中の写真図版はすべて同一なので内容も同じであると思う。

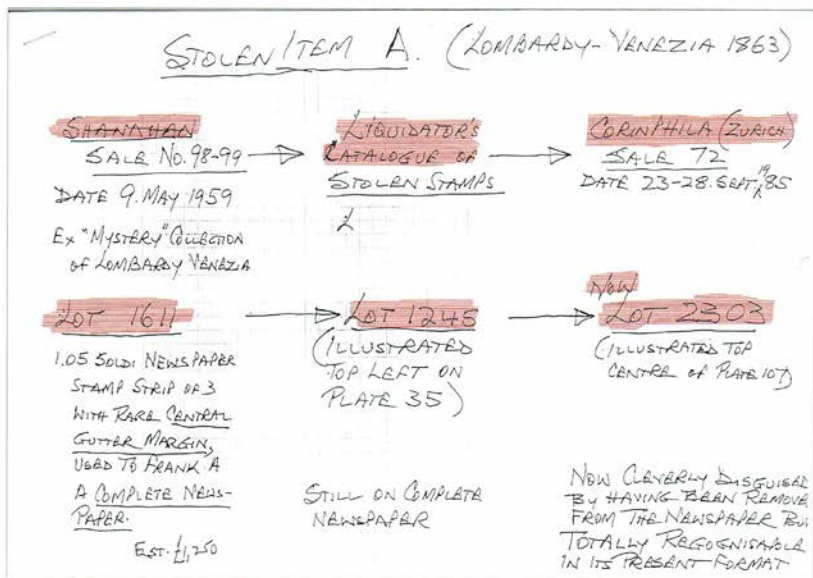
Granted: this is just one theory of several. To this day, it is not known which clients were really in the background or knew about the processes. However, Glass was able to trace parts of this former collection or individual items from it, because the events "did not let him go" in later years. He kept a detailed list, on which he noted data and facts, as soon as he could identify items in later auctions which were formerly to be auctioned at Shanahan's. With other experts, he is convinced that many lots from the 98th-99th Shanahan auction of 9 May 1959 have been altered: multiples separated, covers reduced to pieces, and more.

Some examples from his list may support this:

- Lot 1611: 1.05 Soldi newspaper stamp, strip of 3 with rare central gutter margin, used to frank a complete newspaper. This lot – it was also listed

as lot 1245 in O'Brien's "search catalogue" and illustrated on plate 35 – reappeared at the 72nd Corinthia Auction on 23-28 September 1985 as lot 2303 (plate 107). In his list, he noted: "Now cleverly disguised by having been removed from the newspaper. But totally recognisable in its present format."

- The original Shanahan lot 1037 was also found at the above-mentioned Corinthia auction under lot 4498.
- At the following 73rd Corinthia Auction of 23-28 September 1985 the former Shanahan lot 332 ("Spain: 1850: 5 Reales, strip of 5 stamps on piece (of letter), tied by postmarks with distinctive impressions of the postmarks", now described under lot 5821 and illustrated on plate 288) was encountered again. Only now the strip of five was



In this original list, Sydney Glass has over the years noted down items that have become known to him as "ex-Mystery Collection" in their later dispersal.

From: Sydney Glass

戦前の欧文櫛型 JAPAN 印 (7)

TOKIO 局・TSURUGA 局

杉山 幸比古

2.1. TOKIO 局 (東京)

東京局の関連として「TOKIO CT」があるが、明らかな電信印であるので、これは後の電信局の部へ回させていただくこととする。

1) ゴム印 (TOKIO)

東京局はまずゴム印でスタートした。1905年中に使用開始した局は、横浜、大阪、東京とされる。図1に中型年号2字印の最後期を示すが、これが1905年(明治38年)11月27日である。ゴム印の最古使用データはハンドブックの12月1日で、納得のいくデータである。



図1 TOKIO 年号2字印の最後期データ。1905年11月27日
(年号がやや不鮮明だが、切手上の丸一印が明治38年)



東京局	材質	最古	最新	備考
TOKIO	ゴム	1905.12.1**	1934.4.12**	
TOKYO	ゴム	1910.12.9**	1911.10.3**	
TOKIO	金属	1907.12.25	1934.4.12*	収縮型
TOKIO (C 欄 JAPAN 逆)	金属	1927.7.28	1927.8.23	
TOKIO	コルク?	1910.2.16**	1910.3.5**	

各局の最古 / 最新日付における備考は、* 鳴美本 ** ハンドブック

図2に12月12日の中継印（黒）を示す。1905年中の使用例は楕型和文印に先行するもので興味深いが、東京は横浜のような年号2字印の数字活字流用パターンではないことも注目される。

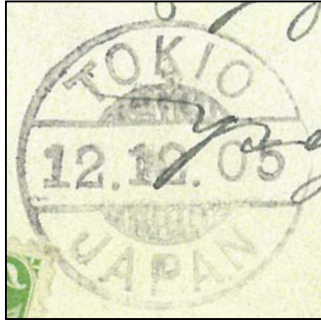


図2 TOKIO印の1905年使用例。
1905.12.12



TOKIO ゴム印は最終まで使用され、特に大きな変化もないようである。東京の特徴としては郵便として金属印も時に併用されていたことだが、震災切手時期にはゴム印優位のようにあり、時期的な問題もあるのかもしれない。

印色に関しては黒が多い印象だが、震災切手上では青黒～紫が多いという。図3に1912.3.26の茶色印を示すが、何か意味のある日付なのかどうかは不明である。また、1929.8.21（ツエッペリン飛行船訪問記念）の赤印の報告がある。（＊1）



図3 TOKIO 茶色印

2) ゴム印 (TOKYO つづり)

途中、短期間、局名の綴りがヘボン式の「TOKIO」ではなく、日本式の「TOKYO」になったゴム印が使用された。(図4) 明治時代には日本式及びヘボン式のローマ字表記が並存していた。日本式ローマ字表記は天文学者の寺尾寿が考案して、1885年に物理学者の田中館愛橘が提唱した方式である。「TOKYO」綴りの最古データは1910.12.9 (ハンドブック)、最新データは1911.10.3 (ハンドブック) であり、1年弱ほど使用されたことになる。

この期間中、全てが TOKYO 印だったわけではなく正常の「TOKIO」印も併用されている。(図5)

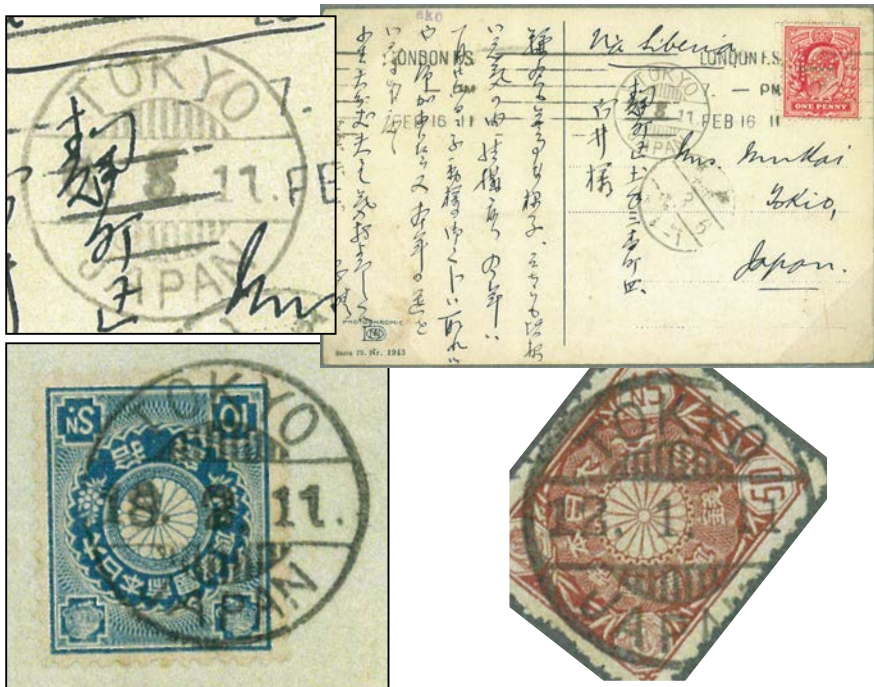


図4 「TOKYO」つづり



図5 「TOKYO」印と並行使用されていた「TOKIO」印

3) 金属印 (収縮型)

TOKIO 金属印の特徴としては、郵便用にも広く使われており、ゴム印とあまり区別されていない印象がある。(図6、7、8) タイプは普通の収縮型である。

最古データに関しては、鳴美本の1905.12.1はゴム印の間違えと考えられ、ハンドブックにデータがないことから、手持ちの1907.12.25(図6)を当座の最古データとさせていただく。これは当然さらに遡れるものとする。最新は鳴美本の1934.4.12である。



図6 収縮型金属印



図7



図8

4) C 欄 JAPAN の天地逆の金属印

TOKIO 金属印の大きなバラエティーとして、短期間、C 欄の JAPAN が天地逆向きに入ってしまった印が使用された。このパターンとして OTARU の例を既述したが、TOKIO は短期間で正常化されたものの、そこそこの存在数がみられる。(図9、10) この印のデータとしてはハンドブックに最古1927. 7. 31、最新1927. 8. 3があるが、図9が最古を、図10が最新を更新する。従って現在のところ、7/28～8/23の約一ヶ月、使用されていたこととなる。



図9 C 欄 JAPAN 天地逆向き印



図 10

5) いわゆるコルク (?) 印

最後に TOKIO 印の中でももっとも興味深いものとして、この印を取り上げる。

この印に関しては1980年後半頃に行徳国宏氏によって気づかれていたもので、1988年に千葉氏の報告(*2)とそれに対しての行徳氏のコメントが述べられている。

行徳氏はこの印が使用された1910年頃に、コルク製ローラー印が試用されたことに注目し、この印の印材としてコルクの可能性を提唱された。この印は数字活字に大きな特徴があり、これまでのゴム印、金属印とは明らかに異なる材質感を感じさせるものである。

当時の櫛型印の活字の印材については、本池悟氏が、「公達によれば鉛製、水牛製、護謄製があり、事業用品の中には入れられていないが、黄楊製のものがある」、と述べられている。(*3)ここにさらにローラー印に試用されたコルク製がはいり、行徳氏は時期的なことから、すぐに使用中止になった点から「コルク説」を提唱された。

ただ、コルク製の欧文ローラー印については水野虎杖氏が、コルク製の特徴として「月日枠両側の切れ目と“AN”の文字にかかる皮目印痕らしきものが明瞭」(*4)と述べており、一方このTOKIO 印にはそういった特徴はないようである。

素人目からすると、この印の数字活字の「2」や「5」にみられる、優雅なカーブや玉状のセリフはなんとなく動物の角材を思わせる印象で、水牛製と言われればなるほどという感じなのだが、いかがだろうか。この印材の問題は極めて興味があるところであり、今後のさらなる検討に期待したい。

使用状況については、最古1910.2.16、最新1910.3.5というハンドブックのデータがある。使用期間約20日弱といったところか。この印は中継印、到着印として少ないながら認められるが(図11)、菊切手上的抹消印としては3例が確認されているのみである。図12は今のところ唯一のカバーであり、図13の5銭と25銭ペアへの電信使用らしき例がオークション誌(※5)で確認された。

この印も1910年、TOKYO 印も1910年であり、前にも述べたが、1910年すなわち明治43年前後の菊切手には小穴目打、そしてその目打と紙質の組み合わせからブラインド・パーフ様の特徴ある切手群が出現しており、極めて変化に富んだ年として注目される。

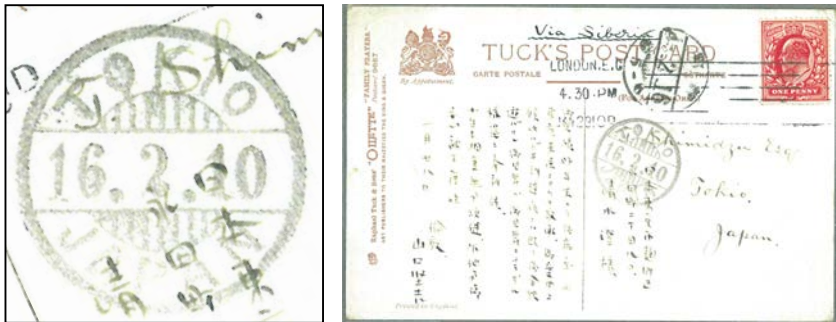


図11 いわゆる「コルク印」。到着印としての使用

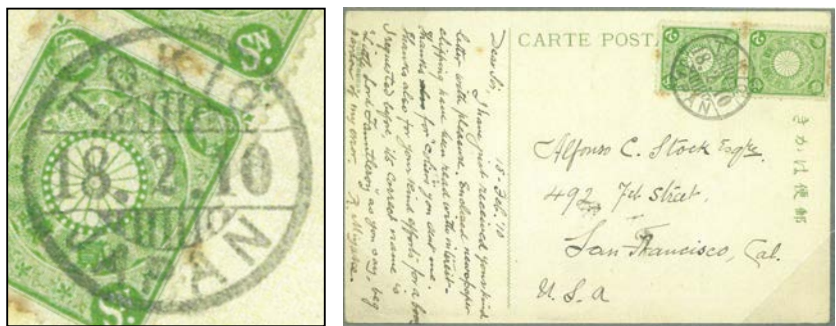


図12 いわゆる「コルク印」の抹消印としての使用例



図13 いわゆる「コルク印」の抹消印としての使用例

2.2. TSURUGA 局（敦賀）

19世紀末以来、敦賀は日本海航路の要衝として大きな可能性を持っていることが示されてきた。それは敦賀港が大きな船舶の接岸可能な深い水深を有する良港だったからである。しかしながら、1904年来の日露戦争の影響から、しばらく日露の交流は下火となっていた。1905年9月のポーツマス条約締結後、日本海を通じての商業活動が徐々に回復し、1906年、日本政府は大阪商船会社に敦賀—ウラジオストック間の航路を委託した。

1907年7月以来、大阪商船はこの航路に鳳山丸、嘉義丸という2500トン級の蒸気船を就航させた。1907年9月、こういった国際的な商業活動の亢進を受けて敦賀局は外国郵便交換局となり、ゴム印の櫛型欧文 JAPAN 印が導入された。

1) 金属印

a) 前期金属印（A 欄バランス+ C 欄収縮型の混合型印）（図14）

そのゴム印に先立ち、最初に敦賀で使用されたのがこのハイブリット型金属印で、最古データ 1906.3.18(*6)、最新 1907.9.2(*7)である。このタイプの金属印は先に述べた様に、大阪、小樽でも確認されている。ただ、敦賀の場合は A 欄の TSURUGA の文字が太字というおまけがある。

1907年9月の外国郵便交換局への指定後、この金属印は突然使用が中止された様であり、短命なものとなった。

b) 後期金属印（収縮型）

12年後の1919年6月になり、金属印が突如復活する。しかしながらこの印は前期のものと異なり、通常の収縮型である。この印は1922年頃まで使われた様ではあるが、大変稀なものであり、JP 誌の記事(*8)では3例の報告のみとされている。日本ではオークション誌に1例、確認している。(*9) 前期と比べ後期の金属印は25mm 径とやや大きいとされる。この間、ゴム印はずっと使用されており、どの様に使い分けられたのかは不明である。



図14 TSURUGA 初期金属印（A 欄バランス+ C 欄収縮型）

敦賀局	素材	最古	最新
TSURUGA 混合型	金属	1906.3.18	1907.9.2
TSURUGA 収縮型	金属	1919.6	1922
TSURUGA	ゴム	1907.9.10	1934.4.19**

各局の最古 / 最新日付における備考は、* 鳴美本 ** ハンドブック

2) ゴム印 (図15、16、17)

前述した様に、敦賀局が外国郵便交換局に指定されたことにより導入されたと考えられる印であり、最古データとして1907.9.10(※10)がある。この印は黒または紫印でヨーロッパからの郵便物上に中継印として大量に(掃いて捨てるほど)存在している。(図16)ただし、1907～1909年の切手上的の抹消印は少ないという。(※8)

ただ、1917年(大正6年)、第一次世界大戦とロシア革命の発生によりシベリア鉄道ルートが閉鎖され、日本海航路も休止されるとこの時期に、一旦使用が停止された。この最終期データとして丹下氏は1917.12.9のハガキデータを提示されている。(※11)そして、1922年頃再開され、これはちょうど「KOBE2」が廃止されて「KOBE」へ戻った時期にあたる。図17に再開後の後期の敦賀ゴム印を示す。前後で特に印としての変化はないようである。



図15 TSURUGA ゴム印



図16



図17 TSURUGA ゴム印の後期例

<引用文献>

- (* 1) 大西二郎。色変わり欧文印。関西郵趣 (8) : 2 2 9 - 2 3 3 , 1 9 7 5
- (* 2) 千葉晋一。欧文櫛型印の年・月・日の字体に新種。日本フィラテリー 2 0 (4) : 2 5 , 1 9 8 8
- (* 3) 本池悟。詳説櫛型通信日附印 初期 IV。駅逡 1 7 (1 1) : 2 1 2 - 2 1 6 , 1 9 9 3
- (* 4) 水野虎杖。日本のローラー印 (II. 欧文) フィラテリスト 7 (1) : 1 - 9 , 1 9 7 5
- (* 5) サンフィラ・オークション 1 7 2 回 (1 9 9 7 . 2 月) # 5 7 7
- (* 6) 伊藤則夫。日本海航路の PAQUEBOT 郵便 (1 8 9 3 年 ~ 1 9 2 3 年)
- (図 6) 郵趣研究 1 4 7 号 : 1 6 - 2 6 , 2 0 1 9
- (* 7) タカハシスタンプ・オークション 5 7 0 号 (2 0 1 4 年 3 月) # 3 2 1
- (* 8) Swenson, C.A.L. Tsuruga roman-letter comb cancellations.
Japanese Philately 65(6):354-357, 2010
- (* 9) サンフィラ・オークション 1 1 1 回 (1 9 8 9 , 1 0 月) # 4 0 2
- (* 10) タカハシスタンプ・オークション 5 0 1 号 (2 0 0 8 年 6 月) # 3 4 8
- (* 11) 丹下甲一。日本海航路の復活と敦賀の外国郵便日付印。郵趣研究 8 5 号 : 2 2 - 2 3 , 2 0 0 8

<追補・訂正>

SAPPORO 局

東京の菊切手収集家の方から、札幌局の最古データを大幅に更新するカバーのコピーをいただいた。菊 2 0 銭 1 枚貼り米国宛書留で、「0 7 . 3 . 1 6」と活字は入っているが、横の TOKIO 中継印 1 8 . 3 . 0 7 と裏の着印から数字活字の入れ間違いで、「1 9 0 7 年 3 月 1 6 日」消しである。

極めて鮮明な黒印であり、欧文印が配備されて間もないため局員が数字活字を入れ間違えたのであろうか。従って SAPPORO の最古データを 1 9 0 7 . 3 . 1 6 に訂正させていただくとともに、提供氏に深く感謝する。菊切手上的 SAPPORO 櫛型印は極めて稀と思われ、貴重なカバーである。



無料登録・無料入札の流れ

Philasearch で検索!

- ① www.philasearch.com/jpを開く
- ② 最新オークションからロットを選択し、入札用紙に追加する
- ③ 個人情報登録後、担当会社に入札を送ってから入札完了!

世界の切手オークションが お手軽に

170社以上
参加中

以下の東アジア専門オークション等をご紹介します



Schuyler
Rumsey
Philatelic
Auctions



interasia
auctions



おすすめ!

ご自宅からリアルタイム
で入札可能!

困難な時代の中でもご自宅の安全な環境から
リアルタイムでライブ・オークションにご参加を!



www.philasearch.com/jp

※ フィラサーチは、販売代理として日本語対応のウェブサイト及びサポート窓口を無料で提供します。各販売の担当オークション会社により手数料などが発生する場合があります。ご入札送付の際、入札規定をご確認ください。

※ 担当オークション会社へのご連絡、お問い合わせにつきましては、英語のみの対応となります。日本語対応のお問い合わせ・ご意見・ご質問・ご要望などは、service@philasearch.com までご連絡ください。

戦後の欧文櫛型印（7）

C欄 JAPAN・後発グループ（上）

神宝 浩

戦後の欧文櫛型印は、1946年9月の外国郵便再開から1951年10月までの約6年の間は、使用局が、外国郵便の取扱量の多い大局や地方の有力局、あるいは特定の空港、ホテルにある局などに限られていました。

しかし1951年秋になって公達第159号（1951年<昭26>10月20日付。11月20日施行）が発出され、各地の県庁所在地局や都内の主要局などにも欧文櫛型印が配備されて、使用局が全国的に拡大し、局数が一気に増えました。

①	C欄 NIPPON グループ
②	C欄 JAPAN・先行グループ
③	C欄 JAPAN・中間グループ
④	C欄 JAPAN・後発グループ
⑤	事務用印流用グループ

こうした1951年11月以降に各地で使用が始まった欧文櫛型印はいずれもC欄 JAPAN で、これらの印のグループを、本稿では「C欄 JAPAN・後発グループ」と呼んでいます（表の④）。

これら「後発グループ」の局数は、まだ未確認のところもあり、総数は確定していませんが、少なくとも40局あまりが確認されています。「後発グループ」の印は、ごく一部の例外を除いて基本的にすべて金属印です。

本稿では、この「後発グループ」を便宜上「東日本」、「東京と中日本」、「西日本」の3つに分け、筆者が所有している局の印影を順に紹介していくこととします。今回はまず「東日本」で、北海道、東北、関東（東京を除く）の各局を取り上げます。

SAPPORO

北海道では、小樽局や函館局で欧文櫛型印の使用が先行していましたが、道内の中心である札幌局では、ようやく1951年11月になって、欧文印全国配備の一環として欧文櫛型印 SAPPORO / JAPAN の使用が始まったようです。

SAPPORO 印には特記事項が2つあります。一つは使用時期で、欧文櫛型印は一般に1952年末をもって使用が打ち切られていますが、SAPPORO の金属印には1953年になってからの使用例がみられます。もう一つは、SAPPORO の場合、金属印のほかに、例外的にゴム印も存在していることです。もっともこのゴム印の使用例は極めて少なく、めったに姿を見ることがないので、収集はなかなか困難です。

図1は、米国宛航空書状に、SAPPORO / JAPAN の金属印が押されたものです（米国宛航空書状の郵便料金は、このカバー差出の前年の1951年12月に83円から80円に改定されましたが、差出人はこれを知らなかったのか、旧料金分の切手が貼られています）。

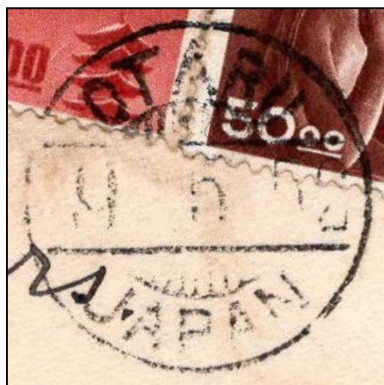


【図1】SAPPORO 1952.1.7

OTARU

小樽局では、C 欄 NIPPON の OTARU 印が1951年になっても使われていて、C 欄 JAPAN の OTARU 印への切り替えは、前記公達の一環として行われたのではないかと推測されます。その意味で、本稿では C 欄 JAPAN の OTARU 印の位置づけは、「中間グループ」ではなく、「後発グループ」としました。「後発グループ」の印には先行する C 欄 NIPPON 印は存在しないのが通例ですが、OTARU / JAPAN はその例外といえます。

図2は、ゼロ付の塔航空30円と弥勒50円を貼った米国宛航空書状に対して、OTARU / JAPANの金属印が使われたものです。



【図2】OTARU 1952.5.9

AOMORI

図3は、AOMORIの使用例で、金魚35円4枚ほか計160円分の切手を貼った米国宛2倍重量航空書状に、AOMORI/JAPAN印が鮮明に押されたものです。使用時期は1952年12月下旬で、この印の使用打ち切り間近の時期の使用です。



【図3】AOMORI 1952.12.22

MORIOKA

図4は、MORIOKAの使用例で、公園、観光、年賀の3種計24円を貼り合わせたドイツ（当時は西ドイツ）宛の書状に、MORIOKA/JAPAN印が鮮明に押されたものです。MORIOKAの印は、担当の局員が丁寧に押印したのか、本例に限らず一般に鮮明な印影のものが多いようです。



【図4】MORIOKA 1952.8.25

YAMAGATA

東北地方の欧文櫛型印は希少局が多いですが、YAMAGATA / JAPANの希少度もかなりのものです。図5は、80円分の切手を貼った米国宛航空書状に、YAMAGATAの金属印が押されたものです。YAMAGATAの印には、本例のようにB欄の日付が規則どおり日、月、年の順で表示されたもののほかに、一種のエラー印として、年、月、日の順に表示されたものがあります。

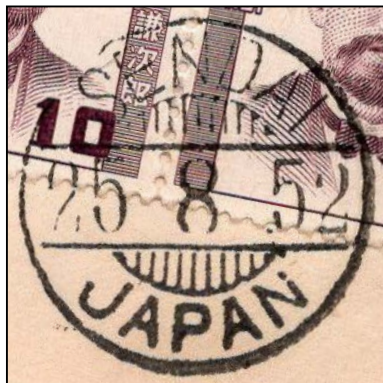


【図5】YAMAGATA 1952.12.7

SENDAI

仙台局はそれなりに外信便の取扱量があったように思われますが、SENDAI / JAPAN印は、一般の外信便に使用されたケースはかなり稀で、主に FDC に対して使われたようです。

図6は、文化人・梅謙次郎の FDC に対して、仙台の風景印とともに SENDAI / JAPAN印が使われたもので、田型貼の40円は、米国宛航空印刷物の料金に該当しています。



【図6】SENDAI 1952.8.25

FUKUSHIMA

福島局にも欧文櫛型印の配備がありましたが、FUKUSHIMA/JAPAN印も一般の外信便に使われたケースは稀で、使用例はほとんどが第7回国体（南東北3県で開催）の記念切手や地元の磐梯朝日国立公園切手のFDCに限られています。

図7は、第7回国体記念のFDCで、裏面の塔航空30円と合わせて、料金40円の米国宛航空印刷物（開封便）にFUKUSHIMA/JAPAN印が使われたものです。



【図7】FUKUSHIMA 1952.10.18 左上：表，右下：裏

MITO

水戸局の欧文櫛型印MITO/JAPANは、SENDAIやFUKUSHIMA以上の希少印で、筆者の知る限り、単片を含めてもこれまでほんの数例がマーケットに姿を現したにすぎません。

図8は、立山航空55円と塔航空25円を貼り合わせた料金80円の米国宛航空書状に、MITO/JAPAN印が使われたものです。



【図8】MITO 1952.7.2

CHIBA

千葉局の欧文櫛型印CHIBA/JAPANは、従来かなりの希少印でしたが、最近になって少し姿を見かけるようになりました。ただ使用されているのは、一般便ではなく航空切手や文化人のFDCが多いようです。

図9は、ゼロ付塔航空25円と30円のFDCにCHIBA/JAPAN印が使われたものです。このカバーは塔航空のほか普通切手や別府観光が雑多に貼り合わせてあって、FDCでありながら一般便のような雰囲気を感じさせるところがかえって面白いように思います。



【図9】CHIBA 1951.12.20

HAKONEMIYANOSHITA

神奈川県・箱根にある箱根宮ノ下局にも、欧文櫛型印の全国配備の一環として、HAKONEMIYANOSHITA/JAPAN印が配備されました。外人観光客が差し出す外信便の利用がそれなりにあると考えられたのでしょう。もっとも、収集界に残されているHAKONEMIYANOSHITA/JAPAN印の使用例は極めて少なく、この印は戦後の欧文櫛型印の中でも、三本指に入る最難関の一つと言えるでしょう。

図10は、塔航空5枚計125円分の切手を貼ったドイツ（当時は西ドイツ）宛の航空書状にHAKONEMIYANOSHITA/JAPAN印が押されたもので、筆者が知る限りでは、この印の実通エンタエアは、これまでのところ本例以外にあと1点を確認しているだけです。印影は、A欄に「HAKONEMIYANOSHITA」と17文字も詰め込んで、やむをえないとはいえ、かなり無理な作りになっています。



【図10】HAKONEMIYANOSHITA
1952.9.11

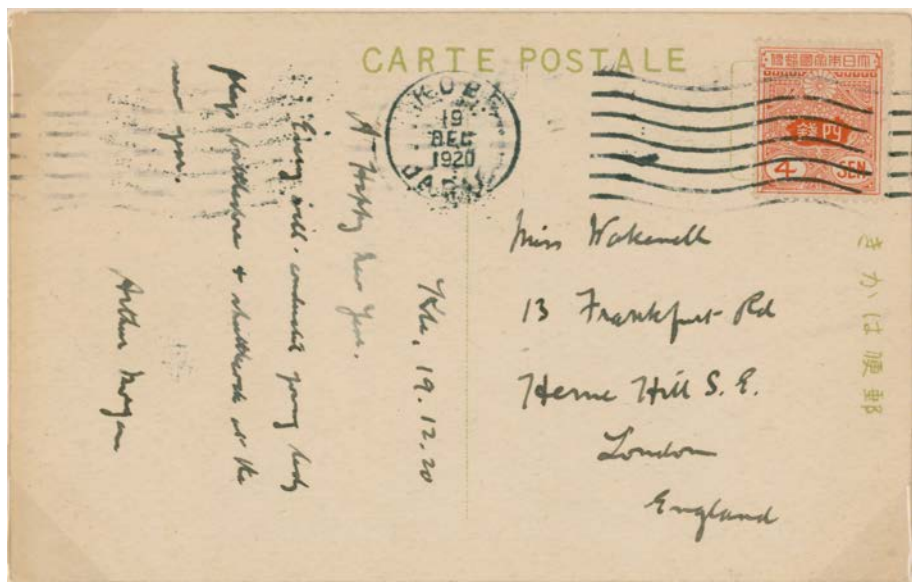
吉田 敬

昨年発足した日本切手研究会（代表者：横山 裕三氏）には、二回に一回くらいの割合で参加させていただき、皆さんの発表を聞いて学ばせていただいている。『移動時間も掛からず、なんて便利なんだ！』と当初こそ思ったが、複数の ZOOM 例会を兼ねているから余計そうなのだが、簡単に参加できると思うとアポイントがつかず、結局参加できないなんてこともある。参加できないに限って貴重な話がされるから困ったものだ。やはり万難を排して参加せねば、と思う今日この頃だ。

それはさておき、ZOOM 例会の良いところは、雑談タイムに他の参加者に対して、ダイレクトに質問をできる点にある。みんなしょっちゅうそれをやっているから、質問するハードルも低い。僕も時々質問させていただいているが、僕が他の人より詳しい日本切手の分野はかなり限られているので、回答する側になることはそんなに多いわけではない。ただ、富士鹿・風景や欧文機械印については質問いただくことが多く、今回の記事は、そのような質問に回答する中で気づいた事例の紹介である。

到着印としての使用を前提に再開された戦後の欧文機械印と異なり、戦前に限れば欧文機械印は、引受印としての用途が主目的だった。葉書専用機だった国産機しか選択肢のない状況が、書状も扱える米ユニバーサル機が選択肢に加わった状況になり、欧文機械印はその導入当初から書状・葉書を問わず引受印に活用された。実際、欧文機械印の最初期使用とされる1920年12月19日の使用例も私製葉書の引受時の抹消だった(図1)。競争展を考えると引受印の方が裏面に押される中継印や到着印よりも目立つのでホッと胸を撫で下ろした。

しかし、日本切手研究会で質問された内容は、「欧文機械印の中継印・到着印としての使用はどれくらいあるのか？」だった。そう言われてみればそんなにない気もするものの、忌み嫌うとまでは行かないものなるべく買わないようにしてきたわけで調べたこともなかった・・・。



✉ 1 KOBE 19 / DEC / 1920 4 Sen postcard rate to London / GB

そこで自分のコレクションをみでみることにした。欧文機械印は高校生の時から収集していたものの、本格的に入手できるようになったのは、2007年に収集再開して以降だったが、そう考えると15年弱集めていることになる。僕の手元には1000枚もの欧文機械印がある。まあ戦後の駄物が多いのではあるが・・・。

戦前は郵便局とタイプごとにバインダーで整理しているので、その中から中継印・到着印を抜く作業をすれば良いだけだ。しかし意外と無い。ようやく探したもののから最初に到着印について、次に中継印について述べたい。

インカミングメールへの到着印使用

外国から到着する郵便物には外国郵便交換局で到着印が押捺されるが、その用途に欧文機械印は使用されていた時期がある。



図2 KOBE 21 / DEC / 1920 2 Cent postcard rate to Japan, Los Angeles → Kobe → Fukuoka

図2はその最初期の使用例で、図1の2日後の1920年12月21日である。導入当初から到着印としての用途が考えられていたことがわかるが、不思議なことに到着印の使用が確認されている七本波の欧文機械印はKOBEだけ。YOKOHAMAは未見である。

欧文機械印の七本波の収集ではKOBEの方がYOKOHAMAより困難だと考えられている中で到着印使用が出ないということは、YOKOHAMAは到着印として欧文機械印を使用しなかったのでは無いかという仮説に行き着く。

ところで、そのKOBEですら、1921年の2月7日を最後に中継印の使用は確認できていない。ましてや六本波の時代には無い。これは探し方が悪いだけではないだろう。

欧文機械印のマルコを意識せずに購入した外国からのセミクラシックのインカミングメールを再度調査する必要があるかもしれないが、いずれにせよ無いことの説明は難しい。

TOKYO でのインカミングメールへの到着印使用

KOBE での到着印使用がみつからなくなった後に欧文機械印の使用を開始した TOKYO（最初期使用例は 1921 年 6 月 29 日）では、引受に使用するだけでなく、到着印への押印にも欧文機械印を使用したことが知られている。複数の使用例が確認されているが、把握は多くない。ただ意識して探していないだけで、探せばまだ出てくるかもしれない。

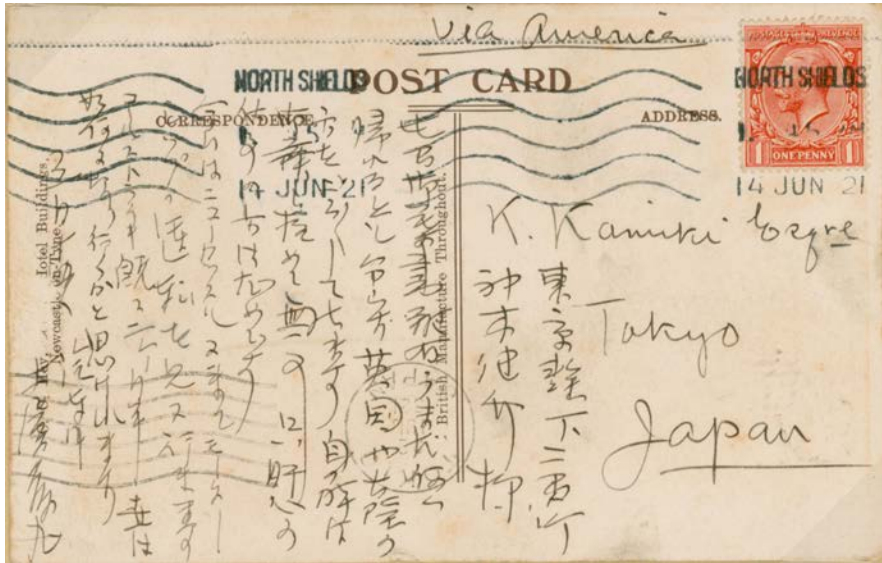


図 3 (上) TOKIO 22 / JUL / 1921, 1d GB postcard rate, North Shields, 1921.6.14 to TOKIO

図 4 (下) TOKIO 03 / DEC / 1921, 2c US postcard rate, Urbana, Illinois, 1921.11.10 to TOKIO

TOKYO 以外の局の到着印の確認は少ない。図5は現在、筆者が唯一確認している、インカミングメールへの六本波 YOKOHAMA の到着印使用だが、薄い印影がご覧いただけるだろうか。

これが六本波の欧文機械印の TOKYO 以外で確認されている唯一の到着印使用であり、KOBÉ, NAGASAKI, SHIMONOSEKI, MOJI 等の郵便局における、インカミングメールへの到着印使用例は確認されていない。

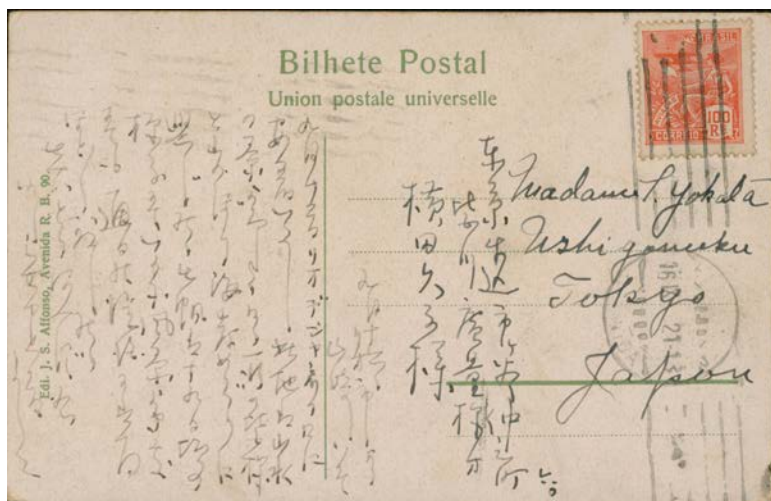


図5 YOKOHAMA 24/NOV/1921 Surface postcard from Rio de Janeiro / Brazil

ZEPPELIN 郵便のための特別措置

インカミングメールに対する、TOKYO の欧文機械印の到着印使用は、1921 年を最後に確認できなくなるが、その唯一の例外が 1929 年の Zeppelin 郵便の時だった。

スイス、米国とともに世界の三大中継地の一つに選ばれた日本（茨城県・霞ヶ浦）には、多くの記念カバーが申し込まれることが見込まれたが、実際そうだった。

この時に到着印に欧文機械印が使用されたことは、量を考えれば納得のいくところだが、もう一つ面白いのは、郵便物の左下側に到着印を押す前提で、証示部を通信省告示と逆向きに設置し、局名や年月日などの消印データを正位に見えるようにしたことだ（図 6）。

当時使用されていた TOKYO の欧文機械印は Typell に分類されるもので、その使用期間は 1926.2.2-1933.3.25 が確認されている。このタイプで証示部逆セットが確認されているのは、この ZEPPELIN メール期間のみであり、筆者はこの措置は意図的なものだったのでは無いかと推定している。



図 6 19/AUG/1929 Lakehurst to Tokio, \$1.05 correctly paid for US Zeppelin postcard to Japan

まとめると、インカミングメールの到着印としての欧文機械印の使用は、1921 年末までの期間および Zeppelin メール時期に確認されている。その点数は多くないが、まだまだ掘り出しの可能性はあると考えられる。使用局としては KOBE, TOKYO と、一点の YOKOHAMA のみが知られている。

アウトゴーイングメールへの中継印使用

到着印とは別に国内（外地含む）から外国に送付される郵便物に中継印を押捺する用途への欧文機械印の使用は、YOKOHAMA で長期的に確認できる。僕のコレクションで最も早い使用例では、1920年12月27日が確認できた（図7）。本例は内地発（愛知県）だが、外地発海外行きのアウトゴーイングメールへの中継印使用も確認できた（図8、在上海日本局発）。



図7 YOKOHAMA 27 / DEC / 1920 10 Sen letter rate from NAGOYA-AKATSUKA to the USA



図8 YOKOHAMA 6 / JAN / 1921 20 Sen letter rate from SHANGHAI I.J.P.O. to Germany

YOKOHAMA の中継印使用はその後とも断続的に見つかっているの、恐らく日常的に使ったと思われる。同局の欧文機械印の最末期使用は現時点の確認では 1931 年 4 月 16 日なので、それ以前でどこまで遡れるか？筆者は 1929 年を確認している（図9）。



図9 YOKOHAMA 16. /MAY / 1929 10 Sen letter rate from Nagoya to the US via YOKOHAMA

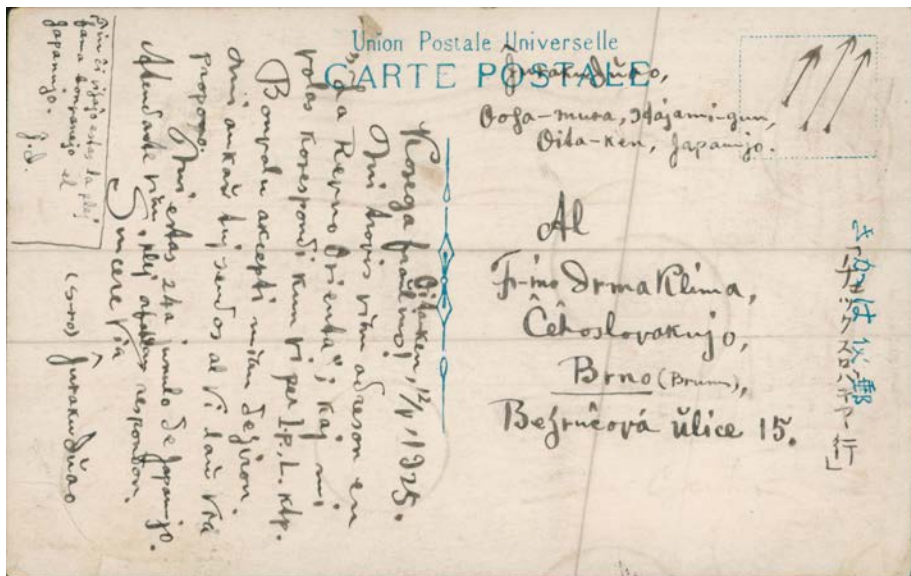


図10表面 postcard from KIZUKI, OITA to Brno/Czechoslovakia

しかしながらその一方で、YOKOHAMA 以外の中継印使用はほぼゼロに等しい。これは何故だろうか？ KOBE と YOKOHAMA で異なる行動をとった背景は何か？ そこには戦前の国際郵便事務に関するヒントが色々あると思われるので引き続き日本切手研究会の皆さんにもご教授いただきながら、解決のいとぐちを見つけないかと考えている。

さて、先ほど「ほぼゼロに等しい」と書いた。そう、ゼロではないのである。YOKOHAMA 以外で欧文機械印の中継印に使用した唯一の事例は 1925 年に大分県杵築局から差し出された葉書である（図 1 0）。この使用例は曲者である。何故ならば記録する MOJI の欧文機械印の最も早い使用例だからである。軍艦郵便、バクボー への押捺用途が多い MOJI の使用例としては特異であり、また消印が向きを変えて 3 回も押されているのも不思議に思える。

まさか、押印テストをしようと思い、過って中継中の葉書を台にしたのではあるまいか？「ひょっとしたら、そうなのでは？」と思わせられるような押印の仕方である。この解は入手から何年経っても解けない。



図 1 0 裏面 MOJI 12. /MAY / 1925

8 Sen postcard rate from KIZUKI, OITA to Brno/Czechoslovakia via YOKOHAMA



図 1 0 裏面 複数回押されている欧文機械印

中継印について最後にまとめると、原則として、YOKOHAMA にのみ確認できており、他局の使用例はほぼない。もっとも YOKOHAMA での使用事例はさほど少ないものではなく、普通に探せば見つけることが可能である。

マルコフィリーに郵便史要素を徐々に加えていくことにより、収集に膨らみが出るのが筆者が欧文機械印に熱中している理由の一つ。ご参考になれば幸いです。

風景入通信日付印納品書について（続）

石田 徹

本誌 27 号（2020.6）に記した、風景入通信日付印納品書に関して新たに情報が得られたため、追記したい。

風景印請負数量について

本誌 27 号で、昭和 26 年度、大橋護謨印工業株式会社（中央区日本橋芳町 1-6、取締役社長鈴木晋）から郵政大臣官房資材部配給課への納品書に、

「年契第一号 郵第四一四号（図案文字入日付印軸使用期間なきもの）請負数量 750」

とあるが、昭和 26 年度の新規風景印使用局は 132 件、この時点で風景印使用局数は 438 局であるため、「一会計年度の 750 個は多すぎ、確証はないが請負数量には他に特印なども含んでいるという可能性があるのではないか」と推測した。

しかし、今年 1 月ヤフオクに出品された納品書には、特印、小型印のものもあり、同じく昭和 26 年度、大橋護謨印工業株式会社の納品書に

- ・特印 年契第三号 郵第四一五号（特殊日附印軸）請負数量 2000
- ・小型印 年契第三号 郵第四一四号（図案文字入日付印軸使用期間なきもの）請負数量 1170

とあることを確認した。よって、特印、小型印は別契約で請負数量が決められている事が判明したため、前記推測は撤回し、「請負数量 750 は多いが、新規使用申請や複数再調整納品に備えた数量か。」に変更したい。

fig.1 白全局、風景印の納品書、新規配備、使用開始初日捺印。

昭和 26 年度納品書 象潟

昭和 27 年 3 月 25 日付、風景印は同年 4 月 1 日で捺印である。こちらも白金と同様新規配備の納品書だが、象潟の風景印使用開始は同年 5 月 1 日であるため、何かの事情により使用開始が予定より一月遅れたものと思われる。納品個数は 2 個である fig.2。

納品書		品名		納品年		契約年		契約月		契約日	
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											
											

「特別通信日付印納入内訳書」となっているもので、前回報告では、再調整納品のものであったが、こちらは、昭和 26 年 7 月 26 日付、郵務局管理課切手係の文書で、宇治、郷ノ口共に同年 8 月 1 日で捺印されている。宇治の風景印使用開始は、昭和 25 年 11 月 1 日なので再調整納品だが、郷ノ口は新規使用開始初日の捺印である。

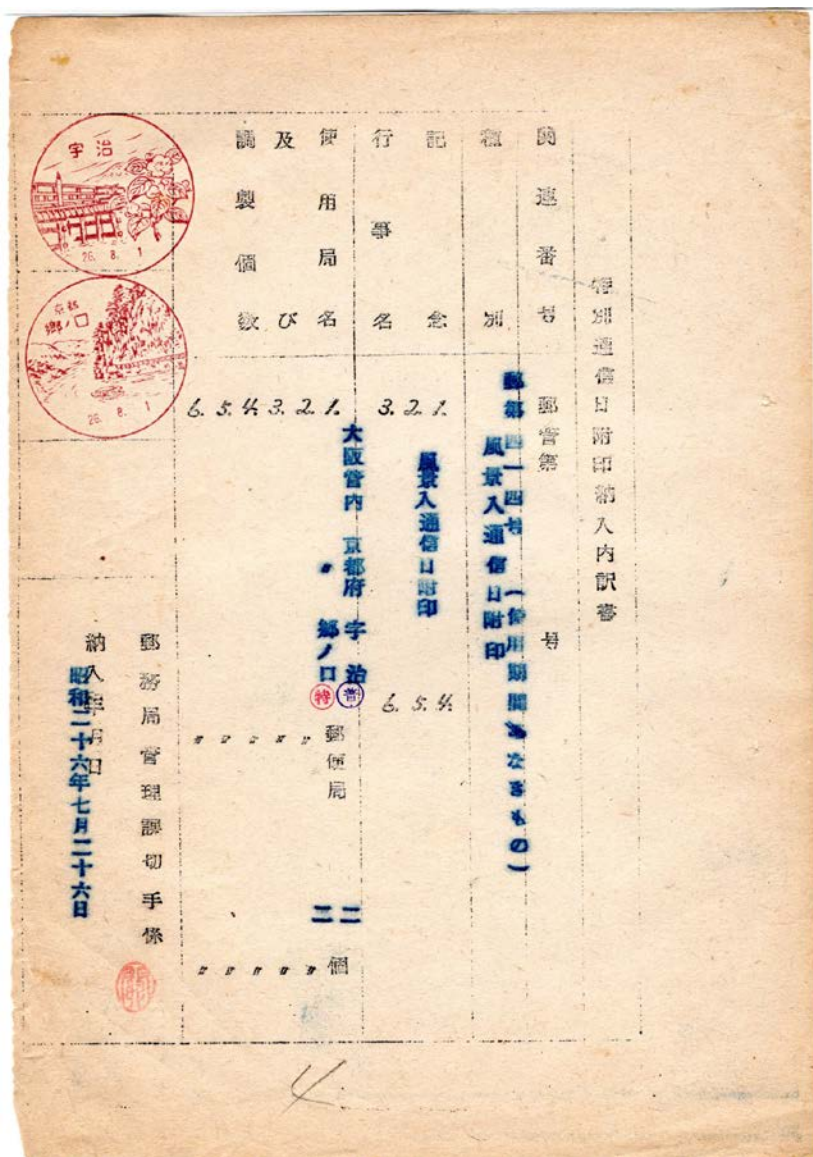


fig.3 宇治局再調整納品、郷ノ口局新規配備、風景印の納入内訳書。

納品書、納入内訳書に関連し、富士山頂の印影バラエティについて

以上2回にわたり、風景印の納品書、納入内訳書について報告した。これを前提として、富士山頂局の印影バラエティに触れたい。

富士山頂の風景印使用開始は、昭和24年7月15日だが、それに先立ち7月10日の印影もあり、同日に大きさ39mmで鋸歯状の輪郭をしたバラエティも存在する。

このバラエティを見ると、輪郭のみでなく、図案の直線部分が歪んでいる事が解るが、本誌27号と前述のとおり、納品書、納入内訳書により、納入検査が実施されている以上、当初から印影に歪のある風景印が納品されるはずもなく、この歪は納入配備後に複数個の風景印の一つに何らかの原因で生じたものと思われ、一種の損傷、ゴム印の変質から発生したと考えるのが妥当ではないだろうか。



fig.4 富士山頂局、使用開始5日前、昭和24年7月10日の風景印。



fig.5 富士山頂局、使用開始5日前、昭和24年7月10日バラエティとされる歪のある風景印。

もう一つの「急速郵便」

安藤 源成

郵便通送に於いて、郵便物をより早く通送する手段として、「別仕立」「別配達」「速達」「航空郵便」がある。郵趣家はこれらの総称として「急速郵便」と呼んでいる。昨今、郵趣家の間で「急速郵便」は注目され人気がある。「別仕立」「別配達」「速達」「航空郵便」はそれぞれ蒐集・研究が進み、郵便史に於いて分野別に制度が解明され、蒐集も進んでいる。

今回とりあげる「急速郵便」は通常料金 10 円で速達と一緒に運ばれたカバーを紹介します。

昭和 33 年 10 月 1 日に特急列車「はやぶさ」に郵便車を連結して東京―鹿児島、10 月 10 日上野―青森間「はつかり」で運転開始した。当時、鉄道による郵便通送は普通列車に郵便車を連結していたので、急行や特急列車には連結していなかった。

当時の「全郵連」が「国鉄」と交渉して特急列車に郵便車を連結することが決まり、東京・鹿児島間の「はやぶさ」上野―青森間の「はつかり」上下便に郵便車を連結することに成った。両列車とも下り便は東京から地方に宛てた郵便物を停車駅で下ろすだけで搭載はしなかった。上り便は東京宛ての郵便物のみを積載した。

両列車は主として金融機関の小切手、手形等有効証券と証券会社の株券、債券等の有効証券等、急ぐ有効証券を主として運ぶ目的で、一部一般の「速達」郵便物も搭載した。「はやぶさ」が九州・中国地方からの物を大阪で積み降ろしをしたか？否か？は不明である。

この件に付いては当時の「切手趣味」47 巻 6 号 NO280 の p.148、に坪田不二雄氏が詳しく書かれている。その中で両列車の発着時刻は下記の通り記されている。

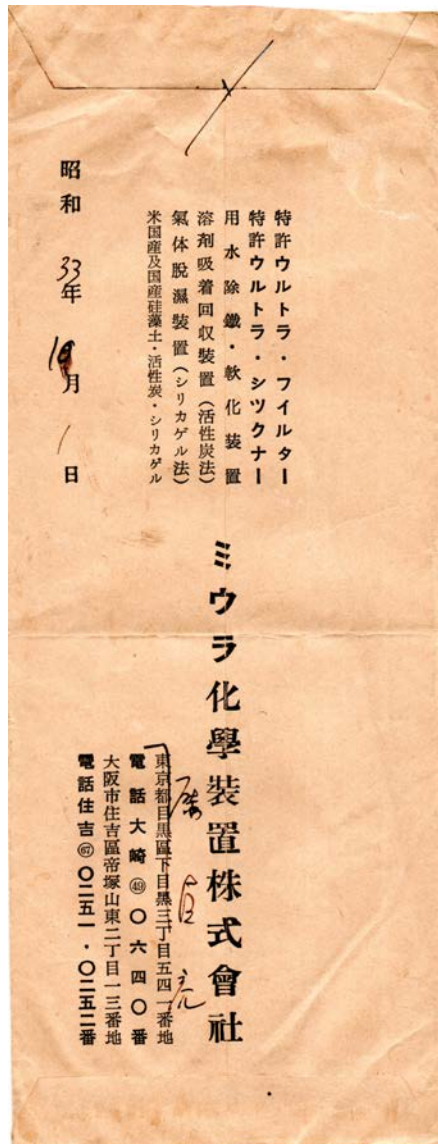
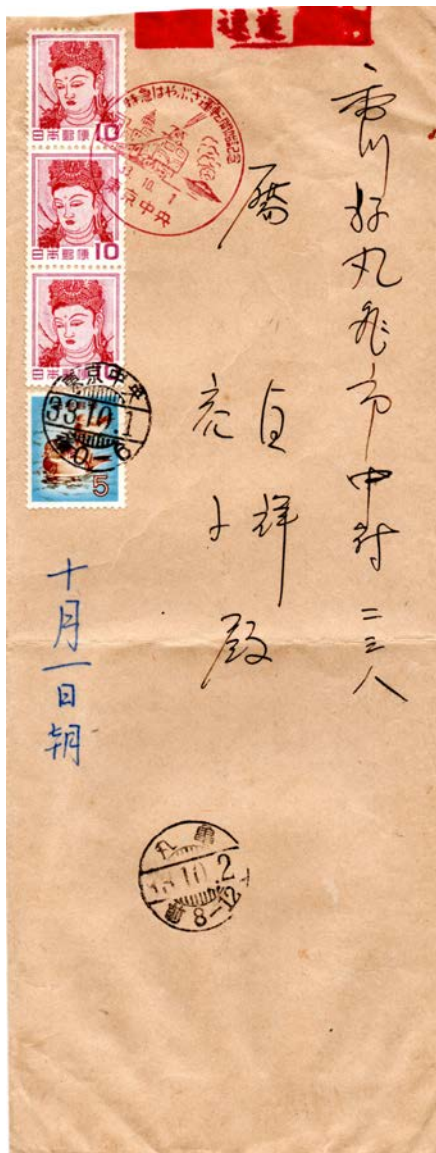
便名	発駅	(日時)	着駅	(日時)
「はやぶさ」	東京	9 月 30 日 19.00	鹿児島	19 月 1 日 1750.
	鹿児島	10 月 1 日 10.40	東京	10 月 2 日 9.30.
「はつかり」	上野	10 月 10 日 12.20	青森	10 月 11 日 0.20.
	青森	10 月 10 日 5.00	上野	10 月 10 日 17.00.



この取扱は限られた銀行、証券会社等が郵便局と特約を結び特殊な郵袋を使用し、料金も特約料金だったのでは？前年の郵政大臣田中角栄の肝入で開設されたものと当時、話題と成った。

この取扱が何時まで続いたかは知らないが、エンタイヤや葉書が有ると思う。当時、銀行か証券会社に勤務しておられた方は事情をご存じのことと思います。

先般、1月24日、オンラインの日本切手研究会（代表者：横山 裕三氏）で東京から四国・丸亀に宛てた「速達」の報告が有りました（発表者：横山裕三氏）が、到着印からしてまさに「はやぶさ」で運ばれたものと思はれます。東京の消印が午後便で丸亀に翌日午前に着いています。航空便で東



35 円速達書状 東京中央 33.10.1 後 0-6 → 丸亀 10.2 前 8-12 差出人と受取人の姓は同一

京 - 高松も考えられますが、当時、東京 - 高松の航空便は無かったので「はやぶさ」で岡山まで運ばれて岡山鉄道郵便局に引き継がれて宇野線、宇高航路、予讃又は土讃線を経由して丸亀に運送されたと思われる。従って、岡山と高松郵便局は経由していない。

小生の手許に兩列車上下便の初便カバーが有るので添付します。東京―鹿児島、東京―青森間が10円の第一種料金で速達と同様に取扱われて居ます。初日の記念郵便便には小型記念印とカシエ印が押印されて居ますが、浸汚は自宅火災の際の汚れです。ご了承ください。

4 通とも局留通常便ですが局留にしていたので到着印が押されています。貼付されている付箋は留め置き期間を経過して差出人戻しのものです。「はやぶさ」の開設告示は10月1日であるが、東京発は前日の9月30日である。

当時は地方空港が各地に開校し速達のみならず普通郵便も航空便で運送された、特に離島は全ての郵便物が航空機で運んだ。東京―鹿児島、東京―青森の航空路は無かったので特急「はやぶさ」「はつかり」便が設けられたわけです。



はやぶさ、はつかり便の初日使用例
(1通を2ページ前に掲載)

沖縄・復帰直後の郵便事情を考察する

佐藤 克彦

琉球は、昭和 47 年 5 月 15 日に米国統治下より日本への復帰を果たし、沖縄県となった。それに伴い、郵便事業も日本と同一制度への移り変わった。同一制度に移行した内容は、

- 1 局名表示の変更
- 2 欧文日付印の変更
- 3 速達郵便制度の導入

で、これまでとは異なる変更・変化を含むことになり、現場郵便局の対応には大変な苦労があったと推測する。

1 局名表示の変更

「日本復帰後に使われた旧琉球政府時代の日付印の使用例」について

琉球政府時代には県内に同一局名は存在しなかったことから、現在郵便局で一般的に使用されている県名入り日付印の県名表示は不要だった。しかし、復帰後日本の 1 県となると、同一局名が存在する可能性は当然大きくなることもあり、各局は必要に応じて県名入り局名印へと変更した。

そうした中で、復帰直前まで使用されていた「県名なし印」がどう取扱われたのかを考えてみたい。ここに、特定集配局で引き受けられた、2 通のエンタイアと 2 枚の使用済を示す。

図 A は、昭和 47 年 5 月 17 日(以下昭和を省略する。)引受の「県名なし」竹富局の定形書状である。

図 B は、「小禄局・49 年」県名なし年賀印の使用例である。



図 A 竹富 47.5.17.8-12

図 B 小禄 49.1.1. 年賀

使用済切手では、「座間味・63年、図C」及び「伊江・2年、図D」の使用済も県名なし印が押されている。



図C 座間味 63.1.1. 年賀



図D 伊江 2.1.1. 年賀

図Aは県名なし印を単純に誤って使用したものと考えられるが、年賀使用の図B、図C、図Dは、どのような理由によって使用されることになったのか。

ここに示した4局は、復帰前より集配局として存在していた局であったので、

- ①旧琉球政府時代の印を局内保管していた。
- ②年賀取扱時など繁忙な時期に、追加使用印として予備を持っていて、これらの印を使用し得る局であった。

以上のような要因が重なって誤使用が生まれたものと基本的には考えられる。しかし、図Dに至っては、単なる誤りと考えること以外に何かがあると感じるのは、沖縄に長年住んでいるゆえの感覚かもしれない。

私の考察は以下の通りである。

沖縄県下の郵便局名は、与那原、南風原、東風平等々、基本的には地名から名付けられており、特徴的な局名が多い。これらの地名の読み方や響き方が沖縄の人々からすれば、沖縄らしいのであって、特に古くから使用されている地名に対する反応は、顕著なものを感じている。

例えば、復帰以前に浦添、南風原と表示された局で、復帰後、沖縄浦添、沖縄南風原と表記を変えても、県名が入っているかはさしたる問題ではなく、浦添はあくまで浦添、南風原は南風原という響きや名称に、自然と反応する土地柄である。

従って、「沖縄浦添」と「浦添」という極めて似た日付印があれば、躊躇なく「浦添」を選ぶ局員が普通にいたものと思う。県内各局に琉球時代の日付印が保存されていれば、考えることなくそれらの日付印を使用する。これは教育の問題ではなく、文化の問題であり、近年多々見られる誤表記によるものとは一線を画するものであると考えている。

この4局以外での同様の使用例は見えないが、他局例もあるのではないかと注意はしているが、上記4局以外には使用例は一向に増えてくれない。

2 欧文日付印の変更

三日月型欧文印への変更と NAHA 「櫛型 C 欄 JAPAN」印の出現

本土復帰前の沖縄では、C 欄 "RYUKYU" 入りの櫛型欧文印が使われていたことはご存知のことと思います。そして、それらは本土復帰と同時に C 欄 "JAPAN" の三日月型欧文印へと変わった(図1)。



図1 NAHA 15.V.72 8-12 (欧文三日月印)

ところが、同時に図2のような櫛型 C 欄 JAPAN 印の存在が収集家の手により残されている。ただし、B 欄は、昭和の年号を誤挿入した状態で使用されている。西暦で暮らしてきた沖縄にありがちな誤りと理解している。

図2に出会って以降、これに準ずる使用例があるのであるのではないかと注意を払ってきたところ、次のエンタイアに行き着くことになった。

図3-1と図3-2は、台湾から沖縄に宛てられたエログラムと郵便葉書であるが、不思議なことに、到着印として C 欄 "JAPAN" 入りの櫛型欧文印が押されているのである。本土復帰後のカバーだから、本来であれば、図1のような三日月型印が使用されているはずである。

では、この消印(図2、図3-1と図3-2)の正体はいったい何なのか。最も適当な答えとしては、「式紙印」の誤用ではないか、ということになる。

「式紙印」は、通関事務関連の式紙や事故郵便物への付箋等に押される事務印で、那覇局は、通関局でもあったため配備されていたことは確かである。

しかし、ここで気になるのが「日」活字である。「日」活字はローマ字で表され、「5. III .75」となるのが普通であるが、この印では、かつての櫛型欧文印と同様にアラビア数字で「5. 3. 75」となっている。見た目には本土復帰前の欧文印の C 欄が "RYUKYU" から "JAPAN" に変わっただけに見えてしまうので、もしかしたら通信日付印として使っていたのではないかと勘繰りたくなる。

今のところ、郵便物上では、到着印として押されたものしか確認されていない。確認データが少ないため、使用経緯や押印対象物について論じられる段階ではないが、今後の更なるデータの発掘と集積により、真の姿を見せてくれるものと考えている。

現時点で確認されている最古、最新のデータは、ここで示した図3-1、図3-2と図4である。データからは復帰後から78年までの6年間は使用されていたものと考えられる。



図2 NAHA 5.15.47. (欧文櫛型印)
(年数字は昭和の47)



図 3-1NAHA 5.3.75 / JAPAN



図 3-2 NAHA 5.3.75 / JAPAN



図 4 NAHA 7.7.78. (楕円型印の最新データ)



なぜ、楕円型 C 欄 JAPAN がここで出現することになったのか。かつて使用していた C 欄 “RYUKYU” の枠のサイズに “JAPAN” が合致したことによるものと考えるが、本来使用するはずの三日月型 C 欄 “JAPAN” とでは、サイズ等が異なっており、楕円タイプに合致したものが別途供給されたのかという疑問がここでは解決のキーとなるのかも知れない。

ただ、ここでも「1 局名表示の変更」と同様、旧印の C 欄 “RYUKYU” を “JAPAN” に変更すれば事足りることであり、長年使用し続けたものとは何等変わる印ではない、という認識が現場にあったように思う。

他局での例は見えていないので、式紙印であろうと思うが、ユニークな使用例としてコレクションに納めている。

3 速達郵便制度の導入『帰直後の沖縄県内での速達郵便取扱』について

琉球政府時代には、短期間だけ制度化されたごく初期の使用例を除き、速達郵便制度はなかった。復帰とともに日本郵便制度の一つとして速達郵便制度が導入されることになったが、現場的には、対応ができる状況ではなかったためか、

3-1 48年2月から那覇地区宛て（但し、県外から那覇地区宛て）の速達郵便物の取扱は、実施された。

3-2 県内各局相互間の速達郵便物の取扱は、54年9月1日から実施、とされている。

それでは、復帰の昭和47年5月15日～48年1月中の間の速達取扱（到着印押印や速達郵便物の別途配達）は、どう行われていたのかという疑問が残る。そういった点から当時の実例を入手し、できる限りの検討を行ってみたので、その結果を示す。

図5は熊本中央差出しの速達表示の速達郵便で、那覇局の速達郵便取扱地区宛て、図6は東京中央局差し出しの速達表示の速達郵便書で、名護局の速達郵便取扱地区宛てで、どちらも到着印が押捺されていない。

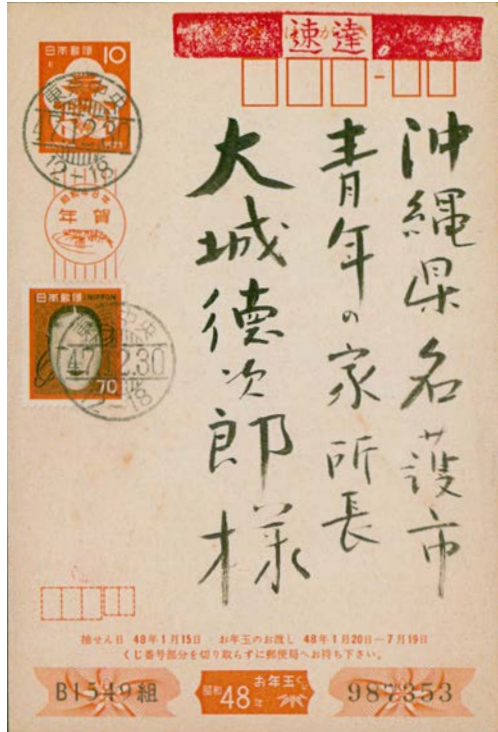


図6 東京中央 47.12.31. (速達郵便)



図5 熊本中央 15.5.72. (速達郵便)

3-1 と 3-2 について、現場における速達郵便制度への対応を示していると思われる郵便物を探し出し、得られた報告を記しておく。

まず、3-1 の「48 年 2 月から那覇地区宛て」という那覇地区とはどこを指すのか。那覇地区と一般的に解する地区は、「那覇市〇〇町と表示される住所地内」のことであろう。

復帰時に、この「那覇市〇〇町と表示される住所地内」で集配業務を行っていた局は、那覇局、那覇東局、首里局、那覇小禄局の 4 局であった。そこで、この 4 局地区宛ての速達取扱郵便物を探してみた。結果は下記の通りであった。

①那覇局取扱地区宛て：多くの事例に当たることができたが、48 年 1 月中までのものには、到着印はなかった。

図 7 は大阪中央局差出しの那覇局速達郵便取扱地区宛て、図 8 は名古屋南局差出しの那覇局速達郵便取扱地区宛てであるが、どちらにも到着印が押されていなかった。

他方、48 年 2 月以降のものには、ほぼ到着印が見られたので、現物を開示する。図 9 は津局差出しの那覇局速達郵便取扱地区宛て、図 10 は名古屋南局差出しの那覇局速達郵便取扱地区宛てで、それぞれ到着印が押されていた。



図 7 大阪中央 47.5.24.
(速達郵便)

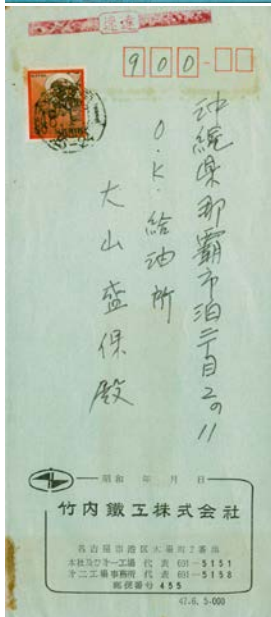


図 8
名古屋南 48.1.11. (速達郵便)

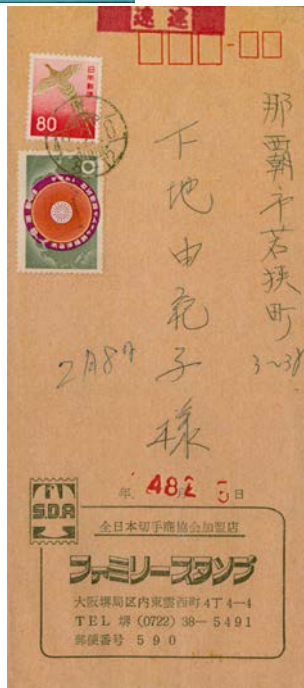


図 9 津 48.2.6. (速達郵便) 着印裏面

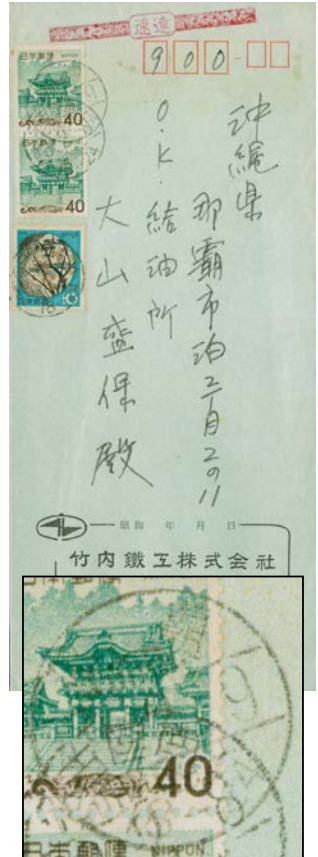


図 10 名古屋南 48.2.8. (速達郵便)

②那覇東局取扱地区宛て：実例としては那覇局速達郵便取扱地区宛てほどの数は探せなかったが、復帰直後のものが確認できた。

図 11：門司港 47 年 7 月 29 日引受け、7 月 30 日那覇東局着印。

図 12：YAMATO（メータースタンプ）1972 年 8 月 11 日引受け、8 月 12 日那覇東局着印。



図 11 門司港 47.7.29.



図 12 大和 (YAMATO) 11.8.72.

- ③首里局取扱地区宛て：実例の確認ができなかった。
④小禄局取扱地区宛て：実例の確認ができなかった。

那覇地区宛て速達郵便物の取扱通数は多かったと思われるが、実際 47 年、48 年の使用例があまり残されていない。ともあれ、速達郵便取扱地区の那覇局と那覇東局宛ての現物速達郵便の確認ができたことは幸いであった。

次に、那覇地区の隣接地である現豊見城市地区や浦添市地区にまで地域を広げて探してみたところ、浦添地区宛ての実例を見つけることができた。図 13 は、田無局 48 年 2 月 14 日引受け、2 月 16 日、浦添（到着印裏面に有）の速達郵便である。

対象となった 48 年度中までの使用例は本当に数少ないものであったが、当時の郵便事情を推測するマテリアルとしては充分役に立ったと考えている。

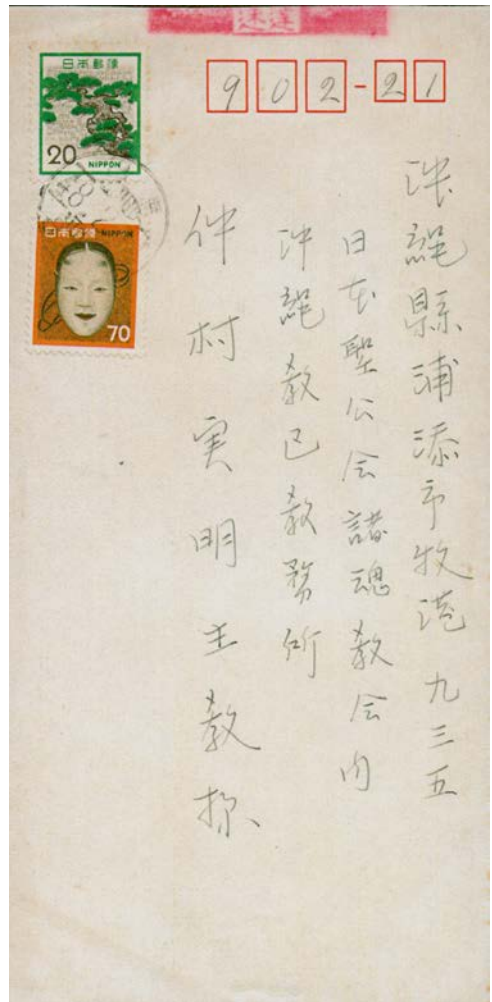


図 13 田無 48.12.14.

3-1 を纏めて、次のように考察した。復帰直後の沖縄については、那覇地区を主たる速達郵便制度の実証事業実施地区として位置づける中、具体的には那覇東局取扱地区では復帰直後から実務的な実施事業を開始。他の取扱局では 48 年 2 月以降に順次隣接地区とともに実施領域を広げていくといった方法で同制度の普及対応を行っていったのではないかと推察している。

3-2 の県内各局相互間の速達郵便について述べる。図 14 と図 15 は、その取扱についての「新聞記事の切り貼り」をした上で差出された郵便家便である。両使用例は、県内各局相互間の速達郵便の初日便となる。



図 14 那覇 54.9.1.8-12 沖縄波照間 54.9.3.12-18

きょうから速達も OK 県内相互間の郵便

郵政省は、1日から県内相互間の速達、航空小包の取り扱いを始める。沖縄は復帰前に速達の取り扱いが行われていなかったこともあって、これまで県内相互間の速達は那覇市の区域内を除き、取り扱いなどの特例を設けていた。しかし、1日からこの特例が廃止され、県内相互間の速達、航空貨物の取り扱いをすることになった。



図 15 那覇 54.9.1.8-12 沖縄佐敷 54.9.3.8-12

図 14 は、那覇局引受け、波照間（八重山地区）宛てのもの。那覇⇒八重山間は、航空郵便取扱で差出日と同日に到着している。八重山⇒波照間間は、船で2日かけて到着している。

図 15 は、那覇局引受け、佐敷地区宛てに陸上輸送されたもので、2日後に到着している。

上記2例（図 14 と図 15）を念頭に置きながら、48 年以降 54 年 8 月末まで間の速達郵便取扱例を探してみた結果、次のマテリアルが見つかった。

①那覇地区相互間の速達郵便

図 16：那覇東 49 年 8 月 20 日 12-18 引受け、那覇 8 月 20 日 12-18 到着印押捺。

図 17：沖縄小禄：50 年 5 月 13 日 8-12 引受け、那覇 5 月 13 日 12-18 到着印押捺。



図 16 那覇東 49.8.20.12-18 那覇 49.8.20.12-18

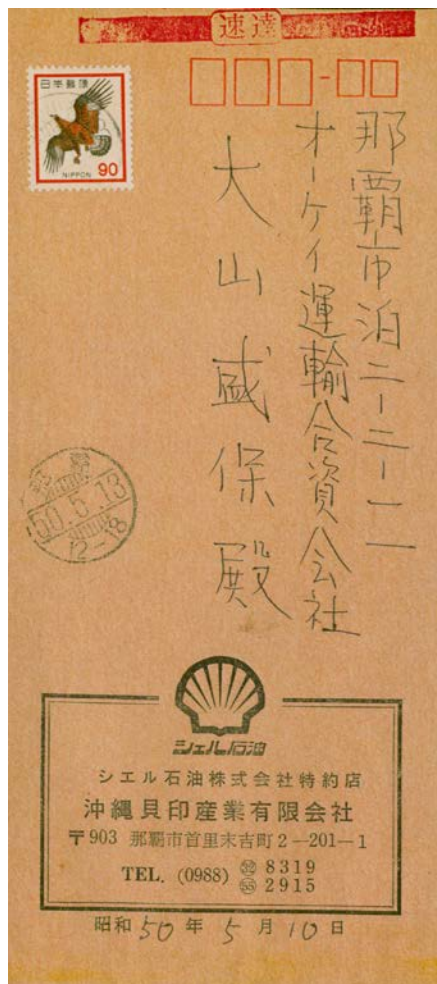


図 17 沖縄小禄 50.5.13.8-12 那覇 50.5.13.12-18

②八重山地区と那覇地区相互間の速達郵便

図 18：八重山 50 年 12 月 20 日 8-12 引受け、⇒那覇 12 月 20 日 12-18 (経由) ⇒首里 12 月 22 日 8-12 到着印押捺。

これらのことから、50 年中には、小包以外の郵便物への県内各局からの速達郵便取扱体制はほぼ出来上がっていたと考えられるが、図 18 に見られる那覇⇒首里宛は、図 15 と同様、近距離間の輸送でありながら 2 日かかっていることがわかる。

54 年当時、沖縄本島内の現場でさえ混乱途上にあったのであろうと理解している。

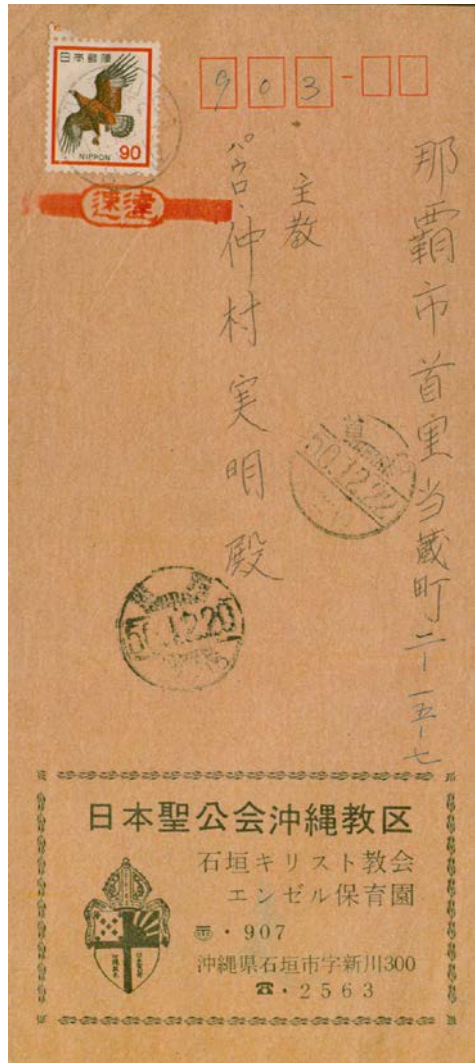


図 18 八重山 50.12.20.8-12 那覇 50.12.20.12-18 (経由)
首里 50.12.22.8-12

3-2 を纏めて、次のように考察する。

「54 年 9 月 1 日の県内各局相互間の速達開始」とは、一般郵便物の速達郵便取扱を指すものではなく、小包を含む大型郵便物の一部も速達郵便物として取扱が可能となった日という理解が正確ではないか。

以上が、本テーマの報告であるが、復帰直後を知る一郵趣家の考察後談として、以下のことを記しておきたい。

昭和 50 年頃のことであるが、ほとんどの道路が未舗装のなか、夜間の旧 1 号線（現在の国道 58 号線）を車で走行中、米軍の戦車に追い抜かれた経験を私は記憶している。

「沖縄県とは、日本統治下の琉球」であるという、当時語られていた見識は、今日に至っても色あせていないように思える。この投稿文を寄稿しながらも、日本復帰という爪痕は容易に解消されるような労苦の基で生まれたのではないと、これらのマテリアルは語りかけているように感じている。

今回の文を寄稿するに当っては、沖縄では最高の収集家として誰もが認めていた大山盛義氏の遺品によるところが大きい。また、これらを提供していただいた山城広成氏の協力がなくては成し遂げられなかったと思っている。記してお礼を述べたい。

[ad]

国際展まであと 4 ヶ月！直前の全国切手展（競争切手展）開幕！

会期：2021 年 4 月 10 日（土）～13 日（火）[4 日間]

会場：郵政博物館（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：100 フレーム

主催：（特非）郵趣振興協会 /（公財）通信文化協会

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティプリンティング社、
切手市場、（一社）全日本郵趣連合、
（公財）日本郵趣協会、株式会社鳴美



<http://kitte.com/stampex2021>

和欧文機械印トピックス（第65回）

第3期印の登場

水谷 行秀

1981（昭和 56）年 2 月 23 日の第 94 回国会衆議院予算委員会第 5 分科会での郵政省所管会計の昭和五十六年度予算案審議中の後藤茂議員（社会党）の発言で 70 円切手（注：笛吹飛天）の図案が悪いという普通切手のデザインについての話題のあと消印が汚いとの意見が出された。他にもその以前から新聞への投書などで同様の意見も相次いでいた。これらを受け、下記のように消印のデザインが改正された。

消印名称	試行的に使用された消印	最終的に導入された消印
櫛型印	三日月試行印 (1982.5.31)	丸型印 (1986.4.1)
欧文三日月印		欧文丸型印 (1986.4.1)
和文ローラー印		新型和文ローラー印 (1990.10.1)
欧文ローラー印		新型欧文ローラー印 (1990.10.1)
唐草機械印		丸型機械印 (1990.10.1)
元号入りと欧文機械印		丸型和欧文機械印 (1990.10.1)

消印横のカッコ内の年月日は各印の導入日

ということで元号入りの和欧文機械印は 1990（平成 2）年 9 月末をもって終了し、翌 10 月 1 日より丸形の 3 期に移行することとなった。

2 期と 3 期を比べると（1）波部が縦 6 本から横 2 本に変わったことと、（2）三日月図案が無くなっただけでなく（3）E 欄にあった都道府県名も省略された。

和欧文機械印（自動取り揃え押印機）が配備されている局であれば都道府県名を省略しても分かるであろうということであろうか。考えてみると欧文三日月印や欧文丸形印には局名が都道府県名と一致している局と通関局・交換局を除き都道府県名が入っているが、櫛型印・丸形印や和文機械印では普通局であれば都道府県名は入っていない（1990. 10.30 以降は同じ局名が存在している局を除く）。これまで和欧文機械印は都道府県名の有無について欧文印のルールに従っていたが和文印の仲間にするという扱いに変えたということであろう。

収集家としては非郵趣家便の初日使用を 1 通入手しておきたいところだ。



和欧文機械印 3 期

和欧文機械印 3 期初日使用

昭和 50 年台半ばより、消印が汚いとの意見が新聞への投書が寄せられたり、衆議院予算委員会などで質問が出された。

これを受けて、線や模様により少ないシンプルな印が使用されるようになった。

1982(昭和 57)年 5 月 31 日より試用された試行印を経て、1986(昭和 61)年 4 月 1 日に櫛型や三日月印から丸型へ切り替えられた。

和文機械印は 1990(平成 2)年 10 月 1 日と 1991(平成 3)年 4 月 1 日の 2 回に分けて、和欧文機械印は 1990(平成 2)年 10 月 1 日に一斉に丸形に切り替えられた。

横浜集中 2/90.10.1 18-24



図 1 3 期印使用開始

和欧文機械印トピックス（第6回）

切り替え時の混乱（1）

水谷 行秀

2期→3期への切り替え時にはいろいろな混乱が生じた。今回は中でも波部は2期のままで印枠のみを3期に替えた例を紹介したい。

まずは八戸局である。2期の最後まで標語入り「郵便番号はハッキリと」を使用したからでもあろう。ハブは標語入りのもので印枠のみを3期の丸形に替えている（図1）。標語入りでこのパターンはこの八戸のみである。しかも日付をみると90年9月30日！なんと前日にフライングで使ってしまったのである。もちろん事前に発表は無い。それなのに当時高校生の高崎氏がよくぞ作って下さった。おかげで記録にも残すことが出来た。事例はこれ以外存じ上げないが、2期の最終日最終時間帯であるので他にも郵頼や地元収集家などが依頼したものが存在していると思われる。

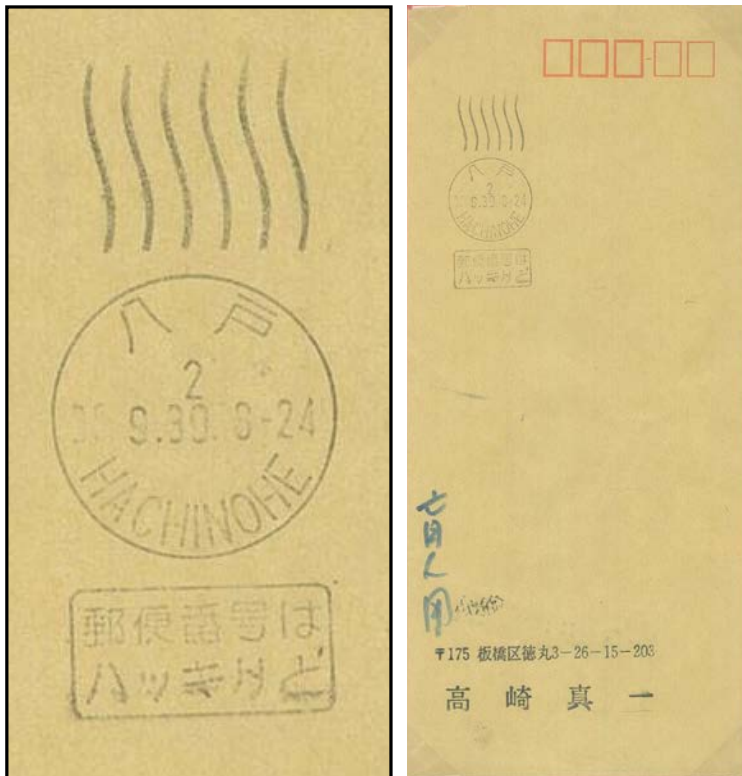


図1 切り替え時の混乱

2 例目は板橋北である。こちらは90年10月1日なので3期の初日となる。ところがこちらにも印枠のみを3期に替え、ハブを2期標語無しのまま使用した(図2)。このパターンも現在知られているのは板橋北のみ。こちらも高崎氏の作品であるが、氏の地元局であったので数通が作られたと聞いている。こちらも3期初日であるので他にも作られた方がいらっしゃると思われるものの、氏の作品以外は確認していない。



図2 切り替え時の混乱

ちなみに和文機械印でも同様なパターンは存在しているが、ハブ3期で印枠2期のエラーに比べると極端に少ない(図3)。

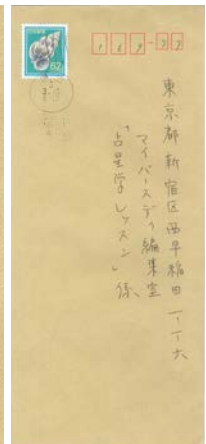


図3

和欧文機械印トピックス（第67回）

切り替え時の混乱（2）

水谷 行秀

2期→3期への切り替え時の混乱の中で一番多いパターンがこのハブを3期の横2本波に替え、印枠は2期の元号入りを使用したものである。このパターンは2期→3期への切り替え時以外にも生じたが、今回はこの切り替え時のものを紹介しよう。

2期→3期への変更はハブが縦6本波から横2本波に変更されたが、印枠も三日月図案が取り除かれ都道府県名も省略された。デザイン的にはハブの変更の方が視覚的にも大きな変更で、印枠の変更を認知しない局があったということであろうか、ハブのみを3期に替えて2期の印枠を1990年10月1日および以降に使った局が複数確認されている。

現時点で確認しているのは8局で、北から新宿・杉並南・静岡南・豊橋南・岐阜中央・新潟中央・和歌山中央・那覇中央である。中には1日で正規の3期印にした局もあれば数日使用した局もあった。

1局ずつ見て行こう。

新宿 初日の1990年10月1日のみの確認。幸いにもカバーで紹介できる。（図1）

杉並南 10月1日より5日まで確認している。こちらもカバーにて示す（図2）。



図1 新宿カバー

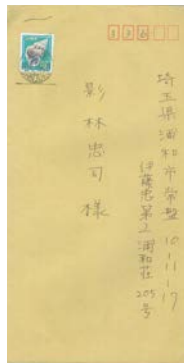


図2 杉並南カバー

静岡南 10月1日から3日までの確認。単片にて示す(図3)。

豊橋南 10月1日より10月6日の確認。カバーにて実例を示す(図4)

岐阜中央 10月1日より10月6日の確認(図5)であるが、一方で10月1日と2日の3期正常印も確認している(図6)。恐らく先端・末端で異なる印を取り付けていたのであろう。



図3 静岡南単片

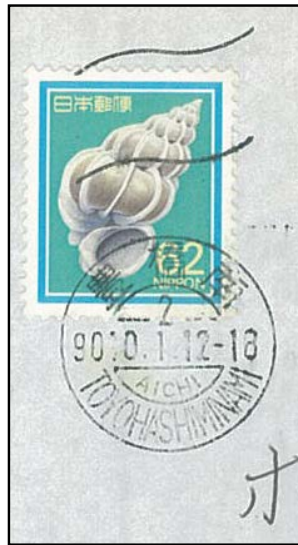


図4 豊橋南カバー



図5 岐阜中央カバー



図6 岐阜中央3期

新潟中央 10月1日のみの確認(図⑦)であるが、こちらも同日時間帯の正常印を確認している(図⑧)。この局も同様に先端・末端で2期と3期を使ったと見ている。



図⑦新潟中央カバー



図⑧新潟中央3期

和歌山中央 10月1日から10月2日まで確認している(図⑨、図⑩)。Yobnagさんのブログによると、10月1日にまず2日の2期印で始め、その後1日と替えて使用したようである。実質1日のみの使用らしいが、印影としては1日と2日が存在しているので使用期間としては2日間としておく。



図⑨和歌山中央単片



図⑩和歌山中央はがき



那覇中央 10月1日のみの確認である。(図⑪)



図⑪那覇中央

これらの一覧表を表として掲げておく。またこの表には66回で紹介した今回とは逆パターンも入れておく。

このパターンのエラーはこの3期への切り替え時以降にも存在している。それらについては項を改めて後日紹介したい。

形式	局名	最初期使用例	最後期使用例	図版番号
A	八戸	1990.9.30		1
B	板橋北	1990.10.1	1990.10.2	2
C	新宿	1990.10.1		3
	杉並南	1990.10.1	1990.10.5	4
	静岡南	1990.10.1	1990.10.3	5
	豊橋南	1990.10.1	1990.10.6	6
	岐阜中央	1990.10.1	1990.10.6	7
	新潟中央	1990.10.1		8
	和歌山中央	1990.10.1	1990.10.2	9
	那覇中央	1990.10.1		10

2期・3期混合印使用データタイプ

- A 標語入りハブの3期印枠
- B 標語無しの縦6本波に3期印枠
- C 今回の横2本波に2期印枠

通常郵便物封筒の寸法

行徳 国宏

まえがき

郵便創業以来、通信文を包装する封筒は、同封する郵便物が封筒から飛び出さないように包装すればよく、郵便規則等でその寸法を特別に定めることはなかった。従って、封筒は差出人が自作したもの、また市販したものであった。

現実には同封される内容物によって封筒は大型・長形から小型・短型のものまである。封筒の寸法に特別に関心を持つ収集家はほとんどなく、自分のコレクション・作品に使えるものであれば、そうした寸法や形にこだわる必要はない。

郵便局側でも引受けて配達できる大きさや形であれば問題はなく、郵便利用者側も同封する郵便内容物の大きさ・重量に合わせて封筒を利用してきた。

郵便物用封筒の寸法は、郵便創業以来どのように規定されてきたか、下記の文献から見つけた範囲で抜き出してみた（山口修氏編『郵便百科年表』、注1。同書中の規則文のカタカナ文字はひらがなに、漢数字はアラビア数字に改め、以下『山口本』と書く）。

1. 通常郵便物封筒の寸法

(1) 明治4年「書状を出す人の心得」（『山口本』、5ページ）

書状は都て長さ曲尺9寸幅3寸迄に限るへし。

(2) 明治12年12月20日付け布告第48号（『山口本』、31ページ）

明治13年郵便規則及罰則（抄）

第6条書籍郵便

第71節書籍類並に見本品等1筒1束の大きさは曲尺長1尺2寸幅8寸厚5寸に限るへし…。

(3) 明治16年1月1日（郵便条例、布告第59号）

第15条郵便物の大きさは曲尺にて長1尺2寸幅8寸厚5寸に超過すへからず

(4) 明治32年4月1日（明治32年2月14日付け法律第21号）

郵便条例中改正

第15条中「長1尺2寸幅8寸」を「長1尺3寸幅8寸5分」に改む。

付則この法律は明治32年4月1日より施行す

理由書

現行郵便条例に於て郵便物の容積制限は長1尺2寸幅8寸厚5寸と規定せり然るに明治28年法律第18号を以て農事奨励の爲め特に設定したる第5種郵便物農産物種子中最も重要なる蚕卵び台紙は古来全国を通して長1尺1寸78分幅7寸45分に製造するの習慣なるを以て之を郵送せんと欲する者は郵便物容積制限を超過するの處あるを以て勢ひ適當なる包装を施すことを得ず爲めに郵送中蚕種を損傷し又は蚕卵の健康を害すること尠からずを拡充せんとす。

(5) 明治33年10月1日（郵便法省令第42号）

第3条通常郵便物の容積は其の長さ1尺3寸幅8寸厚5寸を限度と…」する。（以下略）

図1は縦38cm(1尺2寸5分)寸法の縦長封筒である。郵便の種類が表示はないが、一般の通信文が同封されるような形式の封筒ではない。

明治33年1月23日伊勢上野局引受で、醸造元宛てであるから、恐らく短歌か俳句などが書かれた短冊が同封されていたものであろう。第1種郵便物ではなく、第4種郵便物に該当する。

これは使用時期から郵便条例時代のもので、最長寸法「長1尺2寸」を僅かに超えているが、そのまま引受けられている。

図2は縦38cm(1尺2寸5分)寸法の板製封筒、明治44年7月引受けで郵便法時代の使用例であるから、「長さ1尺3寸」の範囲内に収まっている。

板の裏面には何も貼付けられていないが、宛先名が吟社とあることから、書か画が貼りつけられていたものである。

(6) 昭和6年8月1日(省令第21号)

郵便法中左の通改正す

本令は昭和6年8月1日より之を施行す

第3条通常郵便物の容積は其の長40センチメートル幅25センチメートル厚15センチメートルを限度とし、其の重量は第3種乃至第5種郵便物に在りては1キログラム、商品見本及び雛形に在りては350グラムを超過すへからす

第14条の2中「重量10匁」を「重量35グラム」に改む

(省令第22号)

郵便物中市内特別郵便規則中左の通改正す

第2条中「4匁」を「15グラム」に「10匁」を「35グラム」に改む。

本令は昭和6年8月1日より之を施行す。

通牒(6年7月13日付け郵業第475号)

郵便規則中改正に関する件

郵便事業にメートル法を採用する為に民衆に郵便法中改正法律の公布せらるる所ありたるを以て今般郵便規則等之か関係規則夫々改正公布相成度其の改正は相当広範囲に亘るのみならず内容に於ても寸尺、重量等郵便利用との基本条件に関するもの多く殊に小包郵便物の如きは重量及料金の段階に相当大なる改正を加へられ…(以下略)。

記

7月31日以前に引受けたる郵便物にして之か取扱8月1日以降に亘るものと8月1日の最先便を以て閉糞したる郵便物の取扱は総て従前の例に依り処理すること。(以下略)

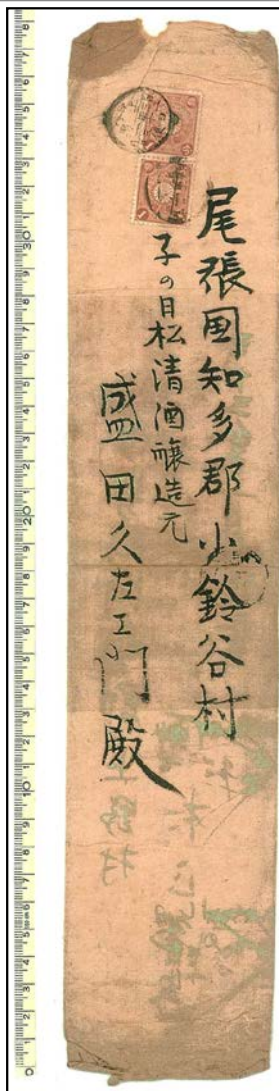


図1 伊勢上野 33.1.23
(38*7.5cm)



図2? 子 44.7.7

(7) 昭和 17 年 4 月 1 日 (通信省令第 18 号)

郵便規則中左の通改正す

第 19 条第 1 項中封筒縦 13 センチメートル以上、横 7 センチメートル 2 以上なることを要す

これまで封筒の最小寸法を定めたことはなかったが、太平洋戦争下、紙を節約するため小さい封筒を使用する郵便利用者が増えてきたのと、郵便局では小型封筒の取扱（引受から配達まで）が繁雑であることなどを理由にして、封筒の最小（以上の）寸法を規定せざるを得ない事情があったのではなかったか。

筆者の収集体験からであるが、明治後半期から名刺を同封した小型封筒が差出されていて、機会があれば、使用時期と封筒の大きさ、形状に注意しながら手に入れるようにしてきたが、個人的な趣向から、できるだけ小さい封筒使用の方を求めてきた。とりわけ、昭和 17 年以降に使用された小型封筒の方は探すのに骨が折れた。昭和切手が貼付された小型封筒では、名刺同封の物が多かったが、便箋を節約した個人差出しの小型封筒も見つけることができた。

片山七三雄氏が「謎学の旅－最小寸法の謎」で、昭和 17 年 4 月 1 日から封筒の最小寸法が規定されたことを発表されていた（『郵趣』1998 年 6 月号、28～29 ページ）。そこで、郵政公報で省令とその日付を調べ直して、上に引用した次第である。

片山氏は続けて「ただし、同年 9 月末日まで執行を猶予」とあるので、最小寸法の施行は 10 月 1 日からということになるうか。その 10 月 1 日施行に関する公報を調べてみたが、今のところ、見つからないでいる。

図 3 は昭和 17 年 4 月 1 日前に差出された手作りの封筒で、縦 12cm、横 8cm ある。封筒に最小寸法が規定される前の 16 年 8 月の使用例。

図 4 は昭和 17 年 10 月 1 日から施行された最小寸法「縦 13 センチメートル以上、横 7 センチメートル 2 以上」の規則に沿って調製されたもので、縦 12.8cm（若干の誤差か）横 8.3cm 寸法の封筒を 18 年の年賀郵便に使っている。



図 3 軽井澤 16.8.29 (12*8cm)

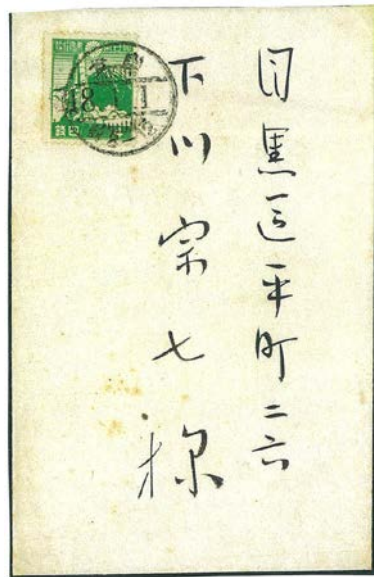


図 4 四谷 18.1.1 (12.8*8.3cm)

2. 逓信省・郵政省の推奨する封筒の標準寸法は何センチ？

郵便物を包装して差出す封筒の最大寸法が規定されていることは述べた。他方、封筒の最小寸法については個々に規定が見つからない。ないとは思えないので調査をしている。

さて、封筒の最大寸法と最小寸法の間にあって、郵政当局のみならず郵便利用者にとって、標準的な寸法の封筒、つまり封筒の製造販売会社や郵便利用者が最も多く製造及び使用している封筒の寸法は、実際何センチのものであろうか。

収集家にとっては、封筒の寸法が具体的にはどうであれ、収集品として、また、コレクションとして、特別に問う必要はないもの。封筒の寸法を公報などで調べたところで、ああそうですかと、単なる関心ごとで終わってしまう。だから具体的に封筒の寸法を発表する投稿文が出なかったのが実情であろう。

大正 14 年 7 月 9 日から施行された和文機械印に取付けられた 6 種の標語印の内、「書状には／標準封筒を／使用せられたし」と「切手は／左の肩に／はられたし」という標語印があるが、機械印に関心のある収集家には、一つの標語印の使用開始から終了までの期間の実例として記録されている。この標語印が突然使用されるようになったのか、その背景を考え直してみる。

[ad]

国際展まであと 4 ヶ月！直前の全国切手展（競争切手展）開幕！

会期：2021 年 4 月 10 日（土）～13 日（火）[4 日間]

会場：郵政博物館（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：100 フレーム

主催：（特非）郵趣振興協会 /（公財）通信文化協会

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティプリンティング社、
切手市場、（一社）全日本郵趣連合、
（公財）日本郵趣協会、株式会社鳴美



<http://kitte.com/stampex2021>

(1) 大正 14 年 4 月 20 日

大正 12 年 9 月 1 日に発生した関東大震災で、関東地区の郵便局、郵便局員や印刷局が大きな被害を受けた。郵便物の取扱通数が年々増大してきていた当時、取扱う封筒の寸法もまちまちで、何十種類もあった。封筒の制作会社、販売店は利用頻度の高い、従って最も売れる寸法の封筒を取扱ったのは当然のことであつたろう。

郵便利用者が封筒上に貼付する切手は封筒の左肩だけでなく、封筒上の宛先住所氏名の書く位置によっては、封筒下部にも貼付したものがあり、押印作業も大変であつた。郵政当局も全国的な規模で郵便局内の区分作業の効率化を計っていた。そこで、関東大震災後の局内事情を考慮して、標語を使って郵便利用者に種々の協力を呼びかけることにしたのであろう。

関東大震災後の郵政事業が平常に戻りつつあつたころから、具体的な時期は筆者の個人的な推測に過ぎないが、大正 13 年初め頃か中頃からか、本省関係部署の間で、復興のため郵便局で出来る施策、多種多様な封筒の利用現状の中から封筒の製造販売会社に対して標準的な封筒の調製販売の協力要請と郵便利用者への使用要請等、郵便物の取扱（差出し及び引受運送まで）の効率化等を検討したのであろう。

筆者は標語印の調査収集をしている訳ではないが、通信公報に発表されている各種の郵趣資料を調査しているので、とりわけ関東大震災後に具現している各種の事情に関心を向けている。

その調査過程で、鈴木克彦氏から『通信協会雑誌第 200 号』（保健号、大正 14 年 4 月 20 日発行）の原本に「標準封筒」の広告があることを教えていただき、原本を見る機会を得た。

原本末尾の広告欄を以下に引用する。

「標準封筒

今回通信省に於て郵便用封筒統一の趣旨の下に大（長 7 寸巾 3 寸）、中（長 6 寸 3 分巾 3 寸）、小（長 5 寸 6 分巾 3 寸）及葉書形封筒の 4 種を標準封筒と定め発表せられました差向左記商店に於て頗る廉価に発売する由御参考までにお伝へします。」

上記寸法を以下に表にしてみた。

寸法			白新ケント	ハトロソ
	長	幅	百枚に付	百枚に付
大	7 寸 (21cm)	3 寸 (9 cm)	32 銭	22 銭
中	6.3 寸 (19cm)	3 寸 (9 cm)	30 銭	21 銭
小	5.6 寸 (16.9cm)	3 寸 (9 cm)	28 銭	20 銭
葉書形角封筒			(厚)38 銭	20 銭
			(薄)22 銭	20 銭

封筒製造業東京府西巢鴨池袋 2361

若林茂八

通信省が封筒の標準化を先導し、封筒の寸法を指定した。標語印に盛られた「標準封筒」の寸法が収集家の間に公示されることになった。そして、機械印に挿入する標語を 6 種類調製して大正 14 年 7 月 9 日から施行することになった。

(2) 大正 14 年 3 月

『通信協会雑誌』（大正 14 年 3 月刊第 199 号）同誌の「論説」に「郵便業務と封筒」（通信局郵便課）が掲載されていることが分かった。その論説を見たかったが、コロナ禍中では郵政博物館資料センターでの閲覧もコピー依頼も難しい。

この論説には下記 (3) の「書状には標準封筒を使われたし」の標語印について、何らかの内容が発表されていると思う。事態が好転した折りにはその「論説」内容を全開して本文に追記したい。

(3) 大正 14 年 7 月 9 日（通信省告示第 1043 号、公達第 585 号）

通信日付印規定中左の通改正す
 本公達は本日より之を施行す
 第 2 条 12 号中内国郵便物用雛形に左の 6 種を加ふ
 書状には標準封筒を使用せられたし
 切手は左の肩にはられたし
 勤儉は幸福の基
 勤儉は復興の鍵（鍵の図）
 復興は先づ貯金から
 小包の包装は完全に」

大正 14 年 7 月に「標準封筒を使用せられたし」と周知を図っているの、昭和 1 桁の時代には、通信省推奨の標準封筒（長さは大中小あるも幅は 3 寸（9 cm））が多く使用されていると判断して、所蔵作品中の封筒を片っ端から測定してみたところ、やっと 1 通見つかった。無いものだ。

図 5 は長さ 7 寸（21 cm）幅 3 寸（9 cm）、ピッタリの標準封筒大である。



図 5 台北永楽町 昭和 4.7.25（21*9cm）

(4) 昭和5年4月1日（通牒需調第30号）

式紙類規格標準制定に関する件

今般事務用式紙類（各種）の規格標準先の通決定相成度候処之か実施方に関しては不日詳細通牒せらるへきも右は大体昭和5年4月1日より施行の見込みに付き（？）務上遺憾なきを期せられ度追而第2種品個々の寸法、紙質及印刷雛形等是不日通達の見込みなるも第3種品中通信局限り措置し得べきものは本件規格に基き経済的に処理支なく尚事務用品に関しても本規格に準拠適宜処理する儀と了知相成度

[1] 式紙寸法標準

摘要

(1) 本表は原則として通信事務用式紙（簿冊を除く）其の他独立の目的を有する紙の仕上寸法に之を適用す

(2) 省略

(3) 特別の事由により本表により難きものは別に示すところに依るへし

(4) 仕上り寸法の公差は次の通りとす

番号	仕上り寸法	
	メートル法	尺貫法
1号	124×85	4.1×2.8
2号	176×124	5.8×4.1
3号甲	255×176	8.4×5.8
3号乙	267×191	8.8×6.3
4号甲	358×255	11.8×8.4
4号乙	388×267	12.8×8.8

[2] 式紙紙質標準

摘要

(1) 本表は原則として通信事務用式紙（簿冊を除く）其の他独立の目的を有する紙の紙質に之を適用す（以下略）

番号		品名	斤量
1号	甲	更紙	36.5斤
	乙	ロール紙	28.0
	丙	模造紙	31.0
2号	甲	ロール紙	38.0
	乙	同	45.0
	丙	模造紙	45.0
	丁	同	55.0
3号		B模造紙	80.0
4号	甲	B模造紙	150.0
	乙	同	200.0

[3] 封筒寸法紙質標準

摘要（以下省略）

番号	寸法標準		品質	紙質標準
	メートル法	尺貫法		斤量
1号	212×85	7.0×2.8	更ハترون紙	47斤
2号	303×109	10.0×3.6	同	55斤
3号	303×227	10.0×7.5	同	65斤
4号	379×285	12.5×9.4	同	80斤

以上、戦前の封筒の寸法に関する規則類を終了し、戦後の封筒の寸法に進む。

3. 戦後の郵便封筒の寸法

戦後の封筒の寸法に関する規則の他、封筒の現物に関して発表されているものを取上げてみる。

(1) 22 年 2 月 15 日～「切手つき封筒」の発売

終戦後の郵便資材不足下であった郵便利用者に対するサービスの一つとして官製封筒の発行を復活させ、名称を「郵便切手つき封筒」と改めて発売した。切手つき封筒は額面 30 銭、1 円 20 銭と 8 円の 3 種発売された。

切手付封筒の種類	発売日	形状	寸法
30 銭	22 年 2 月 15 日	長形	84×205 ミリ
1 円 20 銭	22 年 12 月 25 日	長形	84×205 ミリ
8 円	24 年 11 月 1 日	長形	84×205 ミリ

切手つき封筒は官製の封筒ということになるが、戦前の標準封筒の寸法として推奨されていた「横幅 3 寸 = 9 センチメートル」よりも短い。

(2) 23 年 1 月 1 日「郵便物の容積及び重量の制限」(法律第 165 号)

第 17 条 (容積及び重量の制限)

郵便物の容積及び重量は、左の制限を超えることができない。

通常郵便物の容積	長さ 45 センチメートル、幅 30 センチメートル、厚さ 15 センチメートル、
小包郵便物の容積	長さ、幅及び厚さ各々 50 センチメートル又は長さ 1 メートル、幅及び厚さ各々 20 センチメートル

戦後、新郵便法が制定され、封筒の最大寸法が定められたが、最小寸法については規定されなかった。

(3) 36 年 6 月 1 日 (法律第 93 号、通達郵業第 241 号)

(容積、重量等の制限)

第 17 条郵便物の容積及び重量は、左の制限を超えることができない。

1 通常郵便物

容積	長さ	45 センチメートル、
	幅	30 センチメートル
	厚さ	15 センチメートル

2 郵便物の大きさは、左に掲げる**最小限の制限**を下ることができない。

1 円筒形又はこれに類する形状のもの

長さ	12 センチメートル
直径若しくは短径又はこれらに類する部分	3 センチメートル

2 前号に規定するもの以外のもの

長さ	12 センチメートル
幅	7 センチメートル

戦後の規則で初めて、「円筒形又はこれに類する形状のもの以外の」、通常郵便物の最小寸法が昭和 36 年 6 月 1 日、「長さ 12cm、幅 7cm」と定められた。

図 6 は、戦前昭和 17 年 10 月に「縦 13cm 以上、横 7.2cm 以上」の規則に沿って調製されていた封筒の寸法を、そのまま戦後に調製されたものであろうか、29 年 8 月に差出されていて、縦 12.8cm、横 8.2cm ある。

図 7 は、36 年 6 月 1 日改正料金期間中に差出されたもので、縦 12cm、横 8cm あり、規定の最小寸法内にある。



図 6 麻布 29.8.28 (12.8*8.2cm)

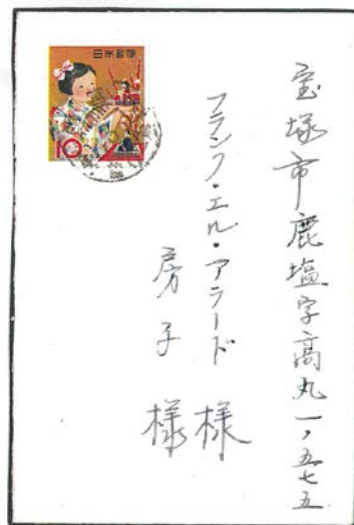


図 7 西宮 41.3. (12*8cm)

4. 戦後の外国郵便で取上げられた封筒の寸法

戦後、国内・外国宛て郵便物の取扱通数が増大してきた諸外国では、多種の寸法の封筒が使用され、その取扱の局内事情が問題となってきた。万国郵便会議では郵便業務の近代化に関して各種の課題が提案され、規定されてきた。

技術面では郵便業務の機械化の問題、業務関係では組織と運営の合理化、経済面では料金問題や原価計算などが提案されたが、その中で封筒の寸法を国際的に定めるよう機運が高まってきた。その経過と内容について、山口修氏著『外国郵便の一世紀』（注2）を参照するが、本文では封筒の寸法に言及して以下を引用した。

(1) 第13回ブラッセル大会議（昭和27年5月14日開催。243～246ページ）

ベルギー・ブラッセルで1952(昭和27)年5月14日から開催された国際会議に日本は初めて参加した。条約や約定の細部に及ぶ多くの修正条項の一つに封筒の寸法があった。

「書状の大きさの最小限が長さ10cm、幅7cmであった。…この実施は1953（昭和28）年7月1日からであった。

(2) 第5回『郵便研究諮問委員会』(CCEP)東京会議（昭和36年6月1日施行）(263～267ページ)。

1957（昭和32）年8月4日から開催された第14回万国郵便大会議（オタワ会議）で、CCEPの運営理事会が新設された。その後理事会は毎年開催され、その第5回会議が東京で1961（昭和36）年10月から開かれた。この会議で検討され、議決した一つに「封筒の規格の統一」があった。

これは「郵便機械化の前提となるもので、…規格の最小限を90×140ミリとし、標準規格を120×235ミリの間に選ぶ案が作成された。郵便物数の増加に対応するためには、エレクトロニクスなどの利用による自動化とともに、規格の統一など、利用者の協力を求めるという面も大きいことになった。

[ad]

国際展まであと4ヶ月！直前の全国切手展（競争切手展）開幕！

会期：2021年4月10日（土）～13日（火）[4日間]

会場：郵政博物館（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：100フレーム

主催：（特非）郵趣振興協会 /（公財）通信文化協会

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティプリンティング社、
切手市場、（一社）全日本郵趣連合、
（公財）日本郵趣協会、株式会社鳴美



<http://kitte.com/stampex2021>

5. 封筒寸法の規格標準化への道

郵便事業の経営面において、人件費の割合が70%を占めており、郵便事業のサービスは人手に依存してきた。

昭和30年以降、経済成長により主要都市への人口が集中し、都市部や郊外に高層住宅、集合団地が建設された。企業が差出す郵便物の通数が増大し、その中でダイレクトメールが著しく増加し、その内容物次第で封筒の形式が多様化してきた。

郵便利用者が都市に集中し、企業が差出す郵便物の大半がこうした都市部宛てに向けられるようになり、こうした郵便物の引受処理が追いつかない状態になってきた。郵便物の増加に対応する郵便局員の増員が図れない中で、郵便物の滞貨が問題となってきた。

郵便事業の作業工程の抜本的改善、とくに郵便の機械化の必要性が叫ばれるようになった。郵便物の機械化処理のネックになっていたのは、郵便物の大きさが多種多様であった。その中で取組み易い課題が封筒の規格統一であった。

その背景を詳述している以下の文献（『昭和40年度本科事業研究報告書』（最近5か年間における郵政事業の経営動向）、注3）中の「4封筒の規格化」、158～166ページ）から引用する。

（4）封筒の規格化

（1）規格化の必要性

「36年9月公達第65号をもって設置された機械化企画室では、郵便物引受処理の各種機械の研究開発、封筒の規格化、標準作業工程の設定、機械化局の建設計画など広範囲な調査研究を行うことになった」。

その中から封筒の規格化に本文を進める。引用行数が少し長くなるが、現在の『定形・定形外』封筒の形成史になるので、お付き合いいただきたい。

（2）JIS規格制定の経緯

「封筒の内容物である書籍、雑誌、事務用紙などの大きさについては、昭和26年JISが制定された。そこで、封筒の規格についてもJISを制定して郵便物の規格統一が考えられた。

35年、日本工業標準調査会は封筒に関する専門委員会を設け規格案の検討に取りかかったが、郵政省は機会あるごとにこれらの機関への封筒のJIS規格制定方強力に働きかけるとともに封筒製造業者の強力を要請した。

郵便物の規格統一は世界的課題でもあった。各国とも封筒の規格統一の努力を行い、その国際的研究機関として国際標準化機構と万国郵便連合の郵便研究諮問委員会は各国のとりまとめを行った。

国際標準化機構は35年日本工業標準調査会に対し、〔通信用封筒と袋の大きさについて〕という勧告案の照会を行い、36年郵便研究諮問委員会東京会議では、

①封筒規格の最小限は万国郵便条約で規定されている70ミリメートル×100ミリメートルを90ミリメートル×140ミリメートルに改める。

②封筒の標準規格は最小限90ミリメートル×140ミリメートル、最大限120ミリメートル×235ミリメートル（幅と長さの割合1:√2以上の範囲内に含まれ、その中から9種類を選ぶ。

③封筒の紙質は63g/m²を下ってはならない。」

という内容の決議案が採択された。

こうして37年10月封筒のJIS規格が制定された。次の第92表から分かるとおり、以前には200種類に及んでいた封筒の規格が21種類に統一されたが、郵政省はこれの中で取扱作業上の便否、機械化の難易、利用率、国際規格などを勘案し最も適当と思われる8種を選んで推奨規格として周知を図った。

以後郵便に利用される封筒もJIS封筒が多くなり、39年7月調査によれば、78.7%の利用率を示し推奨規格の利用率も63.5%を占めるに至った。（中略）

郵便物を機械により処理しうろ見通しがしだいにはっきりとしてくるにつれ、21種では種類が多くさらに形状の規格を決める必要があり、…封筒の製造業者らの協力を要請した結果40年2月、17種類に統一されたJIS封筒が制定されたので、この中3種類を選んで郵政省特別推奨規格としてその利用をPRしている。

37 年制定 JIS 規格		
形号	寸法	利用率
長形1号	142×332	
2号	119×277	2.0
3号	92×240	
4号	* 84×217	20.0%
5号	* 84×205	35.0%
6号	73×190	
角形1号	287×382	
2号	240×332	
3号	216×277	2.6%
4号	* 197×267	4号
5号	190×240	
6号	* 162×229	3.2%
7号	142×205	
8号	119×197	
洋形1号	125×176	
2号	* 114×162	2.2%
3号	98×148	
4号	105×240	
5号	* 95×217	
6号	* 98×190	
7号	* 92×165	
その他		21.3%

40 年制定 JIS 規格		
形号	寸法	利用率
廃止		
長形2号	119×277	
廃止		
4号	新◎ 90×205	36.7%
5号	84×205	
6号	73×190	
廃止		
角形2号	240×332	
3号	216×277	2.6%
197×267		
5号	190×240	
6号	162×229	3.2%
7号	142×205	2.2%
8号	◎ 119×197	
廃止		
洋形2号	◎ 114×162	2.2%
3号	◎ 98×148	
4号	105×240	
5号	◎ 95×217	20.7%
6号	◎ 98×190	
7号	◎ 92×165	
その他		22.5%

第 92 表封筒の JIS 規格 (単位 mm)

* : 8 種類の推奨規格

◎ : 定形郵便物該当規格

6. 41 年 7 月 1 日の郵便大改革（法律第 81 号）

41 年 7 月 1 日の郵便料金改正は、郵政省にとっては、郵便創業以来 90 年振りの“郵便大改革”（郵務局の解説者の言葉を借りれば）であった。郵便料金は、郵便創業以来、封筒の形状（大きさ）に関係なく、規定重量の郵便料金を基本とし、規定重量を超えるごとに郵便料金を倍額にするという料金体系であった。

41 年 7 月 1 日の郵便料金改正が“郵便大改革”と言われるのは、第 1 種郵便に「封筒の寸法を取り入れて、定形と定形外に分け、郵便物の重量を画一的ではなく、重量に段階を設けて郵便料金を重量段階に応じて定めたことである。

定形郵便はその表面及び裏面が長方形で、その長方形の大きさが長さ 12 センチメートルから 23.5 センチメートルまで、幅 9 センチメートルから 12 センチメートルまでの郵便物であって、重量が 25 グラムまでのものと 25 グラムをこえる 50 グラムまでのもの」に分けて郵便料金が設定された。

封筒の寸法と重量が定形郵便に該当しないものは定形外郵便とし、「重量 50 グラムまでのものと、50 グラムを超える 50 グラムごとの割合で算出した額を最初の 50 グラムまでの料金に加えた額」と、増料金を段階的に設定した（郵便法第 21 条第 1 種郵便物）。本文に進むが、この郵便法の改正で、「郵便物の容積、重量等の制限」が以下のように定められた。

第 17 条 郵便物の容積及び重量は、左の制限を超えることができない。

通常郵便物 長さ 40 センチメートル、幅 27 センチメートル、厚さ 10 センチメートル

2 郵便物の大きさは、左に掲げる最小限の制限を下ることができない。

円筒形又はこれに類する形状のもの以外のもの長さ 14 センチメートル、幅 9 センチメートル」

この郵便法では、郵便物の最小寸法が 36 年 6 月 1 日の法律第 93 号で戦後初めて定められたことを引継いで、若干異なるものの、引き続き定められた。しかし、この郵便法末尾の付則で以下のような経過措置が採られたことを付記しておきたい。

「付則

この法律は、昭和 41 年 7 月 1 日から施行する。ただし、第 17 条第 2 項の改正規定及び付則第 3 項の規定は、昭和 44 年 1 月 1 日から施行する。

（経過措置）

2 この法律の施行前に差出された郵便物については、なお従前の例による。

3 昭和 44 年 1 月 1 日前に差出された郵便物に係る大きさの最小寸法については、なお従前の例による。

4 昭和 43 年 12 月 31 日までの間に差出される第 1 種郵便物についての改正後の第 21 条第 2 項第 1 号の規定の適用については、同号中『14 センチメートル』とあるのは、『12 センチメートル』と、『9 センチメートル』とあるのは、『7 センチメートル』とする。

つまり、43 年 12 月 31 日までの間に差出された第 1 種郵便物については、36 年 6 月 1 日規定の寸法をそのまま引継いで、「12cm と 7 cm」とし、44 年 1 月 1 日からは新規定に基づいて「14cm と 9 cm」にすることになった。

図 8 は北海道観光地のお土産物（裏に啄木の歌を焼き入れた）の板の下半分以下に通信文を書いて差出したもので、長さ 13cm、幅 8cm、厚さ 0.4cm ある。郵便料金改正直後に使用されたもので、郵便葉書の表示もないから、最小寸法の定形郵便物として引受けられ、15 円料金となっている（函館 41. 7.22）。

図 9 は、「昭和 44 年 1 月 1 日前に差出された郵便物に係る大きさの最小寸法については、なお従前の例による。」と定められた「経過措置」に基づいて、43 年 12 月 31 日に差出された郵便物

相互間の小型封筒で、12cmと7cmある。

図10は44年1月1日の「経過措置」解除9カ月後のもので、「この郵便物は郵便法に定められた郵便物の大きさの最小限（長さ14センチメートル、巾9センチメートル）より小さいので、差出人にお返ししなければならぬものですが、差出人不明のため、便宜貴殿あてに送付します。…」という牛込局の付箋が付けられた、長さ16cm、巾8.4cmの封筒である。



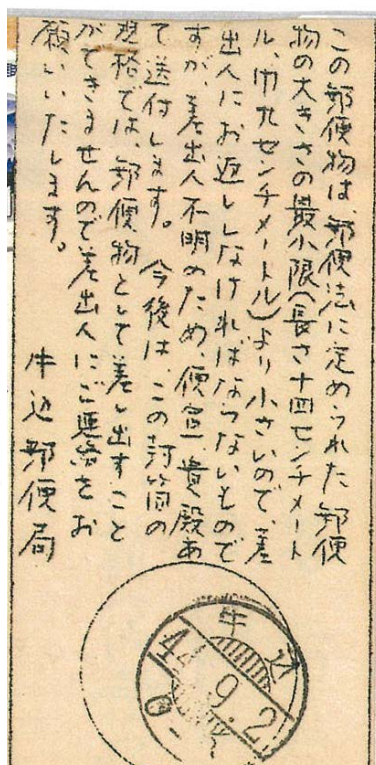
図9 京都中央 43.12.31 8-24
(12*7cm)



図8 函館 41.7.22 (13*8cm)



図10 牛込 44.9.2 (16*8.4cm)



昭和 41 年 7 月 1 日の郵便法、郵便規則の改正では、郵便料金の改正に留まらず、郵便物の種類体系を根本的に改正したものであった。

郵便物の種類は、従来通信の内容によって決められていたものであったのが、郵便物の形状によって区別することに改正されることになった。

筆者は郵趣家の立場から、郵政側からの“郵便大改革”に対して、封筒の形状を郵便料金決定の大事由にして“形状改革”と呼びたいし、そう呼んでいる。

各法律及び郵便規則で規定された封筒の最大寸法（及び最小寸法）を下記に纏めてみたので、御参考に使いたい。

施行年月日	長さ	幅	厚さ	備考
	(尺寸／cm)	(尺寸／cm)	(尺寸／cm)	
明治 4	曲尺 9 寸	3 寸		
明治 12.12.20.	1 尺 2 寸	8 寸	5 寸	書籍類
明治 16.1.1.	1 尺 2 寸	8 寸	5 寸	布告 59 号
明治 32.4.1.	1 尺 3 寸	8 寸	5 分	法律 21 号
明治 33.10.1.	1 尺 3 寸	8 寸	5 寸	省令 42 号
昭和 6.8.1.	40cm	25cm	15cm	省令 21 号
昭和 17.4.1.	(13cm 以上)	(7.2cm 以上)		省令 18 号
昭和 23.1.1.	45cm	30cm	15cm	法律 165 号
昭和 36.6.1.	45(12)cm	30(7)cm	15cm	法律 93 号
昭和 41.7.1.	40(14)cm	27(9)cm	10cm	法律 81 号

表 1 封筒の最大寸法と（最小寸法）

注記：表中、() 内の寸法は規則に基づく最小寸法である。

参考文献

注 1 山口修氏編『郵便百科年表』（株式会社ぎょうせい、1987 年 4 月 20 日初版）

注 2 山口修氏著『外国郵便の一世紀』（国際通信文化協会、54 年 3 月 1 日発行、243～267 ページ。）

注 3『昭和 40 年度本科事業研究報告書（最近 5 か年間に於ける郵政事業の経営動向）』郵政大学校、昭和 41 年刊行、（郵政博物館の図書番号 AK-H-50）中の「第 4 章郵便事業の近代化、第 1 節局内作業の近代化」中の「4 封筒の規格化」、158～166 ページ）

その他：

注 0『通信協会雑誌第 200 号』（保健号、大正 14 年 4 月 20 日発行）

注 0『郵便創業 120 年の歴史』（郵政省郵務局郵便事業編纂室、平成 3 年 12 月 25 日発行）

年賀切手「いぬはりこ」の精密スクリーン測定

永吉 秀夫

1. はじめに

戦後、1954～65年の期間に発行されたグラビア多色刷りの記念切手では、色ごとに異なる角度のスクリーンが使われました。それらの中には、角度のバラエティが存在する切手もあります。

記念切手は原則として一度に全量を製造するので、多くの場合1枚の実用版によって印刷されたと考えられます。しかし発行数の多い切手の場合は、使用中に摩耗して実用版を作り直したり、初めから複数の実用版を使って印刷作業を行った例もあったようです。小型シートが発行されている年賀切手などでは、通常シートと小型シートは当然異なる実用版で印刷されています。

この時期のグラビア切手では、スクリーンがけを手作業で行っていたため、複数の実用版間で角度合わせが正確に行われなかった場合があります。特にお年玉切手シートが大量に発行された年賀切手には角度バラエティが存在する可能性が高く、実際1958年「いぬはりこ」、1959年「たいえびす」、1961年「赤べこ」において、角度バラエティが確認されています。

例えば1958年「いぬはりこ」の発行数は、通常シート800万枚、小型シート948.4万枚ですが、実用版は通常シート4面(単片80枚)、小型シート12面で構成されているので、実用版の使用回数は通常シート10万回、小型シート79万回となります。この小型シートを1枚の実用版で全量印刷するのは無理であったでしょう。小型シートに角度バラエティが存在すること、また小型シートと通常シートとの間で角度の違いが存在することは、十分に想定されることです。



図1「いぬはりこ」小型シート

昨年刊行した拙著(*1)では、この切手の黒色と赤色のスクリーン角度に、通常シートと小型シートを合わせて3種の角度バラエティが存在すると書きましたが、名古屋在住の江野康志氏より、緑色のスクリーンにもバラエティがあるという報告が寄せられました。そこでもっと多くの切手を入手して、調べてみることにしました。

結論から言うと、この調査の結果、次の5種のバラエティの存在が確認されました。これらのうち③④は、拙著に記載していないバラエティです。

		黒	赤	緑
①	20面シート	45度	72度	55度
②	小型シート	45度	75度	55度
③	小型シート	45度	73度	62度
④	小型シート	45度	68度	55度
⑤	小型シート	58度	68度	55度

以下では今回の調査結果について、詳しく報告したいと思います。

2. 小型シートの調査

コロナ騒ぎで即売会に行くのもままならないので、ヤフオクの出品物の中から、送料込み 200 円程度以下で買えるものを、無作為で入手しました。ただし同一出品者からは 3 枚以内にとどめました。結果として大した量は集まりませんでしたが、以前から所持していた分を含めて 15 枚の小型シートを詳しく調べることができ、前記③④の発見に至りました。

黒色スクリーンのバラエティ⑤は、以前より確保しておいたものですが、今回の新規入手品の中には見つかりませんでした。拙著では角度を 59 度と書きましたが、再度詳しく測定したところ、どちらかというとも 58 度に近いようです。今後は 58 度と書くことにします。スクリーンの精密角度測定はやはり難しいので、この例に限らず、1 度程度の誤差を含むと考えてください。

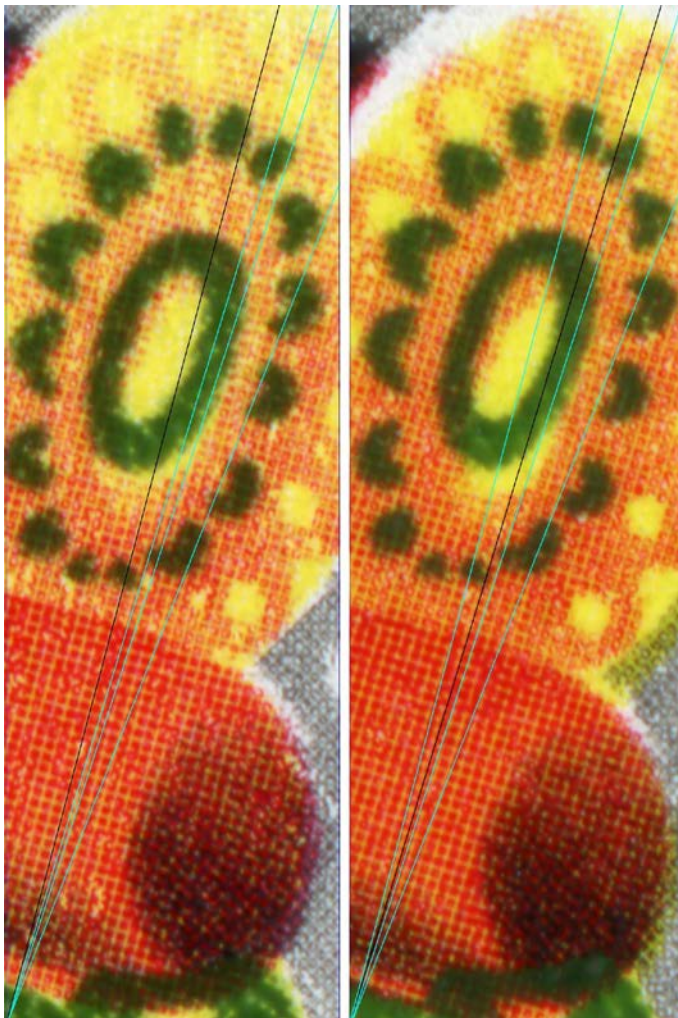


図 2a 赤色スクリーン 4 種の識別 (75 度、73 度)

赤色スクリーンについては、20 面シートを含めて 4 種の角度が確認されましたが、角度差が 1 ～ 2 度という場合があります。このわずかな角度差をどのように確認できたのかを、次の図 2(2a、2b) で示しておきましょう。

4 枚の拡大図を、75 度、73 度、72 度、68 度の順に並べました。それぞれの拡大図には、これら 4 つの角度の補助線が加えられていて、それぞれのスクリーン角度と一致しているものを黒色で、他の 3 本を水色で引いてあります。黒色の線だけがセルの並びと一致し、水色の 3 本は一致していません。72 度と 73 度の区別はなかなか難しいですが、水色の方の線は、図の範囲でセルの並びを 2 列ほど横切っていること、ご確認いただけるでしょうか。

この赤色スクリーンは、ほとんどの切手で鮮明に、かつ広い範囲で観測されるので、わずかな角度の違いでも確実に見分けることができるわけです。

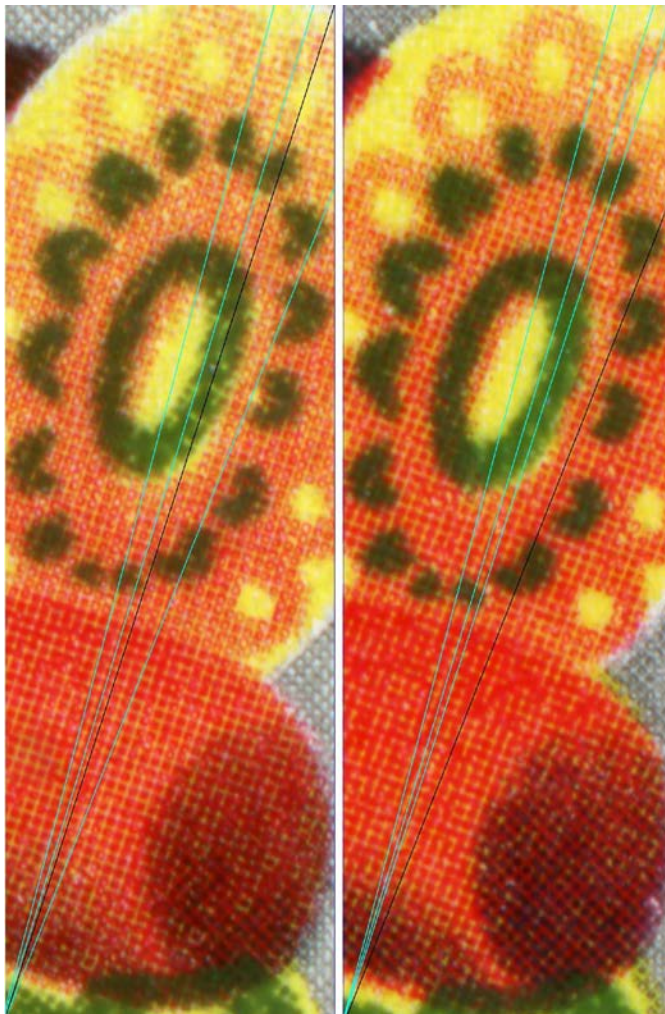


図 2b 赤色スクリーン 4 種の識別 (72 度、68 度)

この切手の緑色スクリーンは、一般にあまり鮮明ではありません。切手印面上では全く網目が見えない場合もあります。しかし小型シートの右側耳紙「スイセンの花心部分」では、ほとんどの場合、図3のような網目を観測することができます。緑色の場合は、図2の赤色の場合のような微妙な角度差を識別する必要がありません。花心部分はあまり範囲が広くありませんが、前記の①～⑤に見られる2種の角度を識別するには充分です。

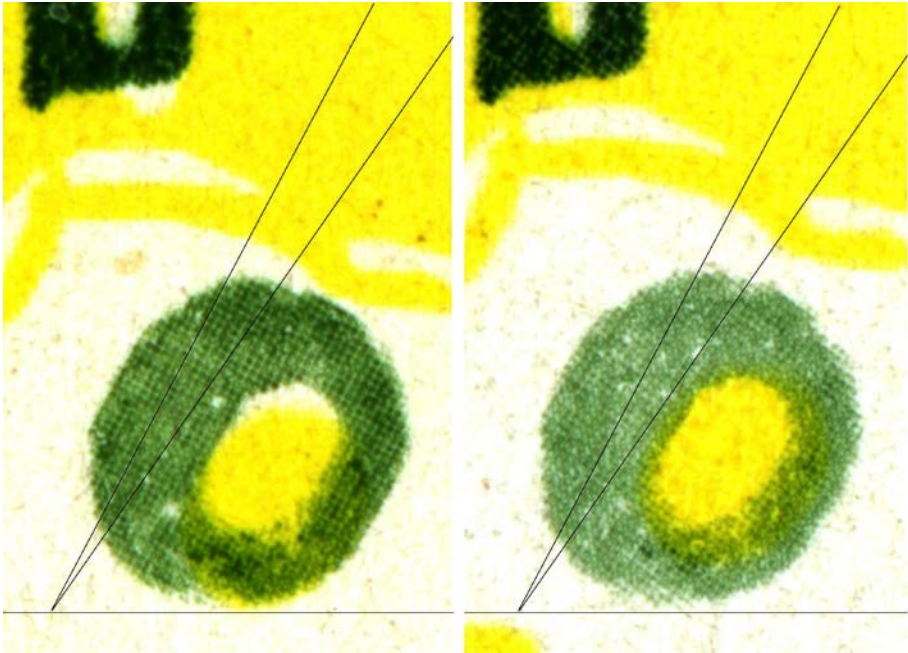


図3 緑色スクリーン2種の識別

この切手には以上のほかにもう1色、黄色が使われていますが、多くの切手でそうであるように、黄色スクリーンの観察はなかなか困難です。切手印面はともかく、小型シートの耳紙にはグラデーション部分があるので、スクリーン観測には好条件のはずですが、ほとんど観測できませんでした。一例だけ、90度程度であるような雰囲気が見える例はありましたが、精密な角度測定に耐えられるレベルではありません。

今回調査した15枚の小型シートを一応分類しておくと、②4枚、③3枚、④6枚、⑤2枚となります。それらのうち⑤の2枚は黒58度であることを確認して入手したもののので除外すると、他の3種のスクリーンはほぼ同程度に見つかりました。調査数が少ないので確定的なことは言えませんが、これら3種の中で特に希少なものはなさそうです。しかしこの程度の調査では、これ以外にバリエーションがないと言い切ることはできないでしょう。

3. 100 枚束の調査

小型シートを数多く調べるには資金もかかるので、前記②～⑤のほかにバラエティが存在するかどうかを調べるのには適当ではありません。そこで使用済切手の 100 枚束を調べることにしました。100 枚束は無作為に集めた使用済切手を束ねたものですから、特に希少なバラエティ以外は、ほぼ含まれると考えられます。また通常シートに存在するかもしれないバラエティについても、何か言えるでしょう。100 枚調べて新たなスクリーンが見つからなければ、「いぬはりこのバラエティは①～⑤の 5 種」を一応の結論としてよさそうです。

このスクリーン測定は、角度 1 度の精度で行わなければならないので、ルーペで見ただけで分類するわけに行きません。前項の小型シートの測定もそうですが、「2400dpi で読み込んだ画像を画像処理ソフトで解析」という手順で測定しました。100 枚束の測定をこの方法で測定するのは大変時間がかかりましたが、ともかく調べ終えることができました。この束から出てきた 99 枚の切手 (1 枚少なかった!) の測定結果を、次の表 1 にまとめました。

		黒	赤	緑	黄	確認枚数
①	20 面シート	45 度	72 度	55 度	?	11 (11)
②	小型シート	45 度	75 度	55 度	約 86?	21 (26)
③	小型シート	45 度	73 度	62 度	?	7 (40)
④	小型シート	45 度	68 度	55 度	?	20 (22)
⑤	小型シート	58 度	68 度	55 度	?	0 (0)

表 1 100 枚束の調査結果

期待していたとおり、前記の①～⑤以外の角度バラエティは見つかりませんでした。年賀切手「いぬはりこ」のスクリーン角度は、①～⑤の 5 種と結論づけて良さそうです。もしこれ以外のバラエティが今後見つかったとすれば、それはかなり希少なものと行ってよさそうです。

この表に示した「確認枚数」欄の括弧内の数は、緑の角度不明のものを含めた枚数です。先に述べたように切手印面では緑色スクリーンが観測できないことが多いのですが、緑色のみによって細分類されることはないと仮定すれば、括弧内に示した数を①～⑤の数と考えることができます。

この表で示されているように、緑色スクリーンが観測できる例は少なかったですが、その測定不能の切手は、なぜか赤 73 度のものに集中しています。赤 73 度の切手以外では、大半の切手で、緑の角度も何とか測定することができました。

5 種のバラエティのうち、⑤の黒 58 度は全く見つかりませんでした。このスクリーンが少ないことは以前からわかっていましたが、個人的感触として 20～30 枚に 1 枚くらいと思っていました。しかし存在数はもっと少ないようです。カタログ評価をつけるとすれば、一般品の 10 倍くらいはつけてもよさそうです。

①の赤 72 度は、やはり少なかったです。単片発行枚数で見れば小型シートもの 3800 万枚に対して通常シートもの 800 万枚なので、100 枚束の中からは 15 枚程度見つかる計算になります。束から出てきた数はこれよりさらに少なめでしたが、大きくずれてはいなかったと言えます。

他の 3 種、すなわち②③④の切手では、③がやや多めですが、ほぼ同程度存在すると言ってよさそうです。また 100 枚束の中から①～⑤に分類できない切手が 1 枚も見つからなかったことは、20 面シートの切手が①以外にないことの現れであると言うこともできるでしょう。

なお小型シートの項で、黄色のスクリーンはほとんど測定できないと書きましたが、100 枚束の中からも、黄色のスクリーンを測定できる切手は 1 枚も見つかりませんでした。

4. 通常シート切手と小型シート切手の分類

そもそも今回の調査の動機としては、単片使用済切手を 20 面シート切手から切り取ったものと小型シートから切り取ったものとの、確実に分類できるかということもありました。

前記①～⑤によれば、赤色の角度によって確実に分類可能ということになります。ただしそのためには、赤色スクリーンの角度を 1 度の精度で精密に測定しなければなりません。拙著の中で、赤 72 度は通常シート、75 度は小型シートなので、3 度の角度差が識別できればよいと書きましたが、今回の調査結果によると 1 度の精度を必要とすることになりました。従来 72 度としていた使用済切手のうちかなり多くのものは、73 度の小型シートものを誤認していました。

前記①③を比べればわかるように、緑のスクリーンが測定できればこれらの分類は容易です。しかし③の赤 73 度ものは緑のスクリーンが見えないものが多いので、確実な分類は容易ではありません。それでも 3 で述べたように、通常シートの①ではほとんどの場合緑 55 度が確認できるので、緑が測定不能な切手はたいてい赤 73 度の小型シートものです。これで目星をつけてから赤色の角度測定を丁寧に行えば、両者の分類は確実に行うことができます。

5. おわりに

拙著の中で、書状 10 円期の記念特殊切手の中で角度バラエティを持つ切手は 7 種（後の方の章で付け加えた東京五輪 10 円を含む）と書きました。今回の調査によって、そのうちの 1 種がさらにバラエティ豊かであることが確かめられましたが、上記 7 種以外にも角度バラエティをもつ切手が、いろいろと存在するようです。そのうちのいくつかは過去の文献（*2）に報告されていることを、前記の江野康志氏にご教示いただきました。拙著に記載した分を含めて、なぜか角度バラエティのある切手は 1958 年頃と 1964 年頃に集中しています。これらを含めて、今後さらに調査を進める必要があると考えています。

参考文献

(*1) 永吉秀夫：『郵趣モノグラフ 31 製造面から見た書状 10 円期の記念特殊切手』（日本郵趣協会、2020 年）

(*2) 葛西新一：「グラビア・スクリーン角度による特殊切手の版別分類について」（『フィラテリスト』第 3 巻 9 ～ 10 号、日本郵趣協会、1971 年）

的一滴

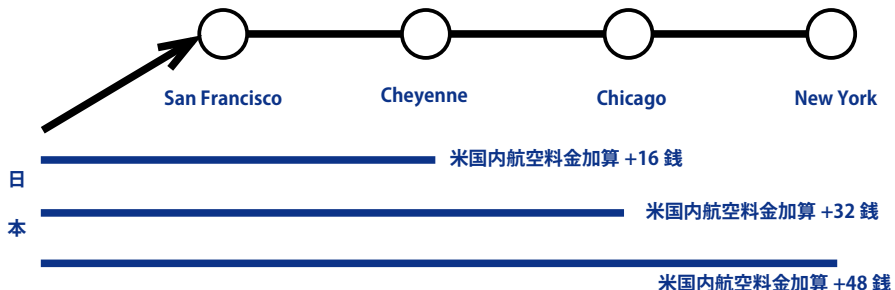
日米コンビネーションカバー

安藤 源成

ジャパンのブースで富士重 20 銭と US. AIR POSTAGE 16c が貼付されたカバーを見つけ入手した。神戸から MICHIGAN BENTON 港宛てで「OVER-NIGHT Air Mail ☆ Service」の印が押され、「VIA AERO MAIL SERVICE FROM SAN FRANCISCO TO CHICAGO」と書込みされていたので納得した。

富士重 20 銭は神戸 -San Francisco 間（船便）の国際郵便料金で US.AIR POSTAGE 16 C は San Francisco - Chicago 間の米国内航空料金である。日本で米国料金の米国切手が貼られ日本局で抹消されたものは初見である。他に同様のものが有れば報告して頂きたい。

ちなみに、COVEL MFG COMPANY は、1890 年、シカゴに設立されたノコギリ研ぎ機械製造業で、3 年後にはミシガン州ベントンハーバーに移転している。



米国・初期の航空送送路と日本から送る場合の米国内航空加算料金

緑色紙片貼付の速達郵便

行徳 国宏

1 「緑色紙片」発掘への道

今から 20 年ほど前の話で恐縮であるが、郵政博物館資料室が東京大手町にあった頃のことである。通信公報、通信各誌から収集に必要な郵政資料を調べるため時々通っていた。毎週資料室に足づく通っていて、調べ屋の主みたいな存在になっていた森賀節行氏から、この他にどんな郵政文献、研究報告書などがあるか、文献名などその調べ方を含めて色々と伝授していただいた。

そのある日のこと、戦前・大正～昭和時代の速達郵便物の表面に緑色の紙片を貼り付ける制度があることを教えられた。初耳だった。『現物を見つける前に何らかの方法で情報を発信したら、足の速い収集家に先取りされてしまうから、見つかる迄黙っておいたという。速達郵便を収集している君にはこっそり教えておく』と。ただ、森賀氏は、この緑色紙片貼りの制度を説明した郵政資料が検索できていないという。何かの機会に君が先に発掘したら、逆に教えてくれと。秘密の情報交換である。さらに付け加えて「緑色紙片は、速達郵便物だけを集めて把握し、速達郵便物であることがわかるよう、その一番上のものに緑色の紙片を貼付けた」。制度の施行期間は、大正時代という。

大正期の速達郵便となると、東京の中心区市内と大阪市内に地域限定で使用され、存在していることは確かだ。しかし、は束した速達郵便物の一番上に置かれたものとなると、1 回の配達には束した何十通かの速達郵便物中の 1 通だけとなる計算だ。それだけでなく、東京・大阪限定の速達郵便物が数少ないのに、その中の 1 通とは、気の遠くなるような速達郵便である。

大正時代の速達郵便物となると、数が少なく、貼付額面切手の組合わせなど別問題にしても、発掘そのものが大変。即売品やオークションに出品されたものがあれば、高額になり、金欠収集家には手が出ないのが現実。

情報を続けるが、貼付された緑色紙片とはどんな形のもの（大小）か、緑色といってもどの程度の濃淡があるのか、どんな形で貼付されたものか、そして問題はどの程度数が存在しているのか。情報として持っていても、現物を見ないかぎり、さらなる情報の積み重ねはできない。森賀氏の一言の、未だ見ぬ情報でも、情報は情報だ。ありがたく頭の隅に入れておいた。それに「沈黙は金」だ、発掘するまで黙っておくに限る。先取りの手法である。

それから即売会などに出向いた時など、「沈黙捜査」を続けてきた。第 1 次昭和切手時代の速達郵便物なら沢山あって手に入り易いから、緑色紙片貼付の速達郵便は多分あるだろうと気をつけてきたが、今日まで見つかることが出来ないでいる。

情報を先に発信したことになる『記念文集』や『田沢切手の作品集』などを見たが、「緑色紙片」付きの速達郵便物を見なかった。

2 「緑色紙片」との出会い

時が流れた。

とあるブースのバイダーに、濃い灰色で縦長の封筒を使用した貴族院議員宛の郵便物が数通あった中から「緑色紙片」貼付の速達郵便を見つけた（図 1）。「頬っ辺」をつねり、数度まばたきをしてから、図 1 のみを購入した。図 1 には速達郵便以外に何も説明がつけられていなかった。ご覧の通りの、大型の濃い封筒で見栄えも悪い。その分割り引いた値段が付けられていたようだった。

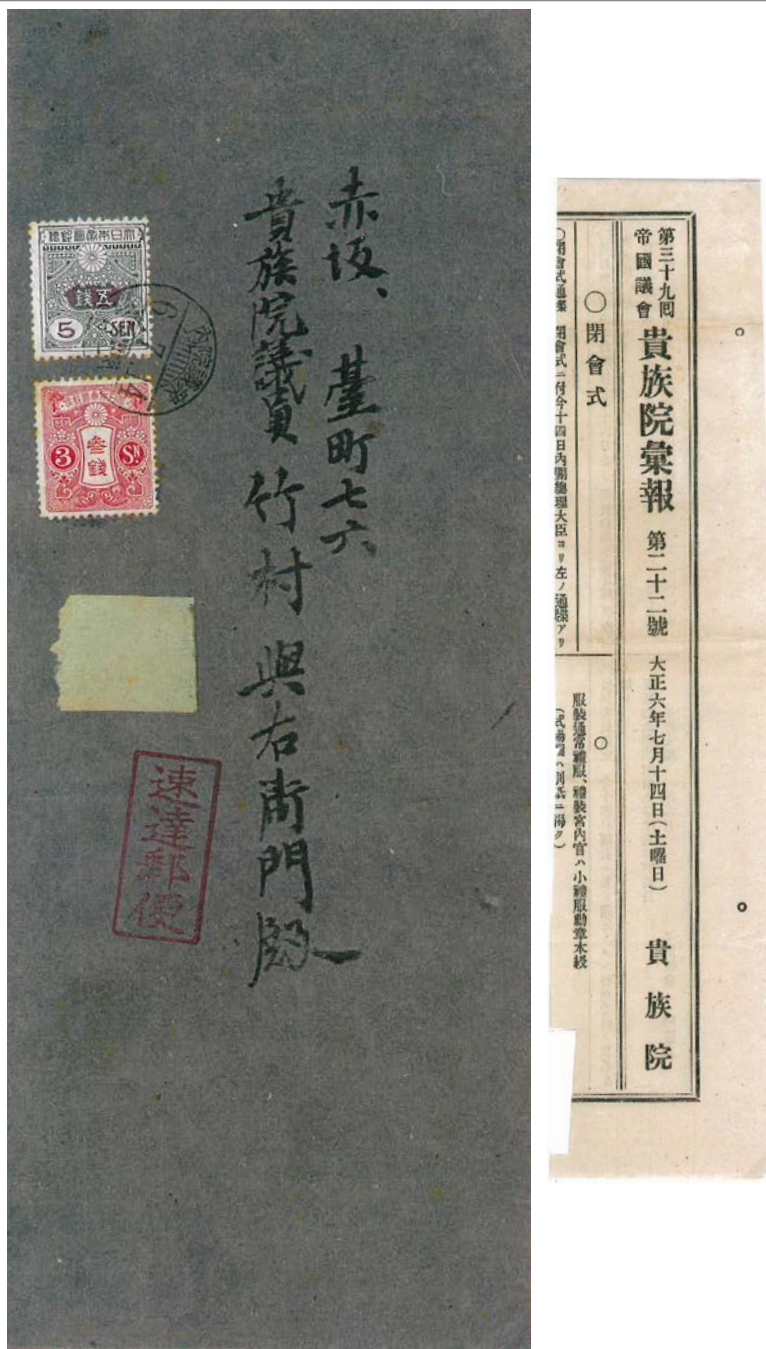


図1 緑色紙片貼り付け速達郵便と中身 (右)
(行徳国宏 蔵)

それからさらに時が流れた。

2015 年の全日展で「急速郵便」作品が 2 点出品されていた。その中に「緑色紙片」付きの速達郵便がそれぞれ 1 通あった。

1 小林富士夫氏の作品 73 リーフ目 (図 2)

衆議院内局 (切手別納ゴム印)、(第 1 種無封 2 銭 + 速達 6 銭 = 8 銭)

到着印「駒込」大正 13 年 7 月 8 日后 10-12。第 1 種無封郵便 10 匁まで 2 銭。

2 池田健三郎氏の作品 92 リーフ目 (図 3)

衆議院内局大正 13 年 6 月 30 日后 7-8 田沢旧毛紙 3 銭 + 震災 5 銭切手貼り

到着印「駒込」同 6 月 30 日后 10-12。

第 1 種無封郵便 (10 匁まで) 2 銭 + 速達 6 銭 = 8 銭

3 拙『第 1 種無封郵便』(2019 年ジャベックス作品) 15 リーフ目 (図 1)

衆議院内局大正 6 年 7 月 14 日后 6-7 到着印「四谷」同 7 月 14 日后 8-9。

第 1 種無封 (10 匁まで) 2 銭 + 速達 6 銭 = 8 銭

3 「緑色紙片」貼付の速達郵便物の現実

以上 3 通に共通していることは、差出人が貴族院、宛先が貴族院議員、差出局が「衆議院内」局、そして東京の中心区内での取扱いである。貴族院の事務局が在京の貴族院議員宛てに各種書類を同封した郵便物を貴族院議員の人数分だけ何十通も準備して衆議院内局から速達郵便で一度に差出した。引受局では速達郵便を消印し、束にして重ねた速達郵便物の一番上のものに緑色紙片を貼り付けた。配達員はその束から速達郵便物と判断して配達をしたのであろう。

3 通の速達郵便は、それぞれの日の何十通分の速達郵便物中の 1 通であったということになる。付記したいことと、今後収集・調査したいことが 2 つ残されている。

一つは「緑色紙片」貼付のもので、貴族院議員宛て以外の速達郵便が存在しているのかどうか、また、見つかっているのかどうか。もう一つは、「緑色紙片」貼付の制度を説明する告示や、局内資料を何年度まで遡って調べればよいのか。これについては、速達郵便制度創設の明治 44 年～大正 6 年までの範囲に遡って調べれば、その期間内に何らかの通達が出されているかもしれないので、その分調査範囲が狭まったことになる。

ところで、上記 2 通にはどのような内容印刷物が同封されていたのであろうか。筆者の図 1 には「貴族院彙報 (いほう)」が残されていたので、第 1 種無封郵便であると説明できるが、図 2 と図 3 も第 1 種無封郵便であるのは間違いないだろうと思慮するが、各人はどのような郵便の種類 (第 1 種無封郵便か第 4 種郵便) で決めておられるのだろうか。「貴族院彙報」か他にどんな印刷物が同封されていたのだろうか。

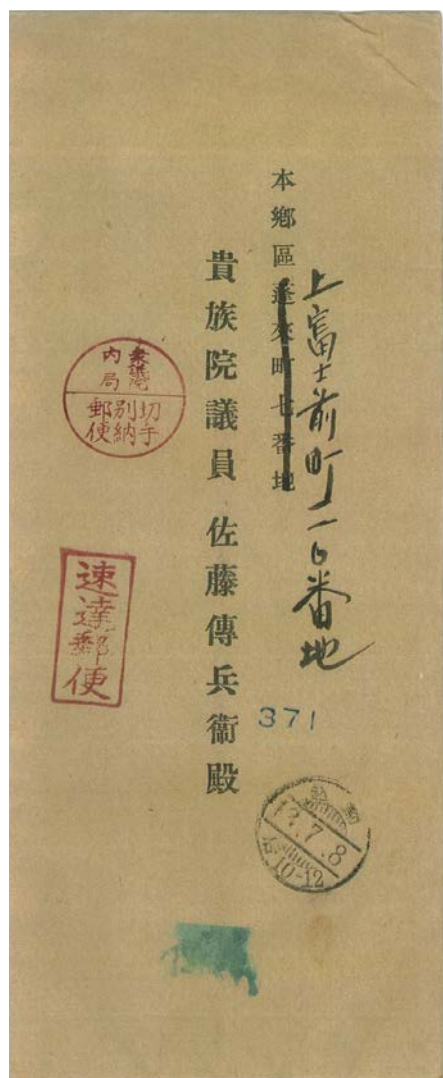


図2 緑色紙片貼り付け速達郵便
(小林富士夫氏蔵)

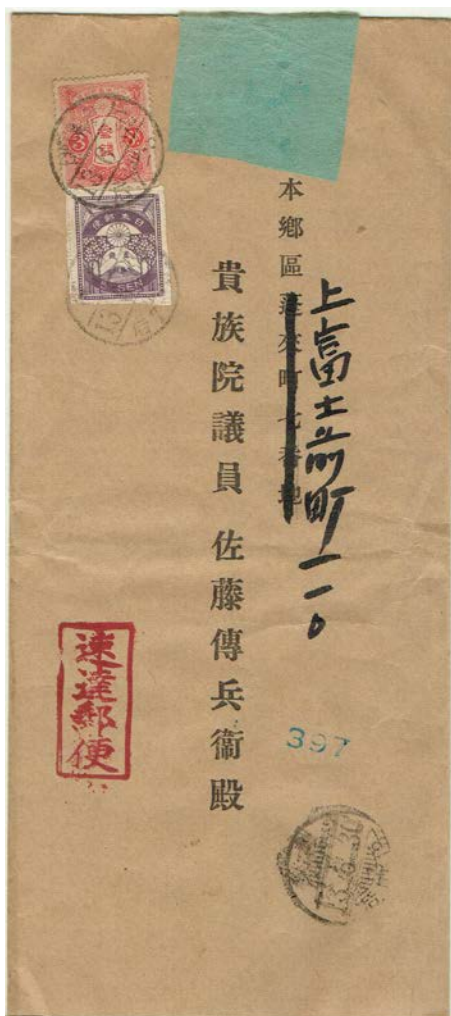


図3 緑色紙片貼り付け速達郵便
(池田健三郎氏蔵)

4 「緑色紙片」貼付の終り

緑色紙片を速達郵便物に貼付する制度が戦後も施行されていたことは全く気がつかなかった。戦後の郵便資料を調べていたら、「緑色紙片」の業報を見つけたので、拙本『戦後の郵政資料』第2巻に記録しておいた。このページを見られた方が、何か訳の分からない項目をどんな理由で採録したのか不思議に思われたかもしれないが、私にとっての備忘録の意味もあった。森賀さんの言葉がまだ頭の隅に残っていたからである。【資料】

昭和30年6月21日付け東京郵政局報第612号に掲載の局業一第4548号から。

「即日速達郵便のは束に添付使用中の空色は束紙札は、最近の郵便業務運行の実情から考えて、その使用を廃止することとしたから、了知の上各局においては、自局の在庫がなくなり次第これを実施し、以降即日速達郵便物と他の普通郵便物とを合わせては束する場合は、即日速達郵便物を上部にするようよろしく取扱わたい。」

(アンダーラインは筆者による。)

即日速達郵便物を束する時、その上部に「緑色紙片」を貼付する制度がまだ残っていたことが分かった。空色は束紙札は全地方郵政局内で実施されていたのか、それとも上記引用の東京郵政局管内だけでこれまで通り施行されていたのかは、今後発掘する余地があるう。改めて空色は束紙札の剥がし後が一部残っているような速達郵便物を今度は探してみたくなった。

参考文献：

拙本：『戦後の郵政資料第2巻（昭和27年1月～36年12月）』（平成16年7月刊、66ページ）

[ad]

国際展まであと4ヶ月！直前の全国切手展（競争切手展）開幕！

会期：2021年4月10日（土）～13日（火）[4日間]

会場：郵政博物館（東京都墨田区・東京スカイツリータウン内）

規模：100 フレーム

主催：（特非）郵趣振興協会 /（公財）通信文化協会

協賛：スタンペディアプロジェクト

後援：カルトールセキュリティブリンティング社、

切手市場、（一社）全日本郵趣連合、

（公財）日本郵趣協会、株式会社鳴美



<http://kitte.com/stampex2021>

WEB セミナー

競争切手展に向けた作品の改善方法

2021年4月～6月、3回シリーズ

4月4日(日) 15時開会	基調講演「審査員との駆け引き」(佐藤浩一) 講演「クリティークを活用するための準備」(吉田敬)
5月4日(火・祝) 15時開会	講演「どうしてLGを欲しくなったか?」(斎享) 講演「会社をやめるまで一切英語を喋れなかった私の英語筆記法」(吉田敬)
6月6日(日) 15時開会	講演「国際展初心者5年間の5年間(仮)」(菊地恵実) 講演「地図、画像、表の入れ方」(吉田敬)

一回のセミナーで、講演者によるプレゼン(60分)と質疑応答(最大30分)を2講演行います。

司会進行 横山 裕三



菊地 恵実 氏



斎享 氏



佐藤 浩一 氏



吉田 敬 氏

主催団体：特定非営利活動法人 郵趣振興協会

視聴方法：視聴チケット(1,000円)をお求めの上、ご参加ください。

配信方法：ZOOM

視聴チケット(1,000円)で、3回のセミナー全てのリアルタイム閲覧と即日アーカイブ配信の閲覧(2021年6月末まで)をご利用いただけます。当協会の2021年度賛助会員ならびに「スタンペックスジャパン2021」出品者には、視聴チケット1枚が無償配布されます。それ以外の方は視聴チケット販売を委託しているスタンベディアにてお買い求め下さい。なお、本セミナーは、将来、内容を編集した上で、別途動画配信する可能性がございます。

特定非営利活動法人

郵趣振興協会

Society for
Promoting Philately

琉球の航空郵便（４）

ハト航空８円

木戸裕介

本号からは額面ごとに航空切手を見ていきたいと思います。まずは一番最初に発行されたハト航空 3 種より、8 円の使用例です。

ハト航空は、琉球における航空郵便の取扱開始以降、別納扱としていた航空料金に対応するために発行されました。

8 円は「那覇より 5000km 未満」12 円は「5000km 以上 10000km 未満」16 円は「10000km 以上」の航空増料金に対応します。

8 円は那覇からの距離 5000km 未満ということで、主に本土宛航空増料金に対応しました。よって、貼り合わせは、8 円（航空料金）+1 円（本土宛第 1 種料金）=9 円が適正となります。

図 1 は、1 円として第二次普通 1 円を貼った 9 円の適正航空料金使用で、沖縄民政府印で抹消されています（具志川 1950.3.18）。沖縄民政府印は、3 月頃に使わなくなっていくので、組み合わせとしては少ないです。

この料金は、1949.8.1 の全琉球統一料金の制定とともに設定されたもので、航空料金としては第二期目の料金です。この第二期目の料金は、翌年の 1950.4 月から 6 月頃に料金改定され、増料金から、併合料金に変わりました。料金は 8 円（本土宛第 1 種航空料金）となり、単貼で適正使用となりました。

これが、第三期の料金なのですが、第二期→第三期への改定日がはっきりしておらず、正式な記録が残っていません。当該時期には他の料金体系の変更も一切ありませんので、推測を立てることもできません。

図 2 は、1950.6 月に使用された増料金の使用例です。琉球郵政庁の人間が差出しているので、この 6.2 頃には



図 1

まだ増料金であることは間違いなさそうです。手紙が残っていればよかったのですが、残念ながらありません。1950.6月の航空便エンタィアをお持ちのかたは、ぜひ情報を寄せてください。改定日程をできる限り狭めたいと思っています。

この1950.6月以降は、本土宛航空便はハト航空8円単貼で適正料金、適正使用となります。図3は沖縄本島での使用例で、南風原の半櫛型で抹消されています。

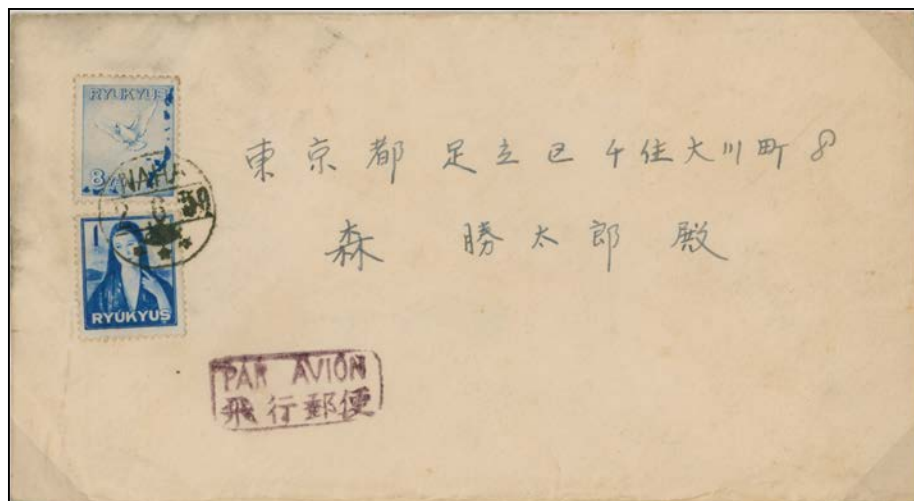


図2



図3

また、図4も同じく単貼ですが、沖縄・與那城と、戦前の櫛型三ツ星印で抹消している面白い使用例です。なるべく那覇などの大局ではなく、少ない局や面白い消印を入れようと努力しています。

カバーの希少度は、ハト航空は本土向8円であってもやはり難しいです。フロアオークションや、ヤフーなどでは、1年を通してどこにもでてこない年もザラです。見つけたら買っておくと良いと思います。1円加貼の最初期が最も難しいです。相場は2.5万円~って感じです。また、図3、図4のようにこの頃は同じ Air Mail 封筒が多用されています。米軍向けのものだとは思いますが、那覇の文具店なんかで売っていたのでしょうか？

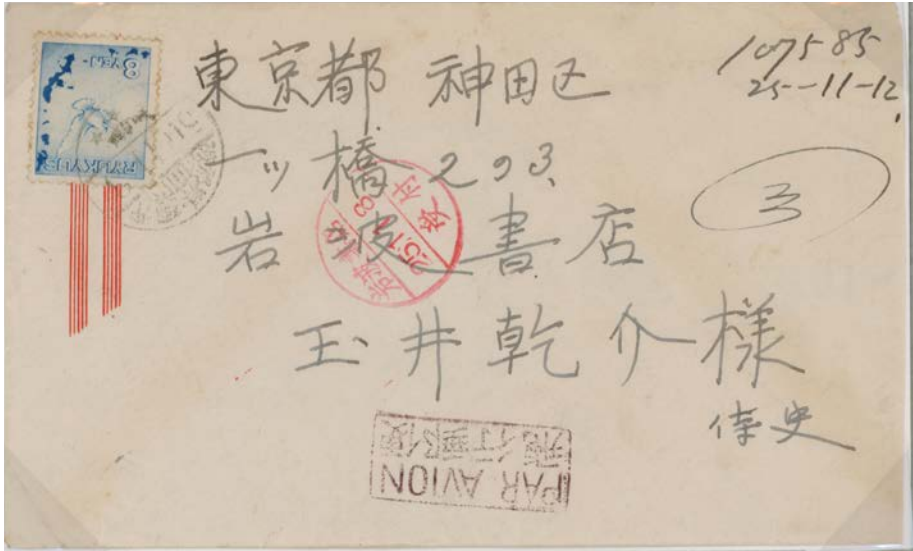


図4

時代が降り、1951.2.1には第三期の料金体系に変わりました。航空料金は「本土向け」は13円、「5000km未満」が18円、「5000km以上」が30円に改定されました。1951.10.1には、これらの料金に対応する天女航空3種が発行されましたが、ハト航空の売れ残りを利用した混貼が見られます。

図5はハト航空と同日発行の速達切手5円とを合わせた13円の日本宛です。決して多くはありませんが、このような貼り合わせもあるのです。天女航空13円が発売されるまでの間はこのような混貼が普通です。ハト航空12円+1円で13円もあるのでこちらは次回にご紹介します。

図6は8円3連で使用した30円料金米国宛のカバーです。多数貼は全くなかったので気に入っている使用例です。

後の時代で、船便8円料金に適応した使用例なども確認されています。12円などに比べて手に入れやすいとは思いますが、なかなか難儀するのがハト航空です。

琉球は集めている人も少ないので、幸いこれくらい材料が集まっていますが、基本的なものはありません。モノも少ない対象なのですが迫力のある使用例が欲しいところです。



図5



図6

切手コレクション紹介

JAPEX2018 大銀賞 付録1に全リーフ掲載 (6F)

簡易書留郵便の歴史 1961-1999

町屋 安男

簡易書留郵便は最も身近な郵便制度史であり、30歳代から専門収集に着手している。何度もエントアを差し替えて、いつしか40年以上の歳月が過ぎ去ってしまった。簡易書留は一般書留の合理化(簡素化・能率化)であり、郵便改革の一環として昭和41年7月1日に新設された。新動植物国宝図案切手以降の郵便制度史であるから、誰でも気楽に愉しめる収集分野である。

長年にわたる郵便史収集を分類・整理して一冊の本に集成することは郵便趣味の宿願であり、至高の喜楽である。スタンペディアの吉田敬氏によって“宿願と喜楽”が叶い、心の奥底より深謝している。

従来、簡易書留郵便には、単行本が皆無であった。郵便史の視角はシリーズ切手収集においても有用であり、使用例を多面化するであろう。郵便制度史や現行切手収集のガイドブックとして手軽に利用していただけるならば、郵便史収集の本懐である。

各ページは、1リーフずつ解説付きで構成されています。
 なお、作品オーナーのご好意で本作品は全リーフが付録に収められています。
 付録は「マイスタンペディア」よりダウンロードできます。
 入手後は個人の利用の範囲で印刷等してご利用ください。



次ページのリーフを収めるページ



簡易書留郵便の歴史 1961-1989

JAPEX2018 に出品された「簡易書留郵便の歴史 (6 フレーム、大銀賞)」全ページをカラーで収めるコレクション+解説本です。

なお本書は「スタンペディア日本版」機関紙フィラテリストマガジン第30号付録1としてPDF 配信されたものを製本し発行するものです。

書名: 簡易書留郵便の歴史 1961-1989

著 者: 町屋 安男

発 行: 無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

体 裁: A4 判 約 100 ページ、フルカラー、オフセット印刷

価 格: 990円 (消費税込、送料別)

発行日: 2021 年 4 月 25 日

本書籍の予約注文を 2021/4/10 まで受け付けています。詳細は P.160 をご覧ください。

簡易書留郵便史

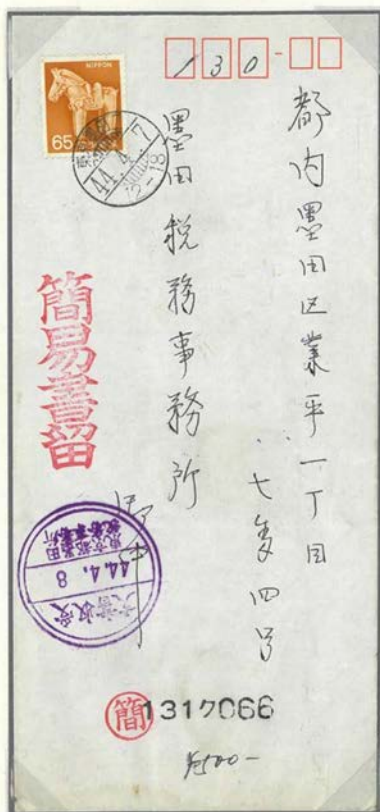
1部：昭和41年7月1日～昭和46年6月30日

定形 15円＋簡易書留 50円＝65円

郵便自動化による色検知用の改色切手として、「新はにわ馬切手65円」が昭和42年7月20日に発行された。また、『郵便番号制』が昭和43年7月1日から全国一斉に実施され、東京中央郵便局で郵便番号自動読取区分機が稼働を開始した。

定形郵便

簡易書留還付料受領書原符



東京・墨田二、昭和44年4月7日・12-18



東京中央・昭和41年7月18日・後6-12

簡易書留郵便物が差出人に還付された為に、還付料として簡易書留料50円が徴収された。制度創設18日後の最初期使用例である。昭和26年11月1日から「書留郵便物を還付・転送する場合は、その郵便物の書留料だけを徴収すればよい」ということになった。

郵趣振興協会 活動報告

2020 年 12 月 4 日～2021 年 3 月 6 日

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

特定非営利活動法人 郵趣振興協会(以下「当協会」と略す。)は、その活動について広く伝えるため、3ヶ月に一度レポートを発行し、電子メール等で賛助会員にお伝えすると共に、無料で掲載いただける雑誌媒体に同一内容を提供しております。

全国切手展「スタンペックス ジャパン2021」の開催に向けた活動が本格化

本年 4/10-13 に開催を予定している全国切手展「スタンペックス ジャパン2021」の開催に向けて、審査委員会・実行委員会の活動がそれぞれ本格化しています。

審査委員会は、12月10日に、同展覧会で審査を担当する4名の審査員を発表すると共にアプレンティス審査員の募集を発表しました。また同月17日の出品作品募集締め切り後、展示作品を決定し、提出書類による事前審査を開始しました。

実行委員会は、12月17日の出品作品応募者に対して同月21日にアクセプト結果を連絡すると共に、1月1日に展示アクセプト作品を発表。その後、出品料納付・出品封筒の送付・作品搬入に関するご案内を行うと共に、ご協賛いただいているスタンペディアプロジェクトに、公式目録の製作依頼を行いました。

2月に入ると、共催の郵政博物館との打ち合わせを重ねると共に、実行委員の募集を開始し、設営・撤去並びに審査事務の支援・開催期間中の対応及び目録以外の製作物の作成と広報・宣伝も準備しております。

開催まで一ヶ月強ですが、COVID-19 感染症の状況を見極めつつ、最適な形で全国切手展の開催ができるように準備しておりますので、ご出品者はもちろんご参観いただく方もご期待ください。

来年度事業(2021 年度)として、競争展出品者をターゲットにした、WEB セミナーシリーズ開催を決定

オンライン郵趣例会 振興プロジェクト(斎享リーダー)では、本年度2回開催したWEB セミナーの視聴者アンケートによる好評を受け、2021 年度に3ヶ月連続で開催するWEB セミナー「競争切手展に向けた作品の改善方法」の実施を決定しました。

斎 享氏を始めとする当協会の理事が講演を行うほか、国際郵趣連盟審査員である佐藤浩氏による基調講演を予定しています。同セミナーの視聴は有償とし、事前にチケットをお買い求めいただく形態を予定しておりますが、当協会の2021 年度賛助会員には、チケット1枚を無償配布する予定ですので、どうぞ来年度のご継続をよろしくお願い申し上げます。

オンライン郵趣例会振興プロジェクトからのご報告

当協会では、2020年4月より斎 享 理事をプロジェクトリーダーにして、オンライン郵趣例会の活用を促す活動を行っていますが、本活動報告期間中には、以下の活動を実施しました。

(1) 当協会が、技術および宣伝協力した、オンライン郵趣例会の開催

日本切手研究会	6回
外国切手研究会	13回
昭和切手研究会	2回
南方占領地切手コレクターズクラブ	3回

(2) WEB セミナーの後援 (右図)

「第3回南方占領地切手のフィラテリー展 作品解説」

(2020年12月23日)

(3) オンライン郵趣例会開催団体の集客支援方法の提供

当協会ホームページにおける、例会報告コーナーの提供

外国切手研究会	13回
南方占領地切手コレクターズクラブ	2回



当協会では、今後とも、技術面およびマーケティング面で様々な取り組みを行うことで、オンライン郵趣例会の振興を図っていきたいと考えております。

特定非営利活動法人 郵趣振興協会 役員改選のお知らせ

当協会の現理事及び監事の任期が切れることを受けて役員改選を以下の通り行います。

対象役職及び現任

理事 5人 吉田敬、行徳国宏、斎 享、池田健三郎、菊地恵実
監事 1人 横山裕三

新役員の専任方法及時期

当協会定款により、役員の専任は、通常総会にて決定されます。まず、当協会理事会より役員候補(理事:3名以上5名以下、並びに監事:1名以上2名以下)を決議事項に含む通常総会の開催(2021年3-5月を予定)をご案内します。

今回開催される通常総会は2020年度正会員により構成され、その議決で新役員が決定されます。(定款により議決権を持つのは正会員のみです。賛助会員には議決権はありません。)

役員候補の決定について

総会に提出される役員候補は、代表理事が素案を作り、当協会理事会に諮り決定します。現在、当協会の役員(理事・監事)の報酬は0円ですが、フィラテリーの振興にあたり自薦を受け付けております。ご関心のある方は代表理事まで3月20日までにご連絡ください。

各種事業の進捗について

当協会は「2020 年度事業計画書」において、5つの事業を計画しております。

それらは「エキシビション事業」「フィラテリー必需品サプライ事業」「リサーチ及び研究推進事業」「フィラテリック PR 事業」「次世代育成事業」の5つです。当クォーターにおける、各事業及び総務ほかの進捗をご報告いたします。

エキシビション事業

郵博 特別切手コレクション展（2020 年度）を、郵政博物館と共催で1回開催。

12/14-15 第3回南方占領地のフィラテリー展

郵博 特別切手コレクション展（2021 年度）等の展覧会の準備

スタンペックスジャパン2021実行委員会（横山裕三 実行委員会事務局長）の活動継続

フィラテリー必需品サプライ事業

「ヒンジ・カバー用コーナー・透明マウント」の3品目を最重要対象品とした、Amazon.co.jp における供給体制を維持。（本事業は随意契約の形で、無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社に委託しています）

リサーチ及び研究推進事業

リーフ作成雛形提供事業の準備を継続中

フィラテリック PR 事業

ウェブサイトにおける情報発信を実施（12-2 月で 34 件。対前四半期 +0 %）

オンライン郵趣例会 振興プロジェクト（斎享リーダー）の活動の継続

次世代育成事業

スタンプクラブ「月刊切手ニュース」への協力

総務ほか

スタンプショウ = ヒロシマ 2021 実行委員会からの後援依頼の内容変更を承認（12/15）

日常的な経理業務、問合せ業務への対応

（報告者：代表理事 吉田敬）

特 定 非 営 利 活 動 法 人

郵 趣 振 興 協 会

Society for
Promoting Philately

第5期会員の募集を3月より開始します！

末長くフィラテリーを楽しめる仕組み作りをする公益郵趣団体です。2017年から始まった活動はようやく5期目！オンライン郵趣例会の振興活動が目立ちますが、リアルでも、郵政博物館との連携を基に遂に全国切手展を主催できるところまで来ました。

ところで、スタンペックスジャパン 2021 の場合、例えば5フレーム作品の出品料は15,000 円ですが、会員は4割強のディスカウントが適用され、8,500 円に減額されます。

それから、2021 年 4-6 月期に開催予定の WEB セミナー（有償）チケット料金は千円ですが、会員には無料で一枚が配布されます。

公益郵趣団体ではありますが、少しずつ特典を拡充しています。是非第5期から会員となり、我が国における郵趣振興にご協力いただけませんか？

【第5期（2021 年 4 月－ 2022 年 3 月）正会員・賛助会員 募集要項】
簡略版（詳細資料は <http://kitte.com/> でご覧いただくことができます）

1. 年会費：

正会員 1 口 18,000 円（何口でもご加入可）

賛助会員 1 口 6,000 円（何口でもご加入可）

* 期中のどこから加入されても同額です

総会議決権の有無が、正会員（議決権あり）と賛助会員（議決権なし）の違いです。

2. 正会員・賛助会員（以下「会員」）の特典

- (1) 協会主催および協会が関係する各種行事への優先参加およびご優待
- (2) 「競争切手展データベース」へのアクセス・閲覧
- (3) 「郵政博物館 特別切手コレクション展」出展者負担金の減免
- (4) オンライン郵趣例会支援サービスのご提供

マイスタンプEDIAにてお申し込みいただくことができます。インターネットにアクセスできない方には、詳細資料・振替用紙を郵送しますので、ご連絡ください。

ジャパNSTAMPオークションニアレポート

鯛 道治

2021年2月27日～28日開催の116回フロアセールのレポートです。コロナ下のセールなのでやむを得ないことながら、普段の7割程度のご出席者数になりました。116回フロア・101回メール合計で出品点数4,321、落札点数2,871、落札率66.44%、ハンマープライス(手数料除く)39,855,850円の暫定値になりました。最終的には不落札品の即売と返品処理を経て、落札率は70%に近づき、成約額は4000万を少し超える事になります。

昨今の状況で弊社のオークションでも、手彫・小判のトラッドのアイテムはちょっと苦しく、良い物も随分安く落ちています。メールセール分も含めてではご応札者数、金額他はトータルではOKなのですが、オークションとバザールで、何時もの皆様と元通りにお目に掛かれる日が遠からずやって来ることを願っています。

今回のセールでも台湾の丸一、昭和切手の郵便史などはお二人が競って随分といい値段になりました。ここでは値段でなく、裏ネタをたっぷり書ける物を選びました。最後に回した2点は関連して書ける要素が一杯詰まっているのです。

Lot795 U小2銭5枚貼重量便写真入り筆書き 札幌ボタ 21.4.11 極美

最低値 80,000 応札 4 スタート 145,000 落札値 145,000

知る人ぞ知るカバーです。赤二貼の札幌ボタ 極美印、所謂、益池エンタです。20年は経っていると思います。

全く予告なく、突然ぶらりと弊社に若者がご来訪、束になったエンタを見せられたのです。数十通は有ったと思います。それが全て赤二の札幌ボタ、他の局のボタは勿論、札幌のN3B3も丸一も無いのです。上から下まで赤二の札幌ボタばかり、封筒は薄い和紙で中身無し、パーフェクトコンディションが揃っていました。

商売に取り掛かったのですが、先方のご希望値段は1通あたりとすれば、十分受け入れられる数字でした。でも沢山有れば、1点カケル通数にはなりません。でも散らされると最悪です。だから一括買取りなら幾ら、取りあえず数回のオークションへの出品なら、このくらいで落ちるのかなのオファーをしたのです。

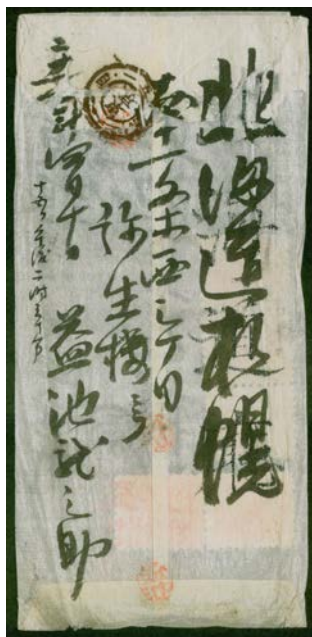
先方のチョイスは後者でした。時間が掛かってもオークションで構わないという、結構レアな選択をされました。

基本的に単貼でしたが、田型の書留や重量便も若干有ったと思います。数回に分けて、嫌嫌ながら毎回、10通ぐらいずつ出品したのです。物の状態が良いので完売でした。初っ端は単貼りでも10万位はしたでしょう。でも、当然ながら値段はだんだん下がっていくのです。

私が買い取って、10年かければもう少しましな商売が出来たのですが、先方のご希望に於いては、その選択肢は有りませんでした。時を経て、今も時々見かける益池エンタです。書留と重量便を含めて数通は何時しか弊社に戻って来るのです。今でもまた、状態が良いので売れ残ることは有りません。最初の落札値よりはかなり下がっていると思いますが、兎も角一年のオークションで売り切れる位の数を預かって、値段はさて置き完璧にキッチリ売り切って、次は五年後に持って来てよと言って、そのまんま・・・。あのお兄ちゃんとのビジネスはその時1回切りなのです。

他にも同じ山でコレスポンデンスが、何テーマかで数百通有る物が有ると聞きました。数通は良

い値段で売れるけど、後は塩漬けが必須のカバーです。気乗りがしないので商売もしなかったし、物が何だっかすら忘れてしまいました。でも、マーケットに有る益池の名前のエンタと言えば、札幌ポタ以外には、ほんの少しの赤二貼の二重丸しか見覚えが有りません。素っ頓狂な出品者は一度の取引でその後の音沙汰は有りません。東京の人なのは確かですが、今や相手の名前も思い出せないのです。とうの昔に会員さんで無くなっていますから。実在の人？狐か狸だったのかも知れません。でも、赤二の札幌ポタの益池は、今も時々まひょんなどころから現れて来るのです。



Lot. 795

Lot1053 月に雁 紫櫛型 YOKOHAMA 27.8.51

最低値 20,000 応札 5 スタート 260,000 落札値 260,000

人気の【月に雁の満月鮮明正位】です。強気の人がお二人だと読んでいました。一発勝負の、ガチでフロアに出て来て最初からは競らないでしょうが、メールでソコソコ入れて、スタート値の様子見して、フロアで降りるタイミングを失って、結果として落とした人が後悔するような減茶値までやるのかな?・・・が私の読みでした。今までのパターンがそうでしたから。

ネタ晴らしをしましょうか。予想の二人ともにメールで入れて来ました。想定していたご両人のお値段はAさんが25万、Bさんが15.5万、それでも結構いい数字なのですが、フロアのスタートが16万だったなら、さらに競りは続いたと思います。あにはからんや、予想外のノーマークで減茶に強い人がもうお一人いたのです。30万超のビッドでした。だからスタート値は26万、フロアは荒れずに一声でのハンマーになりました。

派手な紫色で極鮮明のこの消印ですが、欧文櫛→三日月の切り替え期のYOKOHAMAに限られます。でも、その気で見れば兄弟分は一杯有るのです。郵趣マーケットに出てくるそれは、圧倒的に記念・国立・観光・文化人・立山をべたべた貼ったヨーロッパ宛の航空便なのです。その特徴は、綺麗だけれど貼り合わせがきついでエンタとしては使いづらい、だから商売的には、剥がして⑩正位になるかどうか最重要です。今回の物は四捨五入で⑩です。⑨か逆位なら一桁安くなるのです。転売屋さんは厳しい基準で物をチョイスせねばなりません。銘柄の選択を間違っはけません。飛び込みで買って良いのは、月に雁と公園と立山に限るのです。ブローカーさんにもセンスと情報処理能力が必要なのですよ。



Lot. 1053

Lot1571 和桜1銭26版 見本印刷 目打9s 新発見

最低値 50,000 応札 2 スタート 210,000 落札値 210,000

青一の見本印刷でのこの目打=4周9sは新発見だと思います。全てが9s x 11sだと、手彫切手専門カタログでも断定されています。

実際にまさかこんな物が有るとは思いませんでした。でも、疑って見てもリパーフとは思えません。それに有り得る目打です。単純に今まで見つかっていなかっただけなのでしょう。

ビッドがお二人というのが微妙です。ドンピシャで20万と21万のおつり無し、私が付けた最低値が5万円、せめてあと何名かは最低値でも良いのでビッドして欲しかったのです。カタログに出ていないバラエティーなので、怖がって収集の対象に出来ない未使用コレクターが多いのかな。今回のお二人は、勿論一流の青一のスペシャリストなのです。この結果が今のオークションでの手彫のマーケットの状況を如実に示しているのです。



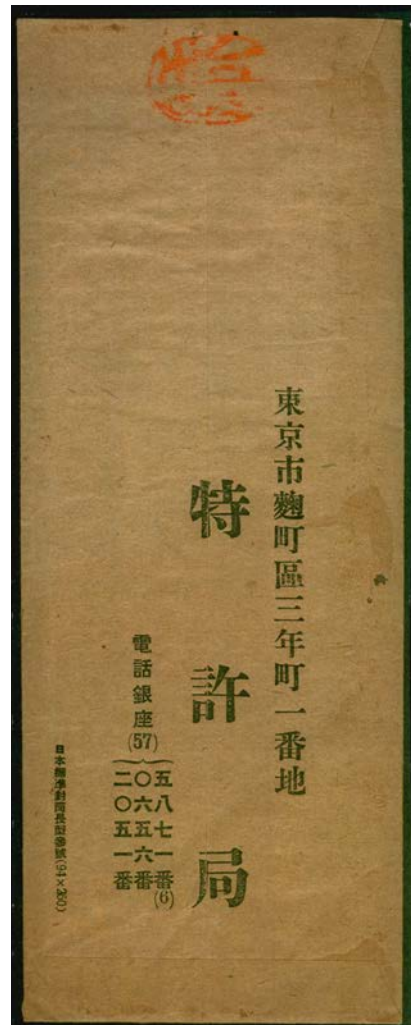
Lot1901 1 昭2 銭、10 銭、20 銭貼審判書類特許局発 櫛型赤坂 17.9.23

最低値 30,000 応札 5 スタート 140,000 落札値 330,000

第1種5銭・書留12銭・訴訟・審判が15銭＝合計が32銭なら貼り合わせは何でもOKです。訴訟書類と審判書類は完全に同一の料金体系なのですから。

菊の時代なら第2種の審判はたまに見るのですが、昭和まで下がると本当に稀だと思います。今回の物は商標登録無効の通知書が入った、エンタィアとしての完璧な物でした。落とした方は封筒だけでなく、中身を上手に展示して欲しいと思います。

この料金大系での忘れもしない大珍品がもう一つ有るのです。「海事審判」、随分前に一度だけ扱って、尼崎の先生がきっちり落としてくれました。気を付けて探しているのですが、巡り合う機会がありません。今回のクラスの物ならば、値段がどうこうでなく、出たところ勝負で落とした人が勝ちでしょう。でも、思ったよりもいい値段になりました。



Lot410 洋桜 6 銭ル 不明ボタでの使用済

最低値 80,000 応札 0 不落ち



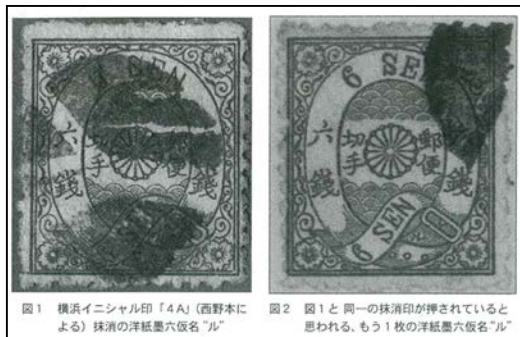
Lot. 410

出品物を見た瞬間、微妙な気持ちになりました。全日本郵趣連合の鑑定書が付いていたのです。私が知る限り、洋桜 6 銭ル（ポーラス）の真の使用済は 2 点だけ、そのすべては私が見つけた物なのです。鑑定委員会も大変でしょう。切手そのものは文句なしの本物ですが、チョロ消しの真偽は鑑定の仕様が無いのです。無理やりに本物が偽かという二択をするならば本物だと思います。でもこのケースでは消印のタイプが確定できることが必須の要素です。その意味では NG と言わざるを得ません。

郵趣研究 93 号に高野昇郎氏の立派な論文が有るのです。輸出用切手の使用済に関してのレポートです。和桜半銭政府印刷、和桜 30 銭イ、洋桜 10 銭ハ（ポーラス）、改桜半銭ニ（ポーラス）と洋桜 6 銭ル（ポーラス）です。推測できる配給地は基本的に横浜が中心ですが、使用地域はもう少し広がりますし、10 銭ハのポーラスではしっかりと神戸の使用例も見つかっています。使用年代は明治 12 年以降と考えて良いと思います。高野説のブライアン（？）の輸出用というのはちょっと夢を見ていますが、製造思想とすれば、正規の原版を使っのての後年の印刷だという事には異論は有りません。和紙での紙質は軟性の縞紙ですし、洋紙は例外なくポーラスですから。

この記事中で私の書いた事が取り上げられているのでここに再掲載して、改めて詳しく書いて置きましょう。1000 点限定の珠玉の特集セールが 2000 年の 12 月なので、ロンドンのカムデンでのシャピラとの商売は 1999 年だったと思います。彼とモロに商売した日本人はもう誰も残っていないでしょう。

まだイギリスに切手のオークションハウスが林立して活発にビジネスが出来ていたころの話です。スタンレーギボンズ、ウエールズはカーディフのウエスタン、ワービックの 3 社に毎回の様にソラレル日本切手のコレクションの出品が有ったのです。竜から昭白、字入りのほぼ異種のコレクション、アルバムにヒンジ貼りの未済混合のゼネラルコレクションでした。手彫をかなり含んでの記念までの戦前なので、カタログ値はそれ相当の数字になるのです。



洋紙 6 銭ルの使用済 2 枚（引用：郵趣研究 93 号）

同じスタイルで数ロットが絵にかいたような統一が取れた表現で、3社の型録に毎回必ず並んでいたのです。参考値の総額は1セールで100万円位だったと思います。全てのロットで、ディスクライブは数十行使って上から下までぎっしりです。物は基本的に本物です。高級品（高価品）には洩れなく、鉛筆で特徴のあるマークが付いています。私が名付けた、シャピラマーク！！

出品記事自体は嘘では無いのですが、率直に言って、見れば絶対に買いたくなる物なのです。キーバリューでNHは有りません。消印もオークションにカラー頁に出せる物は無いのです。それなりに知識のあるブローカーが、用意周到に悪意で日本人をターゲットにして作った、一見昔から海外に有った完全に初なように見えるコレクションなのです。あくまでオークション誌での記載に於いてはですが。

海外のオークションに不慣れな夢見る日本人のビッドを狙うのです。きっちりしたカタログ値は書いていないのですが、25~30%が参考値で、邦貨で20~30万円のロットが多かったと思います。表面上は割高で無いので、初な日本人はこぞって買ったのでしょう。だけど物を見て、夢見た物でないことに気づいて消えて行ったのです。私のライバルになったかも知れない人達が、軒並み討ち死にしたと思います。ここで名前を出した3社は、出品者が書いて来た記事をそのまま載せるし、最低値指定を受け入れる、不落札ペナルティーを課さない、オークションビジネスでのモラルに欠けるグレードの低いオークションハウスだったのです。

シャピラにとっては鴨の日本人を絶えず供給してくれる絶好の猟場だったのでしょう。売れ行きは極めて良好なので出品者とオークションにはにんまり、落札者はがっくりだったと思います。手彫が全部偽物なら返品は出来ますし、オークションの日本切手への知識不足ゆえのミスならば我慢せざるを得ないかも知れません。何故なら時としてドエライお宝に巡り合える可能性も有るからです。ところがシャピラが如何様ロットを出し続けていた時には、既に北園君がロンドンにいたのです。ロンドンでのオークションでの美味しいロットは北園が洩れなく落して日本に戻って来ます。シャピラ物は、その逆のグレードなので買った日本人はお気の毒というしか有りません。

でも、何故か私はシャピラとビジネスが出来たのです。彼は日本の多くのオークションハウスに出品したことが有るはず。そして、彼の出品者としての要求にフルに継続して応じられるところは無かったのです。付かず離れずの弊社を除いては、ですが。

イギリスのオークションでローグレード品を如何様ロットを作って売って、単品で使える物は弊社に出品して来ていたのです。リザーブ付ですがソコソコに良い物を型価の30~40%の最低値なので結構売っていたのです。消印物で本当にいい物は売らずに後生大事にコレクションにしていました。

酸素ボンベとペースメーカーに繋がれた時に、私に声が掛かったのです。コレクションを売りたいので来て欲しい・・・。目玉は、ロブソン・ローで掘り出した、和桜20銭稿=N1B1/K 越前敦賀他の手彫でした。売らずに残っていた綺麗な物が数百点、手彫専門カタログをベースにした25%Fixでの商売でした。

メーカー・オファー=値段を付ける！でなく、数字を切って、買うか買わないかを返事しろ！なので、私とすれば好都合でした。当時はBank of Tokyoに予約を入れて置けば、パスポートだけで現金が無制限で受け取れたのです。今はエビデンスが必要だし、相当に苦労すると思います。あの時は支払いに関してもすんなりできたのです。値段の基準は相手が決めていたし、物はVFなので電卓を叩くだけで良かったのです。20銭稿はナタニエルが持っていないので躊躇なく買えました。ちょっと怖かったのが印面にピンホールが有った事、穴あきなら大傷です。PHのタイプを調べて、シート写真を持っていたのでポジションを確認してプリンター・ピンホールと判断したのです。この切手のPH付はユニークです。

瞬間戸惑ったのが和桜6銭のリーフでした。レア・シラビックの未使用は無いのが有難かったのですが、迷ったのが【ル】の白抜きY、和紙でなく洋紙だったのです。カタログ値ベースでは大幅に安くなる。洋紙の本物の使用済は未発見。でも、飛び込みました。紙の違いを説明して、議論し

て値切るのは野暮でしょう。怒らせて買い損ねるのも勿体ない。損得抜きに、扱って見たかったのです。持って帰って高野さんにプライベートでオファーして、和紙の値段を基準にした位で買って貰いました。

この時のシャピラとの商売は、目勘定でコレクション全体のジャスト半分、一年後の再会を約束したのですが、彼の命の灯は消えました。再婚されていた未亡人とお子様達が相続で大モメ、双方の弁護士から私に問い合わせが来たのです。買えずに残った半分でも30銭イの綺麗なカバーとか、支那字菊の完貼とか売れる物が一杯有ったのですが、どうなったか分かりません。彼と付き合いが有ったロンドンの3社のオークションにもその後の彼の影すら見えなくなったのです。私の知る限り、ヨーロッパのオークションには出て来ていないと思います。

結果としてシャピラとプライベートで商売出来た日本人は私だけだと思います。でも、私でさえ、それ以前に手ひどい仕打ちをされたのです。ウィーンでオーストリアの国立のオークションハウス＝ドロッセウムに素晴らしい手彫のアキュムレーションが出たのです。参考値は2-3万円、見なければ入札は不可能な記載でした。たまたま偶然にも現地で見えたので、300万円位でメールビッドを入れたのです。丁度スイスのオークションに行っていた時の事、ワクワクしながら電話で結果を聞きました。おめでとう！お前が買った、値段は幾ら？・・入れた値段のそのままで！・・。

オーストリアはシャピラの生まれ故郷です。何らかのコネが有ったのかな。彼がこのセールのフロアに出ていたのは確かです。そして、きっちりと私が入れていた値段ジャストまで引っ張ったのです。余りにも的確な、そして絶対に有り得ない数字なのです。オークションが情報を漏らしたかどうかは判りませんが、シャピラにしても自分が支配しているテリトリーでの美味しい商売を私に邪魔されたみたいない思いただだと聞きました。

2010年の少し前、ノールウェイのオスロのエンゲルスで、ウィルヘルムセンのコレクションが売りに出たのです。手彫の偽物のオーソリティーのコレクションです。2月で寒いかなと思ったのですが、フロアに出たのです。単独のセールの為にヨーロッパへ行くのは珍しいのですが、彼の名前からして何が有るかが気になったのです。最も見たかった偽物コレクションは、すでにデンマークのオークションで売ってしまったと聞きました。でも、それ以外の本体は残っていたのです。行った以上は全部買いますよ。気になったのは2点だけ。竜の200文の目打有りの長崎検査済の単片、これはまだ売らずに持っています。もう一点が洋紙6銭ルの白抜Y・・、この二枚目の方も、一度売って、戻って来て、今は高野さんがお持ちです。【6銭ル】の使用済、今年発行される、ビジュアル日専・手彫版でどう扱われるのがちょっと気にはなっているのです。私の戯文お役に立つのかな。



17歳の春だった。軍靴に追われViennaを出た。
辿り着いた倫敦で、数十年を経て財を成した。其頃の彼の地には、物があつた。目が
効けばチャンスもあった。
Forgeryとして買った。30Sen Foreign Paper Without Syll.を10枚並べて見せられた。
くつつくのもあったかもしれない。最後のDealは酸素ボンベを傍に置いてだった。
20Sen Native Laidをまとめたあと、Six Sen Nativeの仮名違いのリーフを見せられた。
Syll. 11 (ル)の綺麗な外郭白抜Yは“洋紙”だった。和紙の評価で黙って買った。
毀誉褒貶の激しい、難しい人物だった。
Rudolf Simon Schapira 享年73才、異郷にて土に還る。

縁があって1人のPhilatelistがロンドンにて掘り出した手彫、小判、字入のエクセ
レントな使用済を数百点、オークションにかけることになりました。この機会に他の方の
ご協力を得て1000点限定の型録を作りました。
大部分が市場へは初登場の品物です。奮ってご応札下さい。

- Lot190 U小2 銭ペア、新小5 厘ペア貼上海日本領事館宛 丸一伊勢粥見 27.7.17 → 硬質明治 SHANGHAI 28. VII.1894
最低値 20,000 応札 3 スタート 41,000 落札値 41,000
- Lot191 U小2 銭2枚、1 銭貼上海日本領事館宛 丸一伊勢粥見 27.8.7 → 2字 KOBE 10. AUG.94 上海日本局着印無
最低値 20,000 応札 2 スタート 26,000 落札値 26,000
- Lot201 米2C 貼絵葉書2枚小西孝太郎差し出し郷里宛 機械 SEATTLE JUL.20.1905 他
最低値 2,000 応札 8 スタート 36,000 落札値 110,000

書けるネタが満載の一連のエンタ群です。郵便史からと、日本の歴史からの違った切口で評論が出来るのです。オークションの結果とすれば、実力に比して減茶安と減茶高の両極端に分かれました。

主に受取人、稀に差出人として一連の書状に関わっている人物が【小西孝太郎】です。日清戦争時は在中国上海領事館書記で、日露戦争後のポーツマス条約調印時は外交官補として列席、その後にシンガポール領事、リヨン領事を歴任しています。



Lot. 190

歴史的に名前が出るのは、全権委員小村寿太郎、高平小五郎の随員として9名で参加したポーツマス条約調印式のみだと思います。高校の教科書に出るレベルではないので、この人物の手紙なら、著名人の書簡の扱いにはなりません。ただ個人名でなく、歴史的事実でマテリアルを考察すれば、日清戦争・日露戦争は郵便史絡みで最良のテーマでも有るのです。

Lot190・191 はもろに、日清戦争に絡みます。宣戦布告は1894年8月1日です。Lot190で、7月28日には上海日本郵便局と領事館が機能していたことが分かります。上海日本局の着印が有り、書記官として赴任していた小西に郵便が届いていますから。Lot191が微妙です。郷里の伊勢粥見発が8月7日、神戸の中継が8月10日、上海の着印が無いのです。

わたくし的には、年号2字 KOBE 10.AUG.94 を消印の初期使用として評価したのですが、それはおまけでした。日清開戦で上海局が閉鎖されている時期に受取人に郵便が届いたかがどうか重要です。着印無と受取人が受け取ったと思われるという事実が相反するからです。

ブログに書いたら、飯塚博正さんからメールを貰いました。【日清戦争宣戦布告後上海局閉鎖直前使用例ですが、告示上の閉局は8月16日ですが、外交史料館の資料から領事館と同時閉鎖で、



Lot. 191

実際の閉局はこれより早く 8 月 10 日かまたはその前日と考えており、8 月 16 日は後追い告示でしょう。なお、領事館関係者は 8 月 11 日に上海を出発と記録に有ります。ちなみに、このカバーはフランス郵船に搭載されて上海に 8 月 16 日到着して郵袋はたぶん日本郵船支店にまわされたと思います。】信頼できる貴重な情報です。

上海日本郵便局が機能していれば、当然着印は押されていたと思います。8 月 10 日がギリギリなので、このカバーは想定とは違うルートで小西孝太郎の手元に届いたのでしょうか。日本領事館宛の郵便物は一括で、引き揚げ後の業務を引き継いだ内地の組織へ送られたのでしょうか。このカバー 1 通だとその証明は出来ません。日付で判断すれば、配達されなかったと言われるかも知れませんが、一連の連続便で出てきた以上受取人に届いていて、特段のルートでの配達便だと読めるのです。Lot190・191、2 通並べてこそ説得力のある説明が書けるのですが、セールでは残念ながら泣き別れになったのです。2 点共に本来の実力よりは随分と安かったと思います。

Lot201 が場で大いに盛り上がったのです。メールビッドが 7 名、2 番値の 35,000 も良い値段なのですが、1 番札は 105,000 でした。場で競って、ハンマーは 11 万、高校の先生がお買い上げです。歴史的な価値を目一杯評価してくれました。競りが終わって、休憩中に出品者がやって来て、私に何で高くなったかを聞いたのです。どう見ても、2000 円位の汚い 2 枚の葉書ですから。メールビッドがこれだけ入って、入れてきた人と落とした人の属性からして何かが有るに違いないのです。下見無しの人もそこそこの数字でのビッドなので、オークションの記事だけで判ったはずです。〈小西孝太郎 外交官 ポーツマス条約調印式列席関係者・・・〉米 2C 貼絵葉 機械 SEATTLE JUL.20.1905

私はしかとは気づいていなかったのですが、この情報の場所と日付で、ドンピシャで判る人が何人もいたのです。調印式は 9 月 4 日、外交団は S.S.MINNESOTA 号でシアトルに 7 月 20 日着、大陸横断鉄道で紐育へ移動してポーツマスでの調印式に臨んだのです。2 通の内の 1 通に、苗字抜きの孝太郎の署名が有り、文面中に【小村全権】の文字が読めるのです。前提条件が有ったので、終わった後で精査すれば、見事に解釈が出来たのですが、この絵葉書が単体で出ていたならば、誰も気づかなかったと思います。まさに @1000 円が相場でしょう。



Lot. 201

一連の小西孝太郎エンタですが、出処が面白いのです。発端は、無店舗通販の東京の本屋さんでネットで売った、218 通の小西宛の絵葉書のロットでした。全てが外地在住の日本人から赴任地のリヨン宛でした。絵葉書系の転売屋さんが目ざとく見つけて買ったのです。単純な外信便の外国の絵葉書としての評価で買えるぐらいいので、高くはなかったと思います。この人は、エンタもやるので、売主に当然の如く聞いたのでしょう。もっと他に無い？孝太郎宛でなく郷里の家族宛の物や、絵葉書以外のカバーが相当に有ったので、それも一緒に買いました。転売屋さんは、出品者として色んなオークションと付き合いが有るし、セミプロブースも出しています。弊社への出品以前に大分色んなところで、ばら撒いているのです。総ロット数は 400-500 点は有ったはず、孝太郎は物持ちは良いし、かなり筆まめな人だったのでしょう。絵葉書のコレクター？だったのかな。孝太郎宛が 1 か所から纏まって出て来るのは判るのですが、彼の差し出しでの家族宛の物が一緒に残っていたのは奇跡的な僥倖です。

ポーツマス条約調印式のアメリカ在留期間は船と汽車での移動期間を含めれば 2 か月は有ったはず。その時に孝太郎が郷里に出した葉書は何通だったのかな。偶然にも弊社に出品された 2 通の絵葉書以外にも、兄弟葉書が一杯いたはず。さあ、まだご無事でお手元に居るのかな。アメリカ切手貼りの単なるゴミ葉書と思って旅立ってしまったかも知れません。ちょっと欲に走り過ぎるきらいがある人ですが、弊社へ出してくれば美味しい思いが出来ることを改めて認識してくれたと思います。でも、どうみても 11 万は高すぎます。下見して想像以上の物を見つけた喜び貢と、ライバルがいるかどうかのドキドキ感で元が取れたと思うしかないでしょう。



Lot. 201

スタンペディアオークション

第 16 回セール レポート

スタンペディアオークション株式会社

1 月 9 日に日本橋富沢町の切手市場第二会場（綿商会館）で第 16 回セールを開催しました。COVID-19 感染症の影響もあり、事前入札 311 名、フロア来場者数 28 名と事前入札に大きく偏りましたが、いくつかのロットについては、フロアで競りました。

フロアオークションへご参加の方には感染症予防対策の観点からマスク着用、手指消毒をお願いしましたが、全ての方に順守いただきました。ご協力に感謝いたします。

事前入札率 66.4%、最終落札率は 1042/1406=74.1% でした。流通額は 13,892,767 円で、同月開催の文献セールと合わせた流通額は 1436 万円になりました。

当社としては、ロット点数は 1000 ～ 1200 点前後で運営したいと考えて参りましたが、多くのご出品を頂戴しており、当面の間は平均して 1400 点を超える点数での提供になると思います。点数が多い分、より見やすいカタログを作成したいと思います。

恒例の事前入札ベストテンは以下の通りです。（単位：円）

	事前入札 件数	Lot	最低値	スタート	落札値	ロット内容
1 位	15	920	3,000	8,500	8,500	英国 1929 UPU 1Pound 済 ウェルセンター カタログ価 :65,000 円
2 位	11	1073	5,000	23,000	23,000	フランス Fr. office in China 2 通。PAKHOL 10c 25c 貼 抹消印 1904-2-15 PAKHOL CHINE → TANGER モロッコ宛 絵葉書（貼付の Indo- China 切手は消印無し）、TCHONGKING 0.4c on 1c(4B), 8c on 20c, 12c on 30c 貼 1908-3-25 TCHONG-K'ING-CHINE 重慶 → パリ宛 書留書状
	11	1152	25,000	76,000	76,000	ポーランド 1860 10k 一番切手 済 抹消印 (27)
4 位	10	202	6,000	18,500	18,500	富士山関連 6 通（実通絵はがき 5、カールルイス スカーパー 1、） 櫛型印 風景印 富士山、静岡・ 富士山、富士山北、
	10	1234	6,000	76,000	76,000	中国 1914-1940 4 通。Junk 北京 1 版 10c 貼 1917-9- 中東 満鉄郵路、Junk 限吉 黒貼用 10c 貼 1928-6-14 HARBIN 東京宛 等の興味あるものを含む。
6 位	9	257	10,000	74,000	74,000	字入大白 20 銭 耳付 未使用 ヒンジ跡なし…
	9	367	8,000	26,000	26,000	霧島小型シート 済 櫛型印 昭和 15 9 3 日…
	9	549	10,000	52,000	80,000	1961-64 東京五輪付加金付全 20 種 茶観音 50…
	9	560	2,000	6,400	6,400	大阪万博 2 次切手帳ペーン 部分 ローラー印…
	9	726	3,000	22,000	22,000	1942 漢字加刷 50 種以上 未使用…
	9	994	15,000	42,000	52,000	インド 1900 3p pair, China 1901 5c on 0.5c…
	9	1038	4,000	21,000	21,000	タイ 1887-91 12a 2 通。1898 年 バンコック…
	9	1151	25,000	64,000	64,000	ポーランド 1860 10k 一番切手 済 抹消印 記…
	9	1229	18,000	29,000	29,000	中国 中国・仏コンビネーション 蟠龍図 1c 葉書…

スタンペディアオークション

第16回セール (2021.1.9 フロア) 最終落札結果

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
1	85,000	52	2,000	124	31,000	196	9,500	259	8,500
2	30,000	53	7,200	125	6,000	197	6,000	260	1,400
3	72,000	54	6,200	126	11,000	198	10,500	261	30,000
4	4,400	55	9,000	127	5,000	199	7,200	262	5,000
5	4,000	56	39,000	129	9,500	200	10,500	264	12,500
6	5,000	57	5,400	132	34,000	201	6,200	265	3,200
7	4,400	58	5,000	133	5,500	202	18,500	266	10,000
8	10,000	59	28,000	134	7,000	204	5,000	267	12,500
9	26,000	61	10,000	135	4,000	205	12,500	270	10,500
10	41,000	63	2,000	138	3,000	207	3,000	272	3,000
11	15,000	64	5,000	139	5,000	212	6,000	277	5,400
12	18,000	68	2,200	142	5,800	213	16,000	278	4,000
13	7,000	70	23,000	143	4,000	214	3,000	280	6,200
14	42,000	72	2,000	144	3,000	215	4,000	281	3,200
15	25,000	73	2,200	146	4,700	216	4,000	284	12,500
17	46,000	74	2,800	148	15,000	219	10,500	286	2,200
18	46,000	76	4,000	149	3,000	221	5,000	287	2,300
19	1,810,000	77	4,000	150	9,000	222	5,000	288	4,800
20	550,000	82	2,000	151	5,000	223	8,500	289	3,000
21	29,000	83	17,000	154	6,500	224	3,500	290	3,600
23	35,000	86	4,000	155	3,000	225	10,000	291	3,600
24	72,000	89	5,000	157	3,000	227	2,750	292	7,333
26	50,000	90	5,000	159	10,000	228	4,000	293	3,800
27	46,000	91	3,000	160	4,000	229	3,000	294	3,000
29	3,000	92	3,000	162	21,000	230	3,600	295	6,000
30	23,000	93	21,000	164	5,800	231	10,500	296	8,500
31	4,200	96	6,200	167	3,300	234	5,000	299	4,200
32	20,000	97	10,000	168	5,000	235	5,000	301	3,000
33	6,000	98	6,200	169	5,400	236	4,000	302	8,000
34	7,000	101	12,000	170	5,000	237	10,000	303	2,000
35	29,000	102	9,000	171	4,000	239	5,000	304	5,000
36	41,000	103	13,000	173	3,000	240	8,500	305	1,000
37	21,000	105	3,200	175	5,000	241	10,000	306	12,500
38	3,400	106	5,000	177	25,000	242	5,000	307	10,000
39	15,500	107	18,500	178	5,400	244	5,000	308	6,000
40	3,200	108	20,000	179	5,600	247	31,000	309	7,800
41	5,000	109	22,000	180	10,500	249	10,500	310	3,000
42	3,000	110	39,000	182	18,917	250	4,400	311	4,000
43	12,000	111	11,000	183	3,667	251	3,000	312	3,400
44	14,000	112	15,000	187	21,000	253	3,000	313	26,000
46	3,800	118	5,400	189	30,000	254	15,500	314	3,100
47	3,800	119	18,000	192	4,600	255	8,500	315	5,000
49	9,000	120	36,000	193	3,800	256	15,500	316	31,000
50	8,500	122	10,000	194	12,500	257	74,000	318	3,700
51	10,500	123	31,000	195	5,000	258	15,500	319	12,500

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
320	3,600	381	3,200	454	3,000	513	31,000	582	5,200
321	3,000	382	5,200	455	3,700	514	1,400	583	3,800
322	3,500	386	6,000	456	1,200	515	3,000	585	5,200
323	12,000	388	4,000	457	3,200	516	17,000	587	7,000
324	8,500	389	7,200	458	5,500	517	3,000	588	3,000
328	3,000	392	1,000	460	2,000	518	7,200	589	4,200
329	3,400	393	7,000	461	5,000	519	41,000	593	5,800
330	5,600	394	16,500	462	8,500	520	4,000	594	3,200
331	7,700	395	3,667	463	5,000	521	5,000	595	5,000
333	4,000	397	5,000	465	5,000	522	3,000	596	1,200
334	4,500	398	4,000	466	12,000	523	10,100	597	50,000
335	3,900	399	7,000	467	7,200	525	10,000	598	8,000
337	2,200	400	3,200	468	4,200	526	3,000	599	3,000
338	5,000	402	2,400	469	7,200	529	3,000	600	6,000
339	3,000	403	4,000	472	31,000	530	5,000	601	5,000
340	5,000	404	2,000	473	10,500	531	220,000	603	3,000
341	8,000	405	3,200	474	5,200	532	4,000	604	9,000
343	12,500	406	3,200	475	15,500	534	5,000	608	3,000
344	10,500	407	6,000	476	3,000	535	3,000	610	2,000
345	4,800	408	1,800	477	3,000	538	2,200	611	8,500
346	5,000	409	10,500	478	6,800	539	3,600	613	2,000
347	3,000	410	5,200	479	2,200	540	4,200	616	2,000
348	110,000	411	3,000	480	3,300	543	6,000	618	3,000
350	2,000	412	3,000	482	6,200	544	41,000	619	2,800
351	3,000	414	9,000	483	4,000	545	2,400	621	9,000
352	3,000	415	10,000	484	2,000	546	3,000	622	4,200
353	4,000	416	14,500	485	5,200	547	4,600	623	3,000
354	19,000	417	5,000	486	2,400	548	3,000	625	6,000
355	5,400	423	3,600	488	1,000	549	80,000	626	6,000
356	3,000	426	230,000	489	15,500	550	3,400	627	7,200
357	4,583	427	10,500	490	2,600	551	5,200	628	5,000
358	4,000	428	3,800	491	2,200	552	9,500	629	6,000
359	18,500	429	3,600	492	2,800	554	3,000	630	13,500
361	1,100	430	12,000	493	667	555	4,000	631	3,300
362	6,200	431	3,000	495	13,500	556	3,200	634	5,500
363	23,000	432	3,000	496	1,800	557	8,500	636	5,000
364	8,500	433	5,500	497	9,000	558	41,000	638	17,500
365	43,000	435	3,000	498	6,200	559	9,500	639	62,000
366	3,000	436	10,500	499	7,200	560	6,400	641	21,000
367	26,000	437	5,000	500	3,000	564	2,600	642	17,000
368	16,500	439	2,500	502	2,000	565	8,500	648	6,600
369	3,600	442	3,200	503	2,000	566	31,000	649	14,500
372	3,600	443	5,800	505	4,000	567	3,000	651	7,600
373	6,000	446	8,500	507	3,000	570	2,000	652	5,600
376	5,500	448	6,600	509	3,200	572	3,000	653	3,000
377	3,000	450	2,400	510	16,000	573	2,000	654	4,200
378	6,200	451	22,000	511	10,000	580	6,000	655	12,000
380	5,000	453	3,000	512	66,000	581	4,000	656	11,500

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
657	3,700	713	23,000	772	4,000	830	10,500	895	3,000
659	1,800	714	10,500	773	8,000	831	4,400	897	6,200
660	3,000	715	10,500	774	27,000	832	7,200	898	21,000
662	3,200	716	3,000	775	3,000	835	90,000	899	3,200
663	2,400	719	3,800	776	5,000	836	7,600	900	4,000
664	3,200	720	2,750	777	5,000	837	21,000	901	2,000
665	4,400	721	4,900	778	5,000	838	26,000	903	2,000
666	4,700	722	3,000	779	8,800	839	5,000	904	3,600
667	1,600	723	3,200	780	5,000	840	5,000	905	14,500
668	3,600	724	10,000	781	2,400	841	5,000	906	7,000
669	1,800	725	4,200	782	5,800	844	4,000	907	9,500
670	2,000	726	22,000	783	5,000	845	8,000	909	3,600
673	4,000	727	3,000	784	30,000	847	20,000	912	10,000
674	3,200	728	7,800	786	1,600	848	4,200	913	21,000
675	4,700	729	13,000	787	3,200	849	5,000	914	21,000
676	6,800	730	4,200	788	3,000	850	11,000	915	21,000
677	3,600	731	11,500	789	5,000	851	6,000	917	50,000
679	6,600	732	13,200	790	2,750	852	60,000	918	6,800
681	3,000	733	10,000	792	8,000	853	9,000	919	5,000
682	2,200	734	33,000	794	9,500	854	3,200	920	8,500
683	4,400	738	15,000	795	10,000	855	4,000	923	3,200
684	4,583	739	9,000	796	5,000	856	43,000	925	4,000
685	6,417	741	14,500	797	8,000	859	20,000	930	3,200
686	23,000	742	5,000	798	4,000	861	32,000	933	12,500
687	14,500	743	25,000	800	3,000	863	12,000	934	4,000
688	3,200	744	20,000	801	5,000	865	4,000	936	26,000
689	18,000	749	6,000	802	5,200	866	2,000	937	3,200
690	15,000	750	21,000	803	7,600	867	3,000	938	9,500
691	23,000	751	32,000	804	12,500	868	24,000	939	11,000
692	15,500	752	5,000	807	5,000	869	2,800	943	2,000
693	15,500	753	7,200	808	4,200	871	3,000	944	3,000
694	6,400	754	10,000	809	5,000	872	16,500	946	2,000
695	18,500	755	120,000	810	5,000	873	25,000	948	3,000
696	6,400	756	5,000	811	5,000	874	17,600	949	30,000
697	19,000	758	9,500	812	3,000	877	3,000	950	7,000
698	3,000	759	2,000	813	3,000	878	5,800	953	3,600
699	52,000	760	2,000	814	5,000	879	4,600	955	6,000
702	2,400	761	10,000	815	5,000	880	10,000	959	8,800
703	10,000	762	3,000	816	3,400	881	3,000	960	4,200
704	7,200	763	8,500	817	5,000	882	85,000	961	2,000
705	3,000	764	2,200	819	46,000	883	5,000	962	4,800
706	3,700	765	11,000	820	12,000	886	3,000	963	31,000
707	38,000	766	7,333	821	20,000	887	4,800	964	12,500
708	2,600	767	3,400	822	5,800	888	3,000	965	34,000
709	2,200	768	3,400	823	20,000	890	44,000	966	3,000
710	36,000	769	12,500	826	43,000	891	12,000	967	7,200
711	7,000	770	4,800	827	6,000	892	3,200	968	4,100
712	2,000	771	3,000	829	13,500	893	10,000	969	6,400

Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値	Lot	落札値
970	260,000	1028	3,200	1092	3,200	1169	4,000	1235	20,000
971	6,400	1029	1,400	1098	15,000	1170	6,600	1236	8,500
973	30,000	1030	1,400	1099	18,500	1173	42,000	1237	3,000
974	14,000	1031	4,200	1100	11,500	1174	12,500	1238	2,000
975	18,000	1032	5,800	1101	9,500	1176	25,000	1239	9,500
976	6,800	1033	21,000	1106	5,000	1177	3,000	1240	9,000
977	15,000	1036	5,200	1109	5,000	1178	30,000	1242	6,800
978	7,200	1037	5,200	1110	9,500	1179	13,500	1243	2,400
979	6,200	1038	21,000	1112	14,500	1180	20,000	1244	4,200
980	4,200	1039	2,000	1114	5,000	1181	39,000	1245	4,200
981	5,200	1040	3,600	1116	5,000	1183	8,500	1246	36,000
982	5,600	1041	5,400	1118	35,000	1184	3,000	1247	15,500
983	10,500	1045	4,200	1119	5,000	1186	10,000	1248	4,000
984	3,600	1046	8,500	1121	3,400	1189	8,000	1249	3,000
985	3,400	1049	3,200	1122	7,400	1190	20,000	1250	100,000
986	4,200	1051	4,200	1123	3,000	1194	18,000	1251	26,000
987	10,500	1052	5,200	1124	3,400	1195	21,000	1252	6,200
988	2,000	1053	5,000	1126	12,500	1196	21,000	1253	3,400
990	7,200	1054	4,200	1127	5,200	1200	10,000	1254	20,000
991	8,500	1055	2,000	1128	7,200	1202	23,000	1255	12,500
992	21,000	1058	12,000	1129	7,200	1204	4,200	1256	7,200
994	52,000	1059	28,000	1130	10,000	1205	7,600	1257	4,600
995	7,200	1060	45,000	1132	6,200	1208	4,000	1258	4,000
996	4,800	1061	7,800	1133	6,800	1209	4,500	1259	4,000
997	19,000	1062	3,400	1134	4,000	1210	2,750	1260	3,000
999	30,000	1065	15,000	1135	36,000	1211	2,750	1261	6,400
1000	20,000	1066	15,000	1137	10,000	1212	917	1262	6,400
1002	2,300	1067	23,000	1139	7,000	1213	3,000	1263	12,500
1003	4,100	1068	3,200	1140	3,800	1214	6,200	1264	18,500
1004	4,100	1071	13,000	1142	31,000	1215	4,800	1265	4,000
1005	6,000	1072	10,000	1143	3,200	1216	3,800	1267	3,000
1006	4,100	1073	23,000	1144	6,200	1217	4,800	1268	4,000
1007	2,400	1074	5,000	1145	10,000	1218	5,200	1269	2,000
1008	2,300	1075	3,200	1148	3,200	1219	7,800	1270	3,000
1009	4,000	1076	6,800	1150	21,000	1220	8,500	1272	1,000
1012	3,000	1077	12,000	1151	64,000	1221	16,000	1273	3,000
1013	3,000	1078	11,000	1152	76,000	1222	9,000	1274	6,000
1014	5,000	1079	2,200	1153	25,000	1223	7,200	1275	3,000
1015	8,000	1080	3,400	1154	15,000	1224	4,800	1276	2,000
1016	5,000	1081	3,200	1155	36,000	1225	21,000	1278	5,000
1017	6,200	1082	5,200	1157	32,000	1227	14,000	1282	20,000
1020	125,000	1085	5,400	1158	15,500	1228	6,400	1284	4,000
1022	4,600	1086	7,200	1159	27,000	1229	29,000	1285	2,000
1023	5,200	1087	5,000	1160	135,000	1230	33,000	1286	5,000
1024	15,000	1088	9,000	1162	3,000	1231	5,800	1287	15,000
1025	15,000	1089	6,600	1163	7,800	1232	8,000	1288	4,000
1026	1,800	1090	18,000	1164	19,500	1233	6,800	1289	10,500
1027	4,200	1091	3,000	1165	15,500	1234	76,000	1290	10,500

Lot	落札値	Lot	落札値
1291	8,500	1350	3,000
1292	3,000	1352	3,000
1293	3,000	1354	4,000
1295	2,200	1355	5,000
1296	4,400	1356	2,200
1297	1,600	1357	3,000
1298	2,000	1359	6,000
1299	9,000	1360	5,000
1300	1,000	1362	4,000
1301	2,000	1364	3,000
1303	2,600	1366	12,000
1304	3,200	1368	4,000
1305	4,000	1369	3,000
1306	15,000	1370	4,000
1307	3,000	1371	4,000
1308	7,000	1372	5,400
1309	11,500	1373	4,000
1310	5,200	1374	3,300
1311	52,000	1375	1,833
1312	52,000	1376	5,000
1313	5,200	1377	3,000
1314	10,000	1378	6,000
1315	18,500	1379	3,300
1316	6,000	1380	3,000
1317	8,500	1381	4,000
1318	2,800	1382	2,600
1319	2,400	1383	3,600
1320	6,600	1384	5,400
1321	2,000	1385	16,000
1322	2,000	1386	6,600
1323	3,000	1387	2,800
1324	5,000	1388	13,000
1325	3,000	1389	3,000
1326	3,800	1390	9,500
1329	2,000	1391	600
1330	1,000	1392	2,000
1331	1,000	1393	2,000
1332	7,000	1394	3,000
1334	1,000	1395	1,000
1335	22,000	1396	2,000
1337	2,000	1397	1,000
1338	4,000	1398	2,000
1339	2,200	1400	4,200
1340	10,000	1401	4,200
1342	21,000	1402	6,200
1343	4,000	1404	27,000
1344	5,000	1405	9,000
1345	10,000	1406	125,000
1349	4,000		

2021 年冬の文献セール (2021.1.25 メール)

最終落札結果

成約品数 : 169 点
 成約率 : 94%
 成約総額 : 469,106 円
 事前入札者 : 80 人
 事前入札点数 : 406 ビッド

Lot	複	*	落札値
1	2		35,100
2	7		15,600
3	4		36,100
4	3		8,100
5	4		3,000
6	9		15,100
7	3		2,700
8	1		4,000
9	1		20,000
10			100
12	3		3,100
13	5		2,700
14	3		2,300
20			100
21	2		1,400
22	5		3,200
23	3		4,400
24	5		15,100
25	2		12,100
26	2		15,100
27	8		20,100
28			5,500
29			1,650
30	1		500
31	3		1,400
32	3		700
33	3		900
34	9		6,700
35	3		2,600
36	4		4,100

Lot	複	*	落札値
37	1		1,600
38	2		2,600
39	4		2,300
40	1		800
41	6		3,600
42	1		1,600
43	2		500
44	5		2,200
45	2		4,100
46	3		8,600
47	2		5,100
48	2		4,100
49	3		4,100
50	2	*	3,000
51	3		6,100
52	3		6,100
53	9		5,100
54	2		800
55	2		800
56			344
57			100
58	4		1,900
59			495
60	3		1,300
61	4		2,300
62	6		7,100
63	4		2,100
64	4		1,100
65	3		1,100
66	4		6,100

Lot	複	*	落札値
67	2	*	1,000
68			344
69	4	*	500
70	1		500
71			100
72	5		600
73	6		2,100
74			560
75	2		1,500
76	3	*	1,000
77	1		1,000
78	2		1,000
79	6		1,600
80	3		1,300
81			100
82	3		1,100
83	2		600
84			100
85	3		1,300
86	2		1,300
87			1,110
88	1		500
89	1		800
90			863
91	3		1,100
92			550
93	1		800
94	2		700
95	4	*	5,000
96			100
97	1		4,000
98	2		5,000
99	2		2,100
100	4		2,300
101	5		2,300
102	7		1,000
103	3	*	3,000
104	6		3,700

Lot	複	*	落札値
105			550
106	1		500
107	4		2,600
108	1		500
109			100
110	1		500
111	3		1,300
113	1		1,000
115	6		6,100
116	2		3,100
118	4		3,100
120	2		900
121	1		1,000
122	2		2,200
123			440
124	1		500
125	1		800
126	2		2,100
127	2		2,100
128	3		2,100
129	2		500
130	3		2,100
131	2		3,500
132	7		1,100
133			550
134	2		1,000
135			100
136			100
137	2		1,100
138	3		1,400
139	2		1,100
140	4		1,200
141	5		5,100
142	2		600
143	2		800
144	2		1,300
145	4		1,300
146	5		2,800

Lot	複	*	落札値
147			550
148			550
149	1		500
150			550
151	6		1,600
152	1		5,000
153	3		1,100
154	2		1,500
155	2		2,000
156	2		1,000
157			100
158	3		800
159	3		600
160	2		1,400
161	3		600
162	2		700
163	4	*	600
164	5		5,000
165	1		1,000
166	3		900
167	3		1,100
168	1		500
169	3		1,300

落札手数料を除く金額。「複」は事前入札数。「*」は同値事前入札あり。WD（出品取り消し）なし。

スタンペディアオークション 2021 年開催予定

5/1	17 回セール
5/25	春の文献セール
7/3	18 回セール
7/29	夏の文献セール
10/2	19 回セール
10/29	秋の文献セール

予定が変更になる場合は、ホームページ及び通常セールのカタログで案内します

取扱書籍のご案内

「スタンペディア日本版」会員は何冊注文しても送料は一律 300 円です。
会員以外に直販は行っておりません。注文締切：2021 年 4 月 7 日



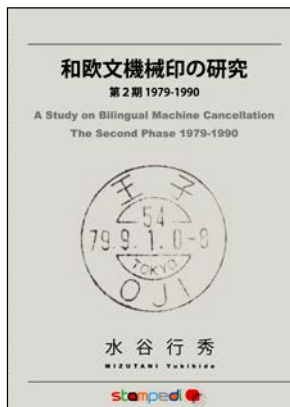
世界切手展 大金銀賞 受賞作品 カナダ・アドミラル・イシュー 伝統郵趣コレクション

国際展に3度出品され、PHILANIPPON 2011 では大金銀賞に輝いた、カナダ普通切手の伝統郵趣コレクションです。

全 128 ページを原寸フルカラーで収める書籍で、カナダ切手に関心のある方はもちろん、日本切手や外国切手の伝統郵趣作品に取り組む方には参考になる点が多い書籍です。

書籍名：カナダ・アドミラル・イシュー伝統郵趣コレクション
著 者：小林 彰

発 行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
体 裁：A4 判 約 132 ページ、フルカラー、オフセット印刷
価 格：990 円（消費税込、送料別）
発行日：2021 年 4 月 15 日



和欧文機械印の研究 第2期 1979-1990

本誌連載記事に最新の修正を加え記事を追加してまとめた「和欧文機械印」水谷本の決定版です。巻末の「和欧文機械印 第2期 一覧」には全使用局の最初期・最後期データと共に存在する標語などを掲載。

3 年前に発売の「和欧文機械印の研究 第1期 1968-1979」は短期間で版元完売しました。この分野にご関心のある方はぜひお早めのお求めをお勧めします。

書籍名：和欧文機械印の研究 第2期 1979-1990

著 者：水谷 行秀
発 行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
体 裁：A4 判 約 95 ページ、フルカラー、オフセット印刷
価 格：1,500 円（消費税込、送料別）
発行日：2021 年 4 月 15 日



簡易書留郵便の歴史 1961-1989

JAPEX2018 に出品された「簡易書留郵便の歴史（6 フレーム、大銀賞）」全ページをカラーで収めるコレクション＋解説本です。

なお本書は「スタンペディア日本版」機関紙フィラテリストマガジン第30号付録1として PDF 配信されたものを製本し発行するものです。

書籍名：簡易書留郵便の歴史 1961-1989

著 者：町屋 安男
発 行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
体 裁：A4 判 約 100 ページ、フルカラー、オフセット印刷
価 格：990 円（消費税込、送料別）
発行日：2021 年 4 月 15 日

マイスタンペディア、電子メールでのご注文以外は、郵便振替（P.163 に掲載）をご利用ください。

発行：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

会員からのおたより

「スタンペディア日本版」機関紙フィラテリストマガジンは、節目の30号を迎えました。これまでは記事の充実を第一に誌面作りをしてまいりましたが、機関紙として会員の皆様との交流も深めてまいりたいと考えています。

高野 昇郎様（奈良県）「ただいま『大日本帝国郵便切手沿革史』復刻版、到着しました。素晴らしい出来栄で、印刷物の復刻もこういう時代に入ったのかと驚き感激しました。いい出版物を出して頂いたとうれしく思っております。

鮮明な画像で、各ページは綴じしろまで複製されているので、現実感があります。表紙が固くなくて使いやすいなど、これまでの復刻出版とは違った心使いを感じました。

今後ぜひこういった出版を続けて下さい。

取り急ぎ、感想まで。1月30日』

高野さんの様な手彫切手の専門家にご満足いただき、ご評価いただけたことは、発行者として大変嬉しく思います。

廉価な単行本の出版および会員への十分な数量の提供は、「スタンペディア日本版」会員の皆様への特典の一つとして考えています。

バラエティに富む良質な書籍単行本の発行予定のストックがまだまだたくさんありますので、どうぞご期待ください。

菊池 達哉様（新潟県）「8月の国際展、acceptを信じて、finland material 強化しております。当院のワクチン接種は5月にずれ込みそうで、楽しみにしていた4月のスタンベックス参観は難しくなってきました。郷土の郵便印にはなんとか間に合って欲しいところです。

PHILANIPPON2021の一週間を夏季休暇とする予定です。盛り上がりたいですね プアーっと。」

昨年3月、New Zealand 2020は、国際展を急遽国内展に変えて開催されました。郵便創業150周年ということもあり、主催の日本郵便は催事を開催してくれるのではないかと私は期待しています。是非盛り上がりたいですね。

ただし、東京五輪2021に対する海外からの観客受け入れ方針を見ていると、PHILANIPPONも民間主催の展覧会になりましたので、海外からの審査員の入国には相当なお骨折りが必要ではないかと感じます。

なお郵趣振興協会の開催する展覧会は部分的にオンライン配信を開始予定です。ご利用下さい。

三木 和也様（京都府）「南方占領地切手を集める上で、加刷切手の真贋判定は非常に重要であり同時に難しいものです。

出先で南方切手に出会ったとき、真贋判定の助けとなるようなものが欲しいと常々思っていました。

そんな中、玉芙蓉コレクション本を見返しているとスキャン画像送付サービスがあると知り、この度利用いたしました。

おかげで出先で真贋判定をするのに役立ちそうですし、本では見えにくかった部分もじっくり細部まで眺めることができ、感無量です。ありがとうございました。」

元旦号外の年始挨拶でも書きましたが、フィラテリーの様な「収集趣味」において最もお金を費やすべきはマテリアル自身であり、周辺コストにお金がかかる状況であればあるほど、郵趣振興の条件は劣化すると考えています。

スタンペディアプロジェクト全体として、より安価に各種サービスを提供すること、その基盤としてのIT活用を更に進めて行きたいと考えていますので、どうぞご期待ください。

野々下 厚司様（奈良県）「(本年1月刊行書籍の発行部数が80部)へへえ、、、驚きの注文数ですなえ、、、

きれいに仕上がってます、リーフと同サイズなので作品の再現性として違和感ないですね、作者としてもいい本だねえ、、と感じます、ありがとうございました。」

こちらこそ素晴らしい作品を世の中にご共有くださいましたことに、感謝申し上げます。

フィラテリーが、他の収集趣味と決定的に異なる点は多様な展示の楽しみがあることだと私は考えています。

切手展でもインターネット上でも書籍でも、どれでも構いません。自分の収集したものを他人にプレゼンする形で発表できる点を生かして、より多くのコレクションが展示されたら良いな、と私は思いますし、また当プロジェクトがその一助となれば良いなと考えています。

1. 機関誌「フィラテリスタマガジン」のお届け

機関紙通常号本誌（付録含まず）を3/25、6/25、9/25、12/25 前後にお送りします。

* 受け取る冊子の判型を『A5 判(年会費 3,980 円)』『A4 判(年会費 9,980 円)』より選択できます。

2. 機関誌「フィラテリスタマガジン」2021 年発行分 PDF のダウンロード権利

3/15、6/15、9/15、12/15 の4回発行するほか、年数回の号外を発行予定です。

3. 書籍「日本郵趣記事索引 2021」のお届け

フィラテリスタマガジン等の郵趣記事索引を掲載した書籍(冊子)を2022年3月頃にお届けします。

4. 単行本販売時の優先取り扱い

当社発行書籍等をお申し込みいただく場合、非会員に比べて優遇した条件で販売する場合がございます。オンラインからの注文に関してはマイスタンペディアにてワンクリックでお申込みいただける仕組みも導入しております。

5. 提携先の「スタンペディアオークション株式会社」の優待サービスを受けられます

スタンペディアオークション株式会社(以下、同社)より「スタンペディア日本版」会員向け優待サービスが提供されており、同社が利用停止した方を除く全ての当会会員が利用できます。

(1) 毎回のセールカタログを、当会機関紙の郵送時に、同梱して受け取ることができます。

(2) 入札や下見にあたり、同社への会員登録の申し込みは不要で、当会会員の資格で参加できます。

(3) 事前入札において同値の場合、当会会員の取り扱いが優先されます。

(4) 一定条件を満たす事前入札に対して、入札確認通知の郵送を行います。

(5) **新企画**「落札品送料 5人に1人ただ」キャンペーンに参加できます。

会費有効期間 2021年1月1日ー12月31日

ご入会案内

1. まず、お受け取りになる冊子のサイズを『A4 判』か『A5 判』か、お決めください。
年会費は A5 判の場合 3,980 円、A4 判の場合 9,980 円 です。
2. 該当する金額を本ページ「送金先」欄のいずれかの方法でご送金ください。
3. ご連絡先（郵送先・電子メールアドレスのいずれか、もしくは両方）を当社にご連絡ください。
ご連絡先が分からない場合は、当社からはサービスの提供を開始できません。

ご寄稿案内

当誌は2013年12月に創刊された、総合郵趣雑誌（季刊）です。

フルカラー160ページの紙面を、フィラテリーに関する寄稿記事に最優先に割り当てています。「このような内容は掲載できるかな?」「他の郵趣雑誌ではページ数や編集の都合でうまく書けない/掲載できない」「連載で書きたい」「これまで寄稿を郵趣雑誌にしたことはないけれどぜひ書いてみたい」といったフィラテリストの情報発信を、本誌への寄稿記事で実現してみませんか?

「マテリアルは持っているのだけど、記事を書くまでではない」といった方には、『私の発見・私の報告』や『切手コレクションの紹介』への掲載のご相談も承ります。

- (1) ご寄稿にあたり、お送りいただきたいものは、テキストと画像です。画像については、200dpiのスキャナーやスマホカメラで撮影した写真を添付ファイルとしてお送りください。
- (2) (1) のような手段のない方はカラーコピーをご郵送ください。なお、お送りいただいた原稿、カラーコピーほか資料は返却しません。送付はなるべくUSBメモリをご活用ください。
- (3) いただいた原稿は、編集部で判断の上、編集して掲載いたします。手書き原稿もお引き受け可能ですが、キャパシティに上限がありますので、長文の場合は事前にご相談ください。

連絡先: tpm@stampedia.net

郵送先: 102-0083 海事ビル内郵便局留 スタンペディア 宛て
次号へのご寄稿締切日は、**2021年5月15日**です

あとがき

少しずつ暖かさを感じられるようになりました。桜の開花が待ち遠しい今日この頃です。早く花見ができる日常に戻って欲しいな。本誌は今号も読み応えたっぷりでお届けしております！

現在進行形でスタンベックスジャパン 2021 出品作品を半ベソかきながら作成している菊地ですが、少し時を遡りまだ余裕の日常を送っていたころのお話を。

2月、父が大手術をする事になり、久々に実家に帰省する事になりました。久々の帰省だな～と思いつつ新幹線の改札を通ろうとスマホをかざすも通れず。はて？と思い駅員さんに確認すると「お客様日付が間違っていますか？」あ、はい。間違っておりますね（笑）帰省序盤からこんな感じで、迎えた父手術の当日。この日は午前8時までに病院に行かねばなりません。病院へは車で50分ほどなので余裕をみて6時半に出発。午前7時 まだ着かない。午前7時半 まだ着かない。午前8時 まだまだ着かない。実はこの日に限って朝から雪。出発前はそれほどの降りではなく、これ位なら大丈夫でしょ。と思ったのが大誤算。着いたのは出発から2時間半後の午前9時すぎ。なんてこった！ごめんよ父！

そんなこんなで東京に戻る前日の夜。家族揃って掘りこたつでまったりしていたその時。午後11時08分。グラグラ――「地震？」まあ大丈夫でしょ。そう思った次の瞬間グツッと強い揺れに。揺れが強すぎてすぐに立ち上がれずそしてあたりは真っ暗に。そうです、先月発生した福島沖地震です。地元の町は「最大震度6強」。家の中はめっちゃめっちゃ、電気もつかない、余震の不安もあるので人生初の「車中泊」。幸い今回の地震では津波もなく原発も問題なし、ひとまずそれには安心しました。

今年は2021年です。東日本大震災から今月でちょうど10年。今でも当時の事を思い出すと色々な思いにかられます。

そして、その2011年にはいち参観者だったPHILANIPPONに今年は出品者としてエントリーしました。国際展でより良い結果を残すべくスタンベックスジャパン2021に出品します。開催まで1ヶ月を切りました。進捗、はッキリ言ってやばいです。いつもですが。。がんばります！（菊地）

書 名：スタンベディア日本版機関誌「フィラテリストマガジン」
号 数：第30号（2021年春号）
発行日：2021年3月30日
価 格：1,500円（消費税込）
発行部数：700部
発行者：無料世界切手カタログ・スタンベディア株式会社
発行人：吉田敬
編集部：菊地恵実、北川朋美
Name of the magazine: The Philatelist Magazine
Number: 30th (2021 Spring issue)
Date of issue: March 30th 2021
Price: 1,500 Yen
Number of printing: 700 copies
Publisher: Stampedia, inc. Takashi Yoshida
Editor: E. Kikuchi, T. Kitagawa

連絡先

- (1) 郵便 〒102-0083
海事ビル内郵便局留置
スタンベディア
- (2) F A X 03-6700-1585
- (3) 電子メール tpm@stampedia.net

送金先

- (1) ゆうちょ銀行 10060 14016181
 - (2) 楽天銀行 ロック支店 普通 7027345
 - (3) ゆうちょ振替口座 00100-4-515137
 - (4) Paypal order@stampedia.net
- * 加入者名はいずれも『無料世界切手カタログ・スタンベディア株式会社』です。

スタンペディアオークション

第17回セール

フロア 2021年5月1日(土) 12:30 切手市場第2会場
会場 東京都中央区日本橋富沢町8-10 綿商会館5階

年初予定の4月24日から、日程が1週間後ろにずれました。
日程変更に伴い、会場も変わりましたので、ご注意ください。



二つ折りはがき ロット番号49～88

セール回	開催日	フロアセール開催会場
第17回	5月1日	切手市場第2会場 (東京・日本橋)
第18回	7月3日	切手市場第2会場 (東京・日本橋)
第19回	10月2日	切手市場第2会場 (東京・日本橋)
第20回	2022年1月8日	切手市場第2会場 (東京・日本橋)

スタンペディアオークション株式会社

〒102-0083 千代田区麹町4-7-803 FAX: 03-6800-5384

auction@stampedia.net

<http://auction.stampedia.net>